茨城県教育財団文化財調査報告第351集

児 松 遺 跡 2

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平 成 24 年 3 月

国土交通省常総国道事務所
財 団 法 人 茨 城 県 教 育 財 団

茨城県教育財団文化財調査報告第351集

児松（こまつ）遺跡 2

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

調査区遠景（北側上空から）

第12号住居跡　土器片囲炉

序

茨城県では，県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために，高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに，広域的な交通ネットワークの整備を推進しています。

その一環として国土交通省が整備を推進している首都圏中央連絡自動車道は，都心部と中核都市を結ぶ３環状９放射の道路ネットワークです。道路網の整備により，首都圏の交通混雑が緩和されるほか，環境改善，経済効率の向上など，様々な効果が期待されます。しかしながら，その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である児松遺跡が所在し，記録保存の措置を講ずる必要があるため，当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け，平成19年１月からこれを実施しました。そのうち，平成19年に実施した調査の成果については，既に『茨城県教育財団文化財調査報告』第286集として平成20年３月に刊行したところです。

本書は，平成21年２月から３月及び平成21年７月の３か月間に行われた調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，稲敷市教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成24年３月

財団法人茨城県教育財団
理事長　鈴　木　欣　一

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成20・21年度に発掘調査を実施した茨城県稲敷市江戸崎字原乙460番地ほかに所在する児松（こまつ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成21年２月１日～３月31日

平成21年７月１日～７月31日

整理　平成23年４月１日～７月31日

3　発掘調査は，調査課長池田晃一のもと，以下の者が担当した。

平成20年度

首席調査員兼班長　三谷　正

主任調査員　大関　武

主任調査員　市村俊英

平成21年度

首席調査員兼班長　成島一也

主任調査員　市村俊英

調査員　大久保隆史

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長原信田正夫のもと，以下の者が担当した。

主任調査員　小川貴行　第３章第３節～第４節

調査員　松林秀和　第１章～第３章第２節

5　本書を作成するにあたり，当遺跡から出土した貝の同定及び分析については国立歴史民俗博物館教授西本豊弘氏，石材鑑定については独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館名誉館長青木正博氏にご指導いただいた。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝－5,600 m，Y＝＋43,120 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1区」「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」，「B 2 b2区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　SD－溝跡　SI－竪穴住居跡　SK－土坑・墓坑の可能性がある土坑　TP－陥し穴

遺物　DP－土製品　G－ガラス製品　M－金属製品　Q－石器・石製品　TP－拓本記録土器

土層　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は500分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

□ 焼土・施釉　　□ 炉・火床面・繊維土器断面

□ 炭化材・貝層　　□ 柱あたり

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　☆ガラス製品　－－－－ 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。計測値の単位はm，cm，kg，gで示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

6　竪穴住居跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　遺構番号については，各遺構毎に既調査時の最終番号の次から付した。

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
児松遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 4
第２章　位置と環境 …… 5
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　調査の成果 …… 13
　第１節　調査の概要 …… 13
　第２節　基本層序 …… 13
　第３節　遺構と遺物 …… 14
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 14
　　(1) 竪穴住居跡 …… 14
　　(2) 土坑 …… 22
　　２　弥生時代の遺構と遺物 …… 40
　　竪穴住居跡 …… 40
　　３　古墳時代の遺構と遺物 …… 56
　　竪穴住居跡 …… 56
　　４　中世・近世の遺構と遺物 …… 60
　　(1) 墓坑の可能性がある土坑 …… 60
　　(2) 溝跡 …… 63
　　５　その他の遺構と遺物 …… 66
　　(1) 土坑 …… 66
　　(2) 溝跡 …… 81
　　(3) 遺構外出土遺物 …… 81
　第４節　まとめ …… 84
写真図版
抄　録

児松遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

児松遺跡は，稲敷市（旧江戸崎町）の西部に位置し，沼里川と小野川に挟まれた標高 20 mほどの舌状台地縁辺部に立地しています。一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設工事にともない，遺跡の内容を記録して保存するため，茨城県教育財団が平成 18 年度の第 1 次調査に続き，平成 20・21 年度に第 2 次調査を行いました。

調査の内容

第 2 次調査では 2,631㎡を調査し，縄文時代中期後葉から後期初頭（約 4,000 年前），弥生時代後期（約 1,800 年前），古墳時代前期（約 1,700 年前）の集落跡がそれぞれ確認できました。主な出土遺物は，縄文土器，弥生土器，土師器，土製品（土器片錘・土器片円盤・紡錘車・土玉），石器（鏃・磨石・石錘・凹石），ガラス製品（小玉），貝（ハマグリ・ヤマトシジミ）などです。

北西上空から望む当遺跡（手前が今回の調査区）

土器片囲炉を有する縄文時代の住居跡

炉と柱の跡が残る弥生時代の住居跡

弥生土器と紡錘車

第１号溝跡の調査風景

調査の結果

第１次調査では，縄文時代中期後葉の竪穴住居跡と土坑が確認されました。今回の調査では，新たに縄文時代後期初頭の竪穴住居跡と土坑，弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡が確認でき，集落は断続的に営まれ，北西側に広がりを持っていることが確認できました。

縄文時代の住居跡からは，県南部では調査例が多い，土器片で炉を構築した土器片囲炉が確認できました。弥生時代の住居跡は，後期前葉を主体として７軒が確認できました。弥生時代の遺物は，土器の他に糸を紡ぐ道具の紡錘車や装飾品のガラス製小玉が出土しました。

また，縄文時代の土坑から確認された貝はハマグリやシオフキで，古墳時代の住居跡から確認された貝はヤマトシジミです。これらの貝は，霞ヶ浦が淡水化に至る過程を示した資料であり，先学の研究結果を裏付けています。

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は，稲敷市において一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業を進めている。

平成 16 年９月 29 日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成 17 年３月８日に現地踏査を，平成 18 年７月４・５日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成 18 年８月 10 日，茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，事業地内に児松遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成 18 年 10 月 12 日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第 94 条に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成 18 年 10 月 13 日，茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，児松遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

平成 18 年 10 月 23 日，茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長及び財団法人茨城県教育財団理事長に対して，一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる平成 18 年度埋蔵文化財発掘調査計画の変更についての協議書を提出した。平成 18 年 10 月 24 日，財団法人茨城県教育財団理事長は，茨城県教育委員会教育長あてに，児松遺跡の発掘調査計画の変更について同意する旨の回答をし，平成 18 年 10 月 26 日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに，児松遺跡の発掘調査計画の変更について同意する旨の回答があった。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査業務について委託を受け，平成 19 年１月１日から３月 31 日まで第１次調査を実施した。

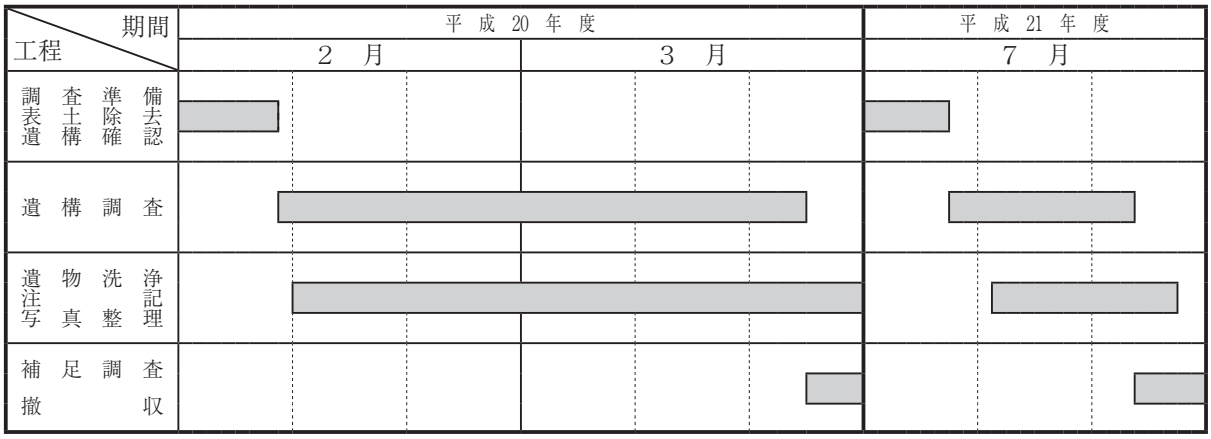
平成19年３月15・16日，茨城県教育委員会は，児松遺跡の試掘調査を再度実施した。平成19年３月23日，茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，事業地内に児松遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成 20 年２月 25 日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成 20 年２月 26 日，茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，児松遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査業務について委託を受け，平成 21 年２月１日から３月 31 日，及び平成 21 年７月１日から７月 31 日まで第２次調査を実施した。

第２節　調　査　経　過

第２次調査は，平成21年２月１日から３月31日，及び平成21年７月１日から７月31日までの３か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節　地 理 的 環 境

児松遺跡は，茨城県稲敷市江戸崎字原乙460番地ほかに所在している。

遺跡が所在する稲敷市は，茨城県の南部に位置し，北は霞ヶ浦南岸に面し，東は横利根川，南は利根川を挟んで千葉県と境を接している。地形は，稲敷台地と呼ばれる標高20～30ｍの洪積台地と，小野川を含む霞ヶ浦水系と利根川水系による沖積低地からなっている。市域の稲敷台地は，小野川右岸の神宮寺台地と左岸の江戸崎台地に分かれ，いずれの台地上もごく緩やかな起伏をもち，縁辺部は多数の谷津が複雑に入り組み，樹枝状に開析されている。稲敷台地の地層は，成田層を基盤として，成田層下部，成田層上部，龍ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層，表土層の順に堆積している。堆積状況は，水平かつ単調である[1)]。

当遺跡は，小野川と沼里川に挟まれた標高20ｍほどの舌状台地縁辺部に立地しており，東西方向になだらかに傾斜している。第２次調査の調査区は遺跡の西部にあたり，調査前の現況は畑地，栗林，宅地である。

第2節　歴 史 的 環 境

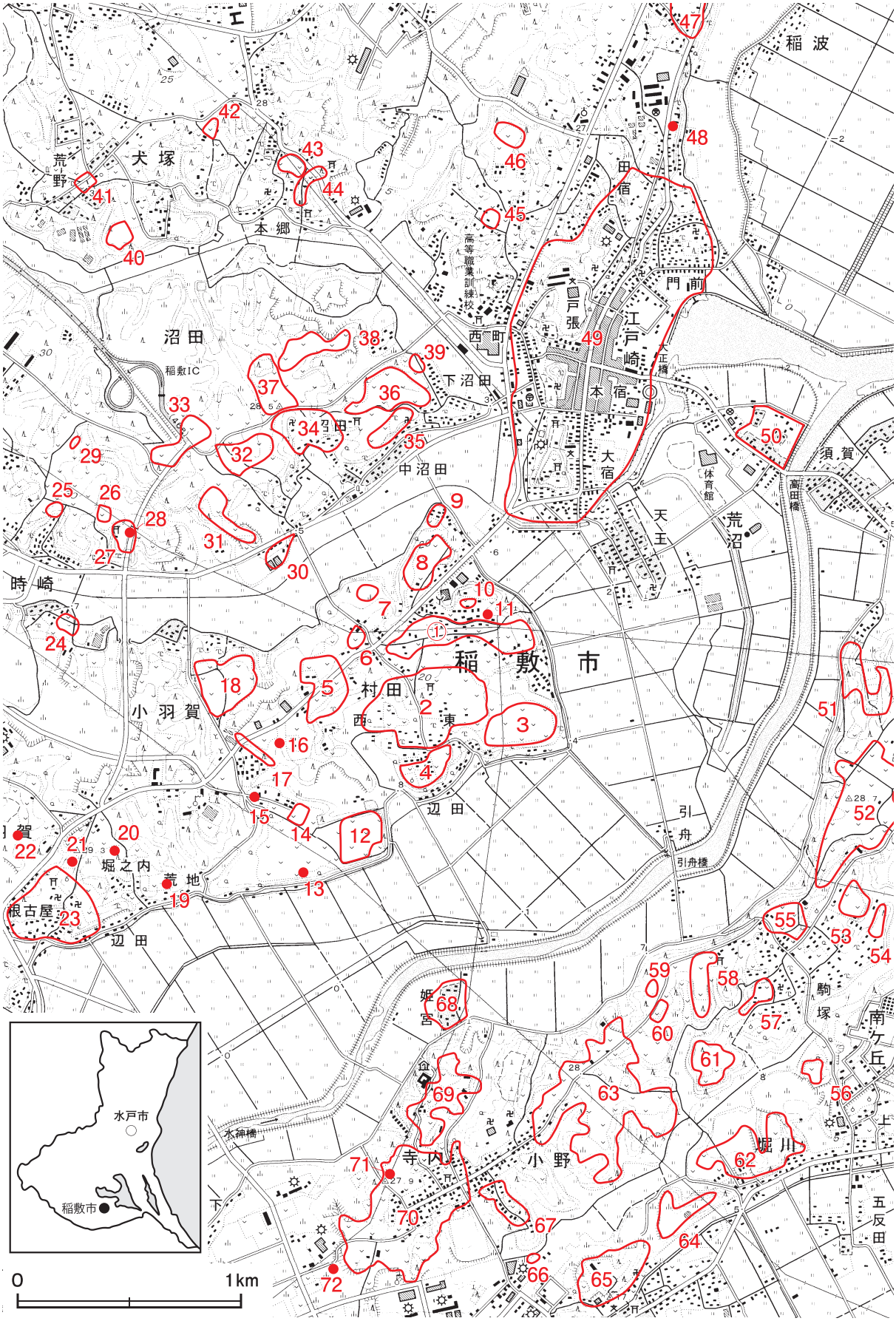
児松遺跡の所在する地域は，台地，低地，河川，湖沼と変化に富んだ自然環境を示し，旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは，当遺跡周辺に分布している遺跡を中心に概要を記述する。

旧石器時代の遺跡は，当遺跡と隣接する台地南側の中峰遺跡〈2〉で，石器集中地点５か所，炭化物・焼土集中地点が確認されている。彫器，ナイフ形石器を含む359点の石器が出土しており，石器製作跡と考えられている[2)]。また当遺跡でも第１次調査で，尖頭器と細石刃が出土している[3)]。

縄文時代になると遺跡数が増加し，当遺跡周辺でも，村田貝塚〈5〉，椎塚貝塚〈51〉，神田道貝塚〈18〉，沼田貝塚〈37〉，吹上貝塚〈47〉など多数の貝塚が確認されている。村田貝塚は，鹹水産のハマグリ，シオフキ，アカニシ等を主体とした前期から中期の貝塚であり[4)]，縄文海進時には，今の霞ヶ浦水域や低地にも海が進入したことがうかがえる。後期の椎塚貝塚は，獣骨製のヤスがタイの頭骨に突き刺さった状態で出土したことで知られている[5)]。また，楯の台古墳群[6)]，思川遺跡[7)]で早期の炉穴，豆薬師北遺跡[8)]〈7〉で早期から前期・晩期の住居跡，東前遺跡[9)]〈27〉，中佐倉貝塚[10)]で前期の住居跡と地点貝塚，中峰遺跡で中期の土坑がそれぞれ確認されている。当遺跡でも第１次調査にて，中期後葉の住居跡１軒のほか，陥し穴，土坑，遺物包含層が確認されている。

弥生時代の遺跡は，近年，後期集落の調査例が増加している。小野川左岸では堂ノ上遺跡[11)]〈3〉，沼里川左岸では塚本遺跡[12)]〈31〉，霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸では楯の台古墳群，大日山古墳群[13)]，思川遺跡，秋平遺跡[14)]で，住居跡がそれぞれ確認されている。この内，大日山古墳群は，土器の様相から集落形成の時期が中期後葉まで遡ることが判明している。また，思川久保遺跡[15)]でも当該期の住居跡が確認されている。

古墳時代の遺跡は，台地上や縁辺部に集落跡と古墳が隣接するように点在している。小野川左岸では，堂ノ上遺跡で５世紀後葉から６世紀前葉にかけての住居跡を主体とした集落跡が確認されており，竈導入期の集落の様相が明らかになっている。また，中峰遺跡では前・後期の住居跡が確認されている。沼里川左岸では，東前遺跡で前期から後期，塚本遺跡で中期，沼里川を挟み塚本遺跡の対岸に位置する豆薬師北遺跡で前期の住居



第１図　児松遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「江戸崎」）

表１　児松遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	児松遺跡	○	○	○	○		○	○
2	中峰遺跡	○	○		○	○	○	
3	堂ノ上遺跡		○	○	○	○		
4	塙遺跡		○				○	
5	村田貝塚		○		○		○	
6	豆薬師遺跡		○		○		○	
7	豆薬師北遺跡		○		○		○	
8	狸崎遺跡		○		○			
9	狸崎北遺跡				○			
10	原南遺跡		○					
11	見晴塚古墳				○			
12	栗山遺跡		○		○			
13	亀ヶ谷城古墳				○			
14	羽賀栗山遺跡		○					
15	大日古墳				○			
16	山後古墳				○			
17	山後遺跡						○	
18	神田道貝塚		○					
19	荒地平古墳				○			
20	荒地古墳				○			
21	中城古墳				○			
22	木納場古墳群				○			
23	羽賀城跡						○	
24	神明平遺跡				○			
25	時崎平遺跡				○			
26	宮後遺跡				○			
27	東前遺跡		○	○	○	○		
28	東前古墳群				○			
29	原久保遺跡				○			
30	浅間山古墳群				○			
31	塚本遺跡			○	○	○	○	
32	中道遺跡		○		○	○	○	
33	自穢前遺跡				○	○	○	
34	沼田遺跡						○	
35	亀台古墳群			○				
36	柿作台遺跡					○		

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
37	沼田貝塚		○					
38	大夫屋敷遺跡				○	○		
39	辺田後遺跡				○	○		
40	大門遺跡		○		○			
41	荒野遺跡		○		○			
42	八幡台遺跡		○					
43	明神貝塚		○					
44	犬塚遺跡						○	○
45	新山遺跡		○					
46	新山西遺跡				○	○	○	
47	吹上貝塚		○	○				
48	外浦古墳				○			
49	江戸崎城跡						○	○
50	御城遺跡						○	
51	椎塚貝塚		○					
52	宮前遺跡		○		○	○		
53	代遺跡		○		○			
54	奥山遺跡		○		○			
55	駒塚貝塚		○		○	○		
56	天王台遺跡				○			
57	原屋敷遺跡				○		○	
58	駒塚台上遺跡		○		○	○		
59	大塚山古墳				○			○
60	駒塚荒久遺跡		○		○			
61	原山遺跡				○			
62	八幡台遺跡(旧新利根町)		○	○	○	○		
63	小野遺跡		○		○	○	○	○
64	秋葉台遺跡				○	○		
65	東条城跡				○	○	○	
66	池遺跡				○			
67	勝ヶ台遺跡		○		○	○		
68	姫宮遺跡				○		○	
69	湯崎遺跡		○		○	○		
70	寺内遺跡		○		○	○	○	○
71	道成寺貝塚		○					
72	伊作津貝塚		○					

跡が，それぞれ確認されている。霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸では，池平遺跡[16]で前期から後期，大日山古墳群，中佐倉貝塚で中･後期，二の宮貝塚[17]，思川遺跡，秋平遺跡で後期の住居跡がそれぞれ確認されている。また，楯の台古墳群では前期から後期の住居跡と，後期の古墳群が確認されている。この古墳群は，全長約40 mの前方後円墳が主墳で，箱式石棺が確認されている。水神峯古墳では内部赤彩の箱式石棺が確認され，出土した武具・馬具などの副葬品から６世紀前葉の築造と考えられている[18]。

奈良・平安時代の当地は信太郡に属し，当遺跡が所在する小野川左岸一帯は駅家郷内に比定されている[19]。当遺跡の南西方約４km に所在する下君山廃寺は，信太郡の郡寺跡と推定されている[20]。当遺跡周辺では，沼里川左岸の塚本遺跡・東前遺跡で９世紀，小野川左岸の堂ノ上遺跡で９・10 世紀の住居跡が，それぞれ確認されている。

平安時代末期には古代の郡の解体が進み，信太郡は小野川を挟んで東に東条庄，西に信太庄がそれぞれ立庄され，中世へとつながっていく。城館遺跡は，利根川左岸の東条城跡〈65〉，霞ヶ浦南岸の神宮寺城跡，小野川左岸の羽賀城跡〈23〉，御城遺跡〈50〉，二重堀遺跡などが存在している。また，当遺跡と隣接する中峰遺跡では，地下式坑，火葬土坑，墓坑などが確認され，墓域と考えられている。

南北朝時代末期には当地は山内上杉氏の支配下におかれ，やがてその被官である土岐原氏が当地に赴任する。小野川左岸の江戸崎城跡〈49〉は土岐原（土岐）氏の居城跡で，江戸崎城を本拠に霞ヶ浦対岸の行方一帯まで勢力を有した常南の地頭領主として知られている。しかし，北条氏と結んだため，天正 18（1590）年には豊臣秀吉の関東平定の余波を受けて，江戸崎城を明け渡す。その後，佐竹義宣の実弟芦名盛重が城主となるが，慶長７（1602）年に徳川家康によって秋田角館に移封となる。盛重の移封後は青山忠俊が城主となるが，間もなく江戸崎城は廃城となった。

※　文中の〈　〉内の番号は，表１，第１図の該当遺跡番号と同じである。

註

１）蜂須紀夫編『茨城県　地学のガイド』コロナ社　1977 年８月

２）本橋弘巳「中峰遺跡　児松遺跡　一般国道 468 号線首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第 286 集　2008 年３月

３）註２）に同じ

４）茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会編『茨城県史料　考古資料編－先土器・縄文時代－』茨城県　1979 年３月

５）註４）に同じ

６）間宮正光・高野浩之・平岡和夫『楯の台古墳群　第２・３次発掘調査報告書』江戸崎町教育委員会　2001 年３月

７）鈴木美治「一般県道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　二の宮貝塚・大日山古墳群・思川遺跡」『茨城県教育財団調査報告』第 65 集　1991 年３月

８）芳賀友博・小野政美「塚本遺跡　豆薬師北遺跡　谷ツ道遺跡　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書　一般国道６号牛久土浦バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第 310 集　2009 年３月

９）早川麗司・作山智彦「東前遺跡　主要地方道江戸崎新利根線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第 318 集　2009 年３月

10）大賀健・平田満男・小林園子『秋平遺跡・池平遺跡・中佐倉貝塚　ザ・インペリアル・ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』江戸崎町佐倉地区遺跡発掘調査会　1999 年７月

11）前島直人・作山智彦・早川麗司「堂ノ上遺跡　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第 309 集　2009 年３月

12）註８）に同じ

13）註７）に同じ

14）註 10）に同じ

15）茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡・古墳発掘調査報告書Ⅶ（平成２・３年度）』茨城県教育委員会　1993 年３月

16）註 10）に同じ

17）註７）に同じ

18）間宮正光『姫宮古墳群１・２号墳・水神峯古墳』江戸崎町教育委員会　2000 年 10 月

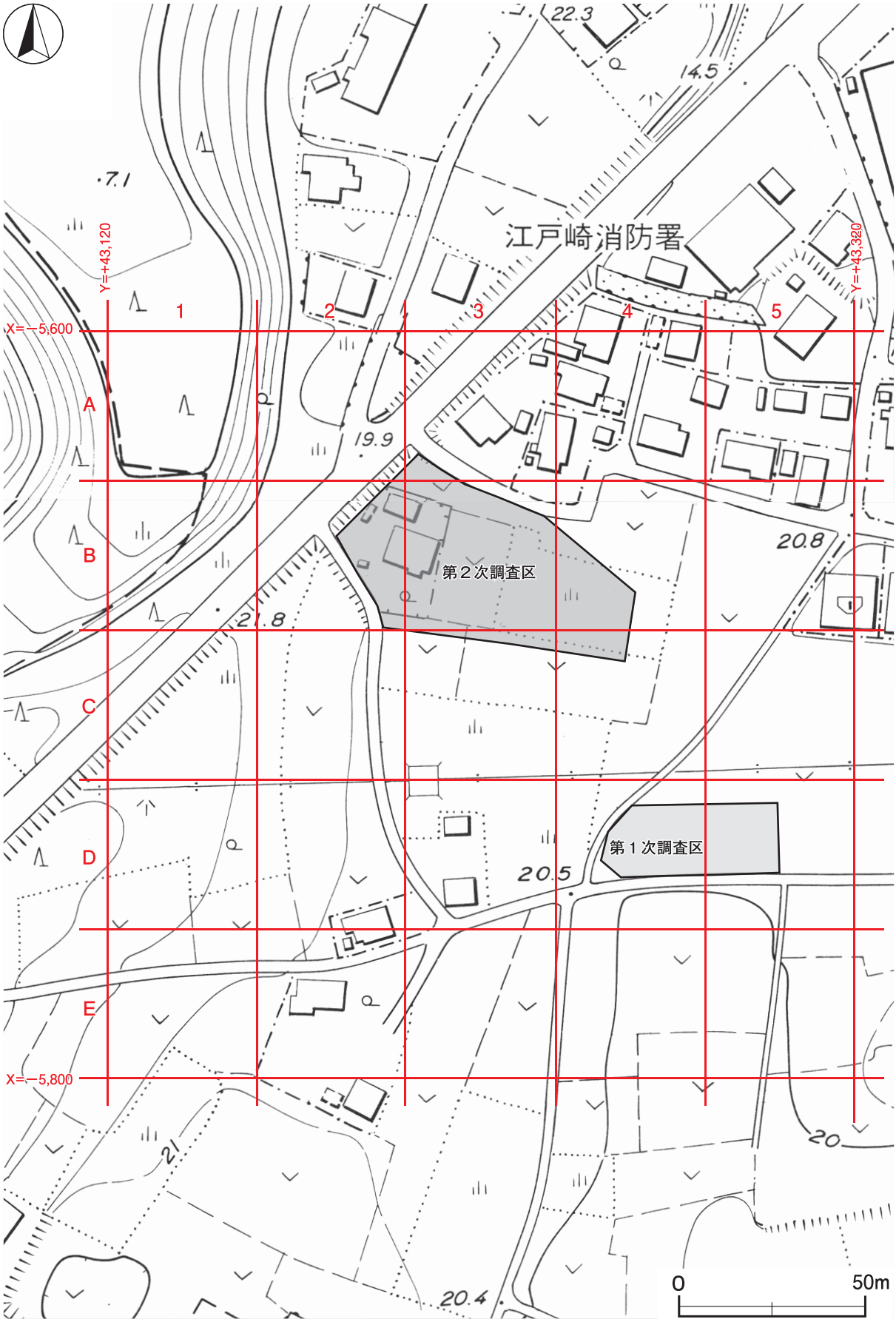
19）中山信名著・栗田寛補『宮崎報恩会版　新編常陸国誌』崙書房　1979 年 12 月

20）瓦吹堅・佐藤正好・黒沢彰哉『学術調査報告書４　茨城県における古代瓦の研究』茨城県立歴史館　1994 年３月

参考文献

茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001 年３月

江戸崎町史編さん委員会『江戸崎町史』江戸崎町　1997 年３月



第２図　児松遺跡調査区設定図（「江戸崎都市計画図 1,500 分の１」から作成）

第３図　児松遺跡遺構全体図

第３章　調　査　の　成　果

第１節　調 査 の 概 要

児松遺跡は，稲敷市の西部に位置し，標高約 20 ｍの沼里川と小野川に挟まれた舌状台地上に立地している。調査面積は 2,631㎡で，調査前の現況は畑地，栗林，宅地である。

調査の結果，竪穴住居跡 13 軒（縄文時代４・弥生時代７・古墳時代２），墓坑の可能性がある土坑９基（中世・近世），溝跡４条（中世・近世２，時期不明２），土坑 127 基（縄文時代 19，時期不明 108）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に 21 箱出土している。主な出土遺物は，縄文土器（深鉢・ミニチュア土器），弥生土器（壺・甕），土師器（椀・器台・鉢・壺・甕），須恵器（坏・甕），土師質土器（皿・鍋），陶器（碗・甕），磁器（碗・香炉ヵ），土製品（土器片錘・土器片円盤・紡錘車・土玉・管状土錘），石器（石鏃・磨石・敲石・石錘・凹石・砥石），金属製品（釘・天秤針ヵ），銭貨（元祐通寶），瓦（丸瓦），ガラス製品（小玉），貝（ハマグリ・シオフキ・サルボウ類・ヤマトシジミ）などである。

第２節　基　本　層　序

調査区南東部（Ｃ４b5 区）にテストピットを設定し，地表面から深さ 2.3 ｍまで掘り下げて基本層序（第４図）の確認を行った。土層は８層に分層でき，観察結果は以下のとおりである。

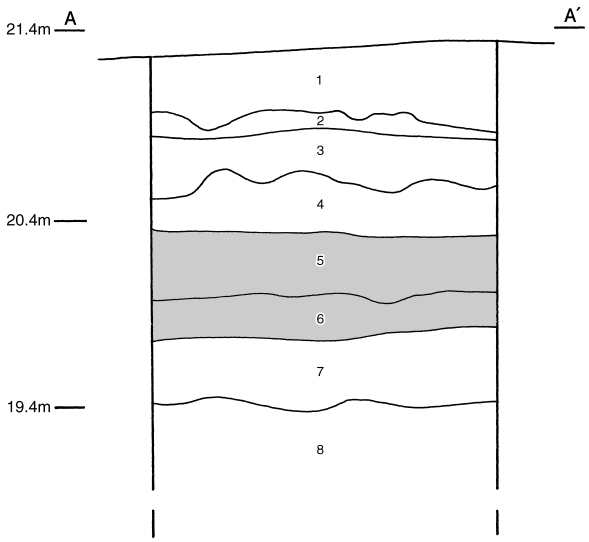
第１層は，暗褐色を呈する耕作土である。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量に含み，粘性・締まりともに弱い。層厚は 30 ～ 48㎝である。

第２層は，褐色を呈するソフトローム層への漸移層である。焼土粒子・炭化粒子を微量に含み，粘性・締まりともに弱い。層厚は４～ 20㎝である。

第３層は，褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量に含み，粘性・締まりともに普通である。層厚は 10 ～ 34㎝である。

第４層は，明褐色を呈するハードローム層で，クラックが発達している。ガラス質の粒子，姶良 Tn 火山灰（ＡＴ）を含む層に比定される。黒色粒子・赤色粒子・白色粒子を微量に含み，粘性・締まりともに強い。層厚は 14 ～ 34㎝である。

第５層は，褐色を呈するハードローム層で，上層より色調が暗い。黒色粒子・赤色粒子・白色粒子を微量に含み，粘性･締まりともに強い。層厚は 24 ～ 38㎝である。第２黒色帯の上部に相当すると考えられる。



第４図　基本土層図

第６層は，にぶい褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子・赤色粒子を微量に含み，粘性・締まりともに強い。層厚は 14 ～ 24cmである。第２黒色帯の下部に相当すると考えられる。

第７層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層で，粘性・締まりともに強い。層厚は 28 ～ 44cmである。

第８層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。常総粘土層の漸移層で，上層より粘性・締まりが強い。層厚は未掘のため，不明である。

遺構は，第２層の上面で確認できた。

第３節　遺 構 と 遺 物

１　縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡４軒，土坑 19 基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第９号住居跡（第５・６図）

位置　調査区中央部のＢ３j5 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

規模と形状　長径 3.60 ｍ，短径 3.25 ｍの楕円形で，主軸方向はＮ－ 69゜－Ｗである。壁高は６～ 25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，炉の周囲と壁際を除き硬化している。

炉　中央部の東寄りに付設されている。長径 55cm，短径 40cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から 15cmの深さに位置する第５～７層上面と考えられるが，赤変硬化は認められない。第５～７層は，掘方への埋土である。

炉土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
3	灰　褐　色	黒色粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐　　色	焼土ブロック中量，ローム粒子・黒色粒子少量，炭化粒子微量
5	黒　褐　色	ローム粒子・黒色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	にぶい黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量，焼土粒子微量
7	黄　褐　色	ロームブロック中量，黒色粒子微量

ピット　12 か所。Ｐ１～Ｐ 12 は深さ 13 ～ 41cmで，規模にややばらつきはあるが，炉を中心に環状に巡っていることから柱穴と考えられる。Ｐ４～Ｐ７・Ｐ９・Ｐ 12 の底面に，径 10cmほどの柱のあたりとみられる円形の硬化範囲が認められる。

土器埋設ピット　南壁際の床面を 17cm掘り込んで，底部を欠く深鉢が正位で埋設されている。掘方は径 30cmほどの円形である。

覆土　20 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

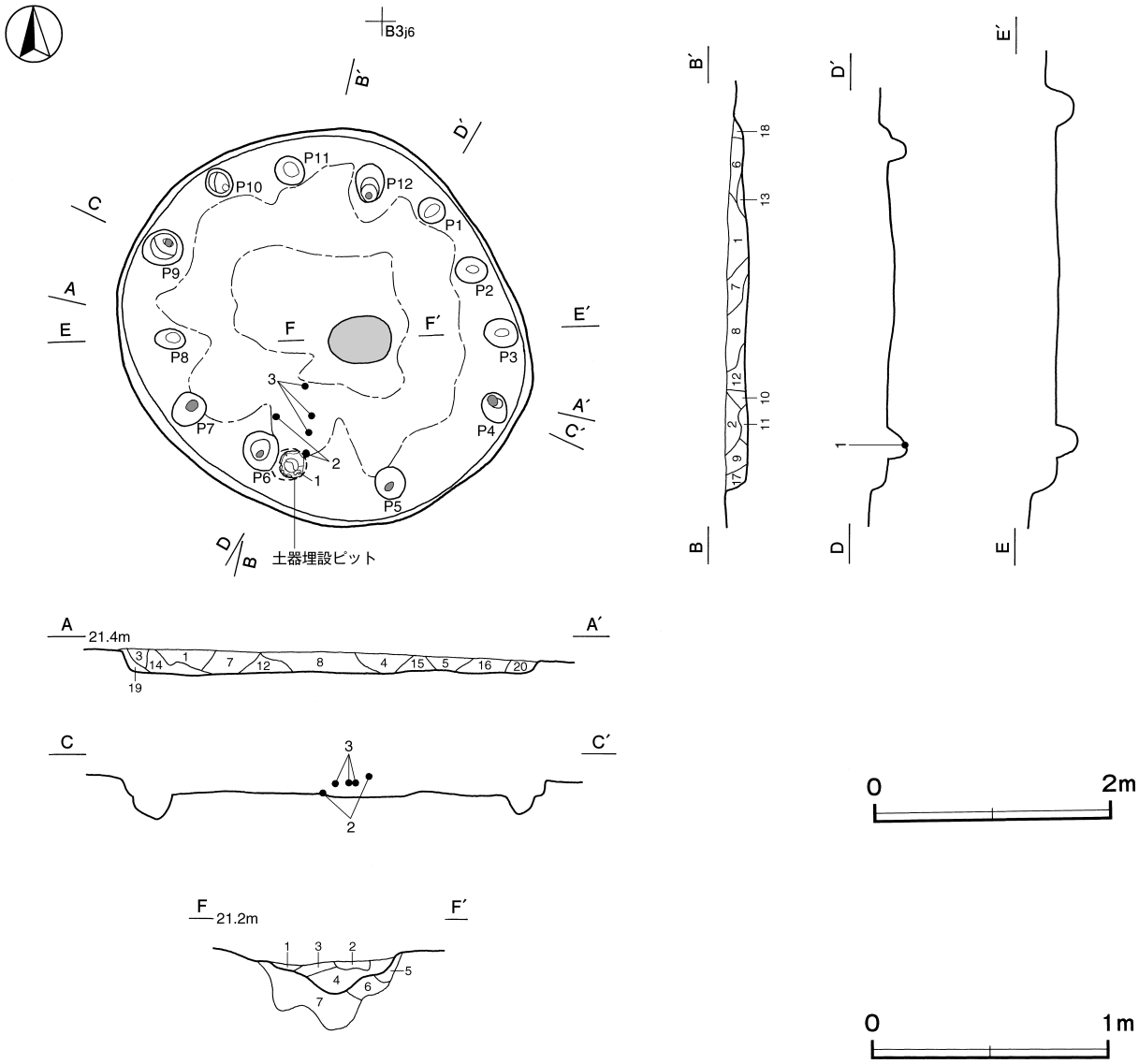
土層解説

1	褐　　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗　褐　色	ロームブロック・黒色粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	黒色粒子中量，ロームブロック少量
4	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック・黒色粒子微量
5	にぶい黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量，焼土粒子微量
6	褐　　色	ロームブロック・焼土粒子・黒色粒子微量
7	黒　褐　色	ロームブロック・黒色粒子少量
8	暗　褐　色	ロームブロック・黒色粒子少量，焼土粒子微量
9	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子・黒色粒子少量
10	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・黒色粒子微量

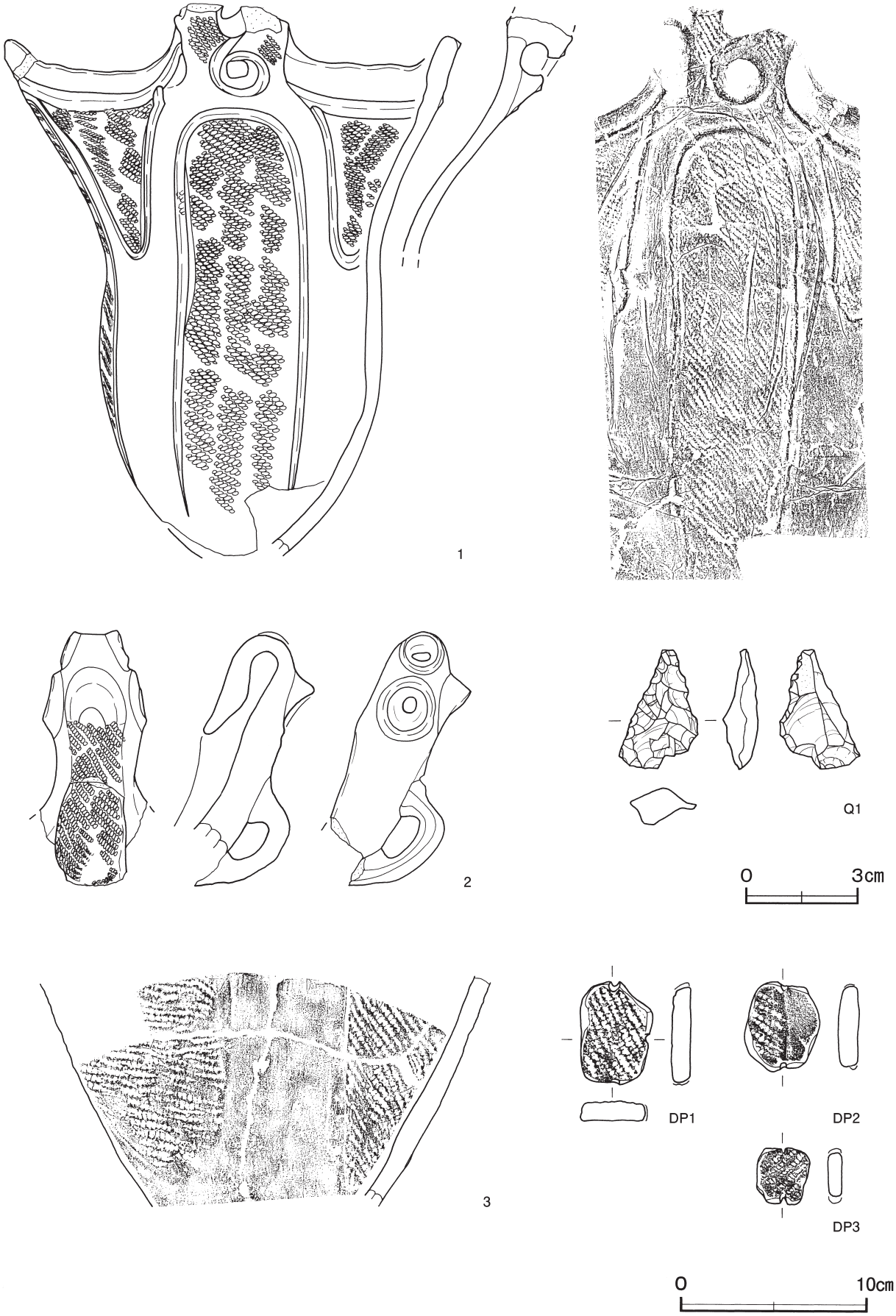
11　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子中量，焼土粒子微量
13　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
15　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
16　にぶい黄褐色　黒色粒子少量，ロームブロック微量
17　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
18　褐　　色　ロームブロック・黒色粒子微量
19　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子少量
20　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片397点，土製品３点（土器片錘），石器１点（石鏃未製品ヵ），剥片２点のほか，混入した弥生土器片２点が出土している。１の深鉢は，南壁際の床面に埋設された土器である。２は，南壁寄りの覆土下層と覆土上層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。３は，中央部の南寄り，覆土上層から散在して出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第５図　第９号住居跡実測図



第6図　第９号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表（第６図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	23.7	(29.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部直下に微隆帯が巡る　胴部は微隆帯で文様を描出　LR の単節縄文	土器埋設ピット	90%　PL12
2	縄文土器	深鉢	－	(13.7)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	中空で橋状の把手を有する　RL の単節縄文	覆土下層 覆土上層	５％　PL13
3	縄文土器	深鉢	－	(12.0)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	２本一組の微隆帯による懸垂文　LR の単節縄文	覆土上層	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 1	土器片錘	5.5	4.9	1.0	－	26.7	長石・石英	両端・側縁にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	覆土中	PL13
DP 2	土器片錘	4.8	4.0	1.1	－	19.5	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	覆土中	PL13
DP 3	土器片錘	3.0	2.8	0.8	－	9.0	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　RL の単節縄文	覆土中	PL13

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 1	石鏃ヵ	3.2	2.1	0.9	3.3	黒曜石	未製品　側縁部に二次加工痕を有する	覆土中	

第 12 号住居跡（第７・８図）

位置　調査区中央部のＣ３a2 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 13 号住居跡を掘り込み，第 128・141 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，南北径 3.90 ｍ，東西径 5.10 ｍしか確認できなかった。平面形は，径５ｍほどの円形と推定できる。壁高は 17 ～ 19㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　東側にやや傾斜している。炉の周囲と壁際を除き硬化している。

炉　中央部の北寄りに付設されている。土器片で周囲を囲った，径 50㎝ほどの土器片囲炉である。径が 90㎝ほどで，深さ 33㎝の皿状の掘方に埋土をし，炉を構築している。炉床は床面から 15㎝の深さに位置する第５層上面で，火を受けて赤変硬化している。第５～ 11 層が掘方への埋土である。

炉土層解説

1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
2　暗　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量，黒色粒子微量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，黒色粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，黒色粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量，黒色粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
9　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック中量

ピット　12 か所。Ｐ１～Ｐ 12 は深さ 19 ～ 36㎝で，規模にややばらつきはあるが，炉を中心に環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

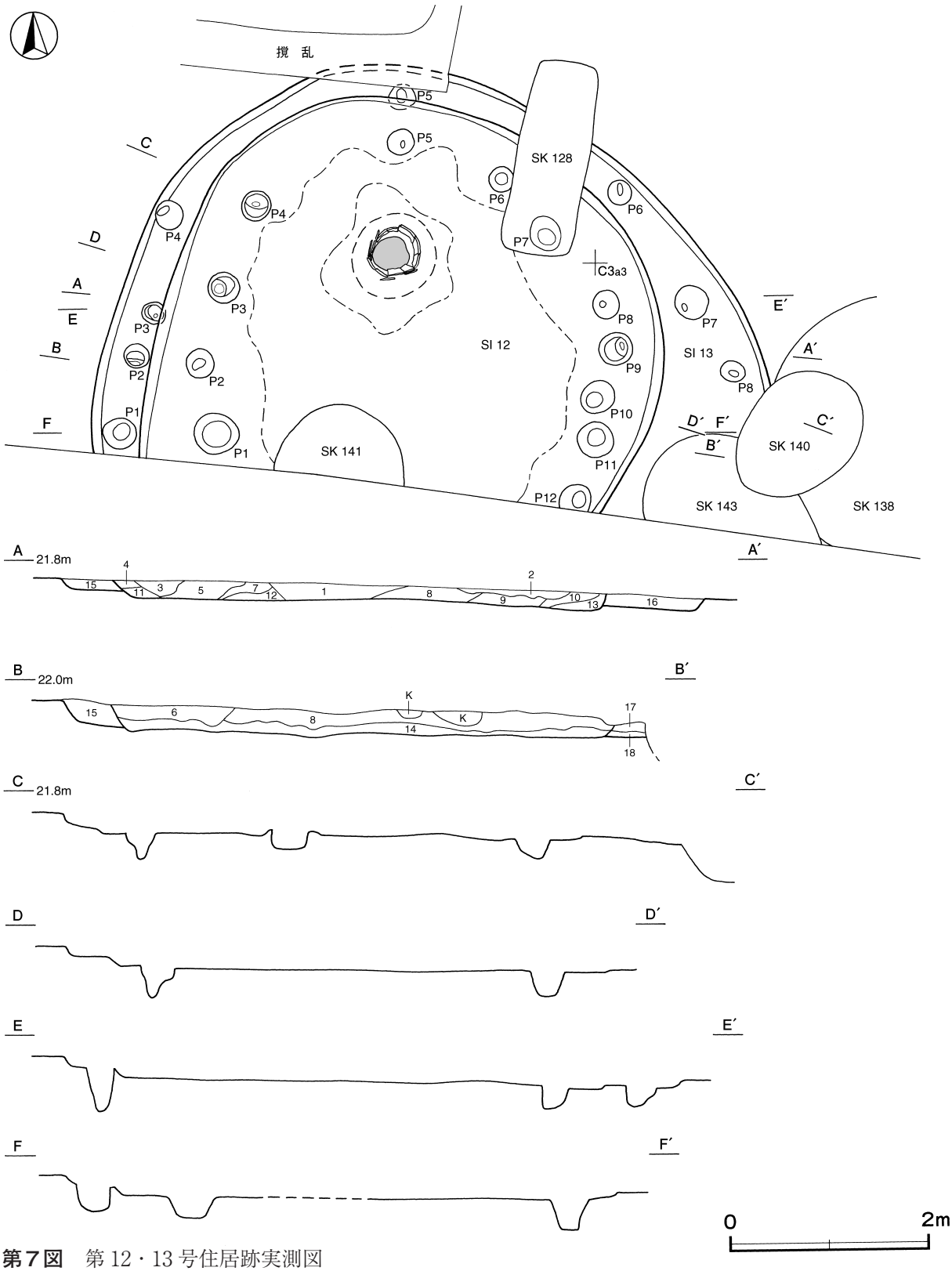
覆土　14 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

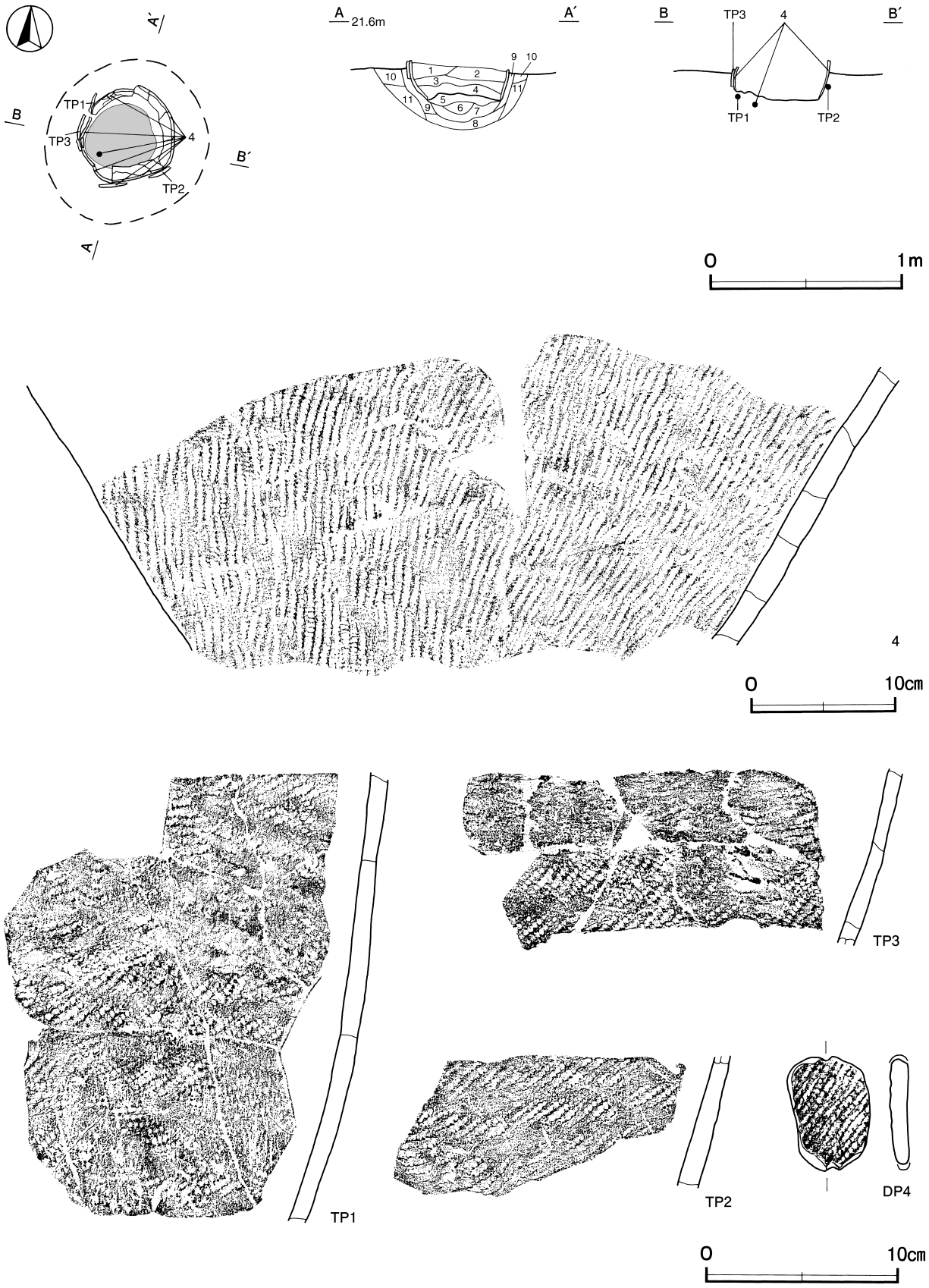
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・黒色粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
6　褐　　色　黒色粒子少量，ロームブロック微量
7　黒　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
8　灰 黄 褐 色　ロームブロック・黒色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子少量
10　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量，炭化粒子微量
11　にぶい黄褐色　ローム粒子・黒色粒子中量
12　灰 黄 褐 色　ロームブロック・黒色粒子少量
13　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子少量，炭化粒子微量
14　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片 322 点，土製品 1 点（土器片錘）のほか，混入した弥生土器片 1 点が出土している。4 の深鉢は，炉囲いに使用された土器片である。TP 1 ～ TP 3 も炉の周囲の床面を掘り込み，立位で出土していることから，炉囲いに使用された土器片と考えられ，胎土や文様構成から同一個体の可能性がある。

所見　時期は，出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第 7 図　第 12・13 号住居跡実測図



第８図　第 12 号住居跡・出土遺物実測図

第 12 号住居跡出土遺物観察表（第８図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
4	縄文土器	深鉢	－	(19.3)	－	長石・石英	橙	普通	RL の単節縄文	炉	25%

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	LR の単節縄文	炉	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	LR の単節縄文	炉	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	LR の単節縄文	炉	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 4	土器片錘	6.0	4.4	1.0	－	29.8	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　RL の単節縄文	覆土中	PL13

第 13 号住居跡（第７・９図）

位置　調査区中央部のＣ３a2 区，標高 21 mの台地上に位置している。

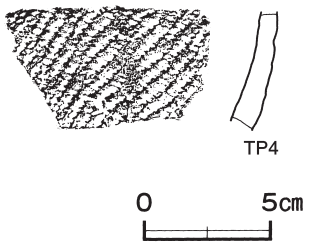
重複関係　第 12 号住居及び第 128･140･141･143 号土坑に掘り込まれている。第 138 号土坑と重複しているが，重複する部分が他の土坑に掘り込まれているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，南北径 4.20 m，東西径 6.63 m しか確認できなかった。平面形は，主軸方向がＮ－ 60°－Ｅの楕円形と推定できる。壁高は 10 ～ 12cmで，外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分は平坦である。硬化した範囲は認められなかった。

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ８は深さ 23 ～ 44cmで，規模にややばらつきはあるが，壁際を環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

覆土　４層に分層できる。重複によって全容は不明であるが，各層に含有物が多く含まれていることから，埋め戻されていると考えられる。



第９図　第 13 号住居跡出土遺物実測図

土層解説

15　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
16　暗　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
17　褐　　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
18　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 11 点が出土している。TP ４は覆土中から出土している。

所見　時期は，重複関係や出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。

第 13 号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	RL の単節縄文	覆土中	

第 14 号住居跡（第 10 図）

位置　調査区中央部のＣ３a4 区，標高 21 mの台地上に位置している。

重複関係　第 139 号土坑に掘り込まれている。第 142 号土坑を床下から確認した。

規模と形状　径４ｍほどの円形である。壁高は 20 ～ 28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦である。硬化した範囲は認められなかった。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ７は深さ 17 ～ 31cmで，規模にややばらつきはあるが，壁際を環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

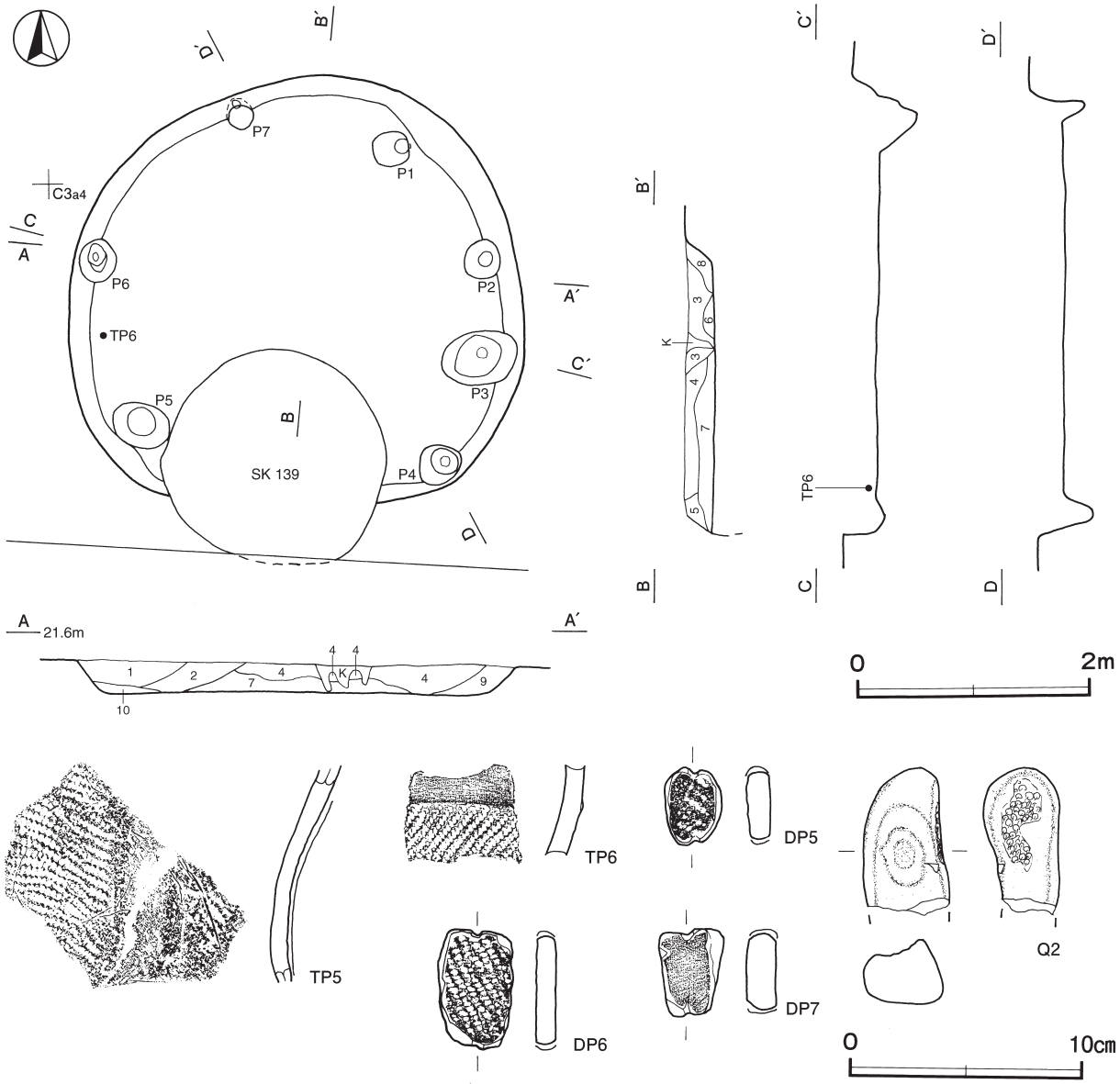
覆土　10 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ローム粒子・黒色粒子少量
2	灰黄褐色	ロームブロック少量，黒色粒子微量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量
4	褐色	ロームブロック・黒色粒子中量
5	褐色	ロームブロック・黒色粒子少量，炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子微量
7	褐色	ロームブロック中量，黒色粒子微量
8	灰黄褐色	黒色粒子少量，ロームブロック微量
9	にぶい黄褐色	黒色粒子中量，ロームブロック少量
10	褐色	ロームブロック多量，黒色粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 267 点，土製品４点（土器片錘），石器３点（敲石），剥片２点が出土している。土器は細片が多く，散在して出土している。TP ６は，西壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第 10 図　第 14 号住居跡・出土遺物実測図

第 14 号住居跡出土遺物観察表（第 10 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	微隆帯で文様を描出　LR の単節縄文	覆土中	
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	微隆帯で文様を描出　LR の単節縄文	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 5	土器片錘	3.4	2.5	1.1	－	9.7	長石	両端にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	覆土中	PL13
DP 6	土器片錘	5.2	3.3	0.9	－	18.6	長石・石英・雲母	両端にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	覆土中	PL13
DP 7	土器片錘	3.8	2.8	1.3	－	14.3	長石・石英	両端にキザミ　周縁部研磨　無文	覆土中	PL13

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 2	敲石	(6.4)	3.8	3.4	(104)	砂岩	表面に皿状の凹み　側面に敲打痕　被熱痕	覆土中	PL16

表２　縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	ピット			炉	覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長径×短径（m）	(cm)			主柱穴	柱穴	不明					重複関係（古→新）
9	B 3 j5	N － 69° － W	楕円形	3.60 × 3.25	6 ～ 25	平坦	－	－	12	－	地床炉	人為	縄文土器・土器片錘・石鏃未製品ヵ	後期初頭	
12	C 3 a2	－	［円形］	(3.90 × 5.10)	17 ～ 19	傾斜	－	－	12	－	土器片囲炉	人為	縄文土器・土器片錘	中期後葉～後期初頭	SI13 →本跡 → SK128・141
13	C 3 a2	N － 60° － E	［楕円形］	(4.20 × 6.63)	10 ～ 12	平坦	－	－	8	－	－	人為	縄文土器	中期後葉～後期初頭	本跡→ SI12，SK128・140・141・143 SK138 と新旧不明
14	C 3 a4	－	円　形	4.0	20 ～ 28	平坦	－	－	7	－	－	人為	縄文土器・土器片錘・敲石	中期後葉～後期初頭	SK142 →本跡 → SK139

(2)　土　坑

第 63 号土坑（第 11 図）

位置　調査区中央部のＢ３e9 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第４号住居に掘り込まれている。

規模と形状　上部を第４号住居に掘り込まれているため，確認できたのは径 1.5 ｍほどの円形である。深さは 70㎝で，底面は平坦である。壁は北壁の一部が内傾している以外は，外傾して立ち上がっている。

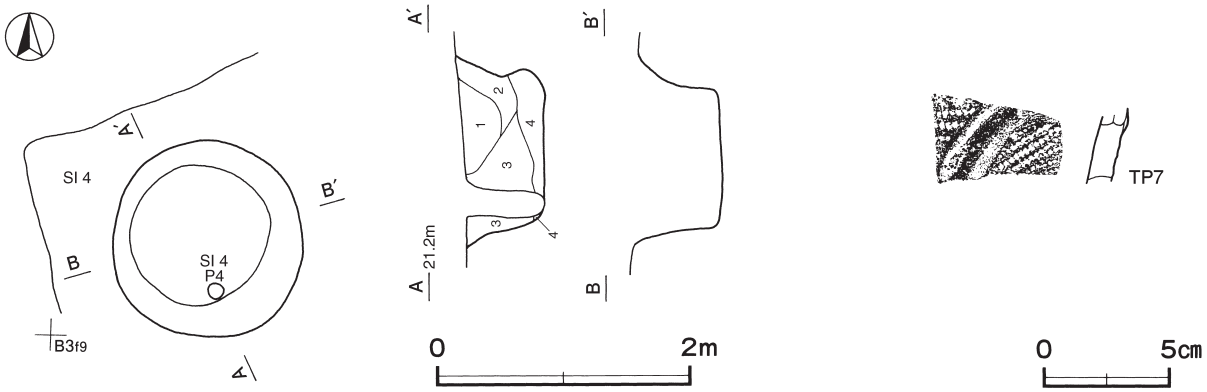
覆土　４層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片８点が出土している。TP ７は覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第 11 図　第 63 号土坑・出土遺物実測図

第 63 号土坑出土遺物観察表（第 11 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	隆帯文　RL の単節縄文	覆土上層	

第 64 号土坑（第 12 図）

位置　調査区中央部のＢ３f9 区，標高 21 mの台地上に位置している。

重複関係　第４号住居に掘り込まれている。

規模と形状　上部を第４号住居に掘り込まれているため，確認できたのは径 1.3 mほどの円形である。深さは 72cmで，底面はほぼ平坦であり，壁は直立している。

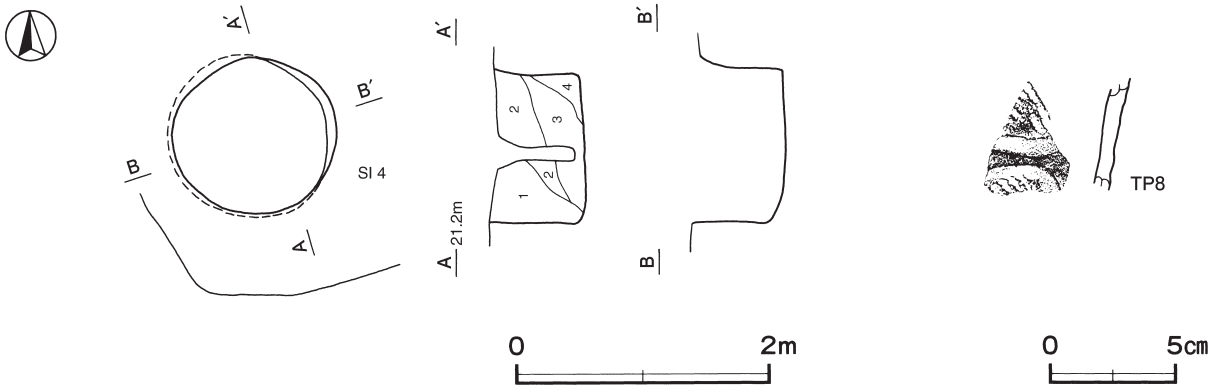
覆土　４層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片２点が出土している。TP ８は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第 12 図　第 64 号土坑・出土遺物実測図

第 64 号土坑出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	沈線文　RL の単節縄文	覆土中	

第 67 号土坑（第 13 図）

位置　調査区西部のＢ２f9 区，標高 22 mの台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.90 m，短径 1.66 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 19°－Ｗである。深さは 123cmで，底面は平坦であり，壁は直立している。

底面　中央部に，硬化した範囲が認められる。

覆土　５層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

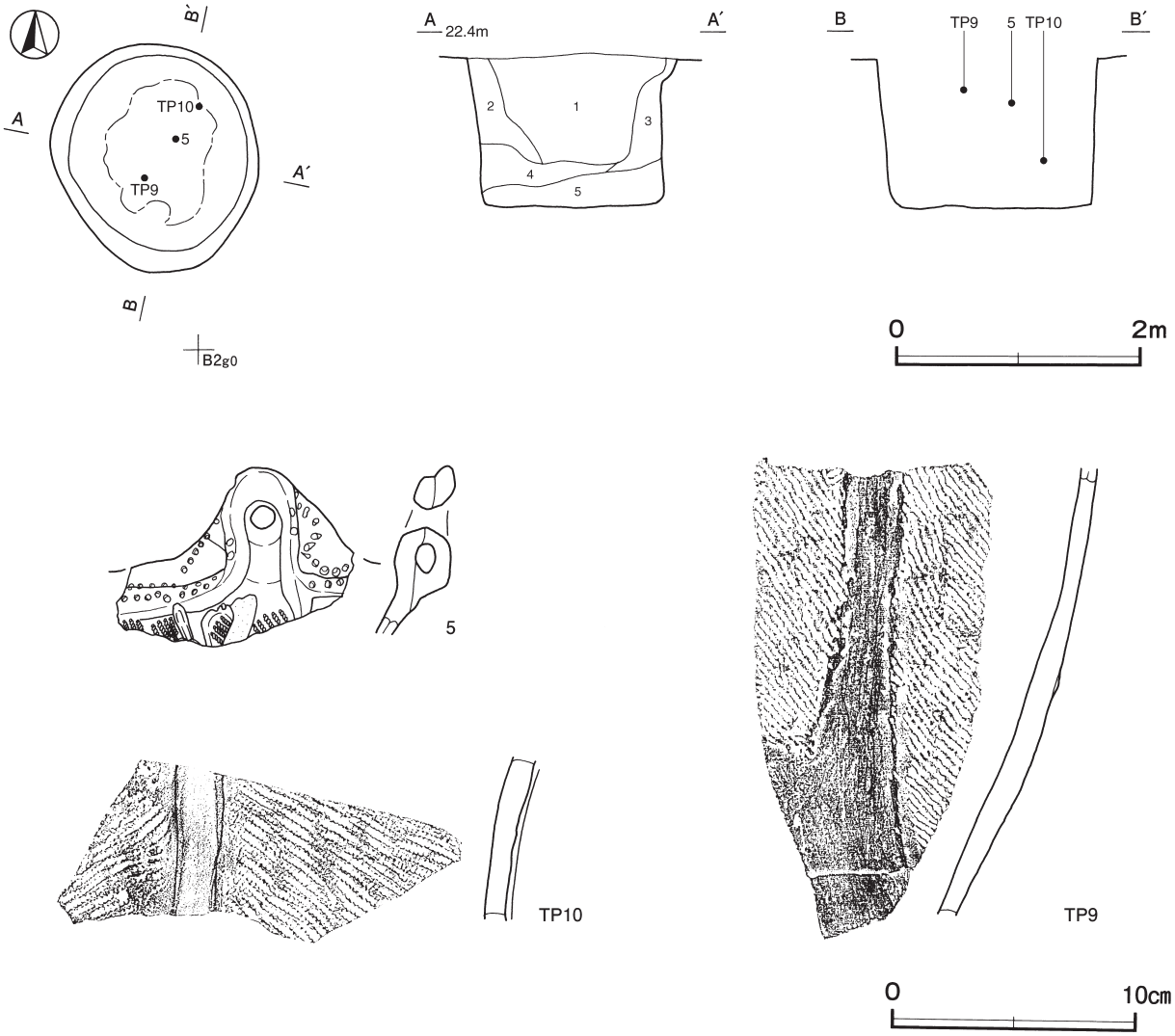
土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量（第３層よりやや明るい色調）
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 58 点が出土している。TP10 は北東壁寄りの覆土下層，５・TP ９は中央部の覆土

上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第 13 図　第 67 号土坑・出土遺物実測図

第 67 号土坑出土遺物観察表（第 13 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
5	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	円孔を有する把手　口唇部に連続する刺穴文　RL の単節縄文	覆土上層	5％　PL13

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	２本一組の微隆帯による懸垂文　LR の単節縄文	覆土上層	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	２本一組の微隆帯によって文様を描出　LR の単節縄文	覆土下層	

第 68 号土坑（第 14 図）

位置　調査区西部のＢ２e9 区，標高 22 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 72 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西部を第 72 号土坑に掘り込まれているため，東西径は 1.31 ｍが確認されただけで，南北径は 1.53 ｍである。平面形は，径 1.5 ｍほどの円形と推定できる。深さは 68㎝で，底面は平坦であり，壁は直立

している。

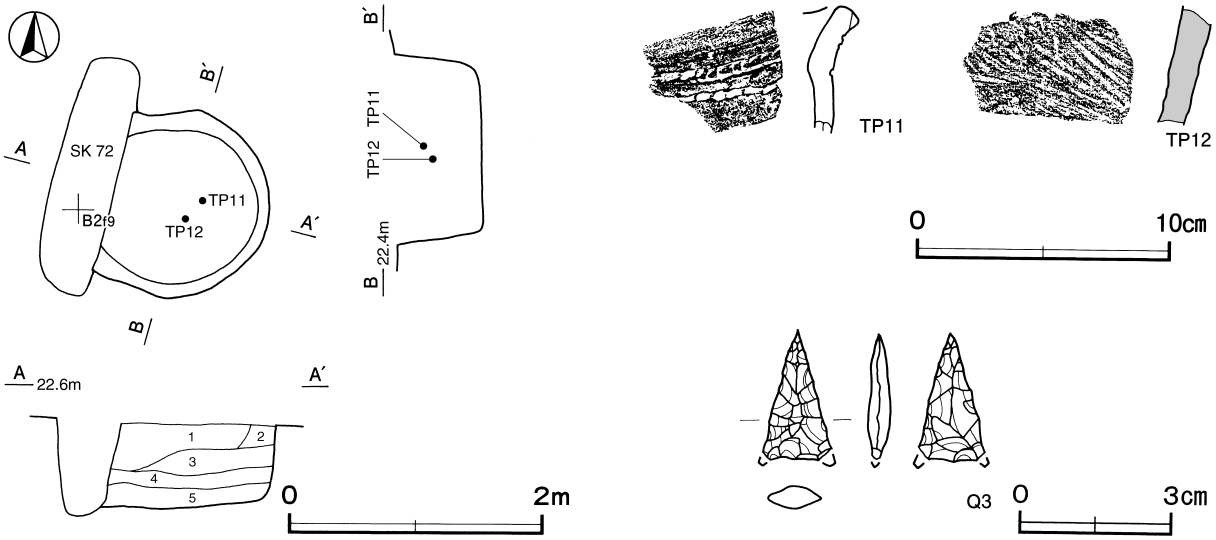
覆土　５層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片 22 点，石器２点（石鏃，磨石）が出土している。TP11・TP12 は，中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期と考えられる。



第 14 図　第 68 号土坑・出土遺物実測図

第 68 号土坑出土遺物観察表（第 14 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文様の特徴ほか	出土位置	備　考
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	口唇部直下に復列の結節沈線が沿う隆帯が巡る	覆土中層	PL13
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤褐	Ｌの無節縄文	覆土中層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｑ３	石鏃	(2.5)	(1.4)	0.5	(1.2)	瑪瑙	両面押圧剥離　平基無茎鏃	覆土中	PL16

第 69 号土坑（第 15 図）

位置　調査区西部のＢ２d7 区，標高 22 mの台地上に位置している。

重複関係　第 70・71 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南部を重複する遺構に掘り込まれているため，南北径は 1.52 mが確認されただけで，東西径は 1.64 mである。平面形は，長径方向がＮ－７°－Ｗの楕円形と推定できる。深さは 15㎝で，底面は皿状であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不均質な堆積状況から埋め戻されている。

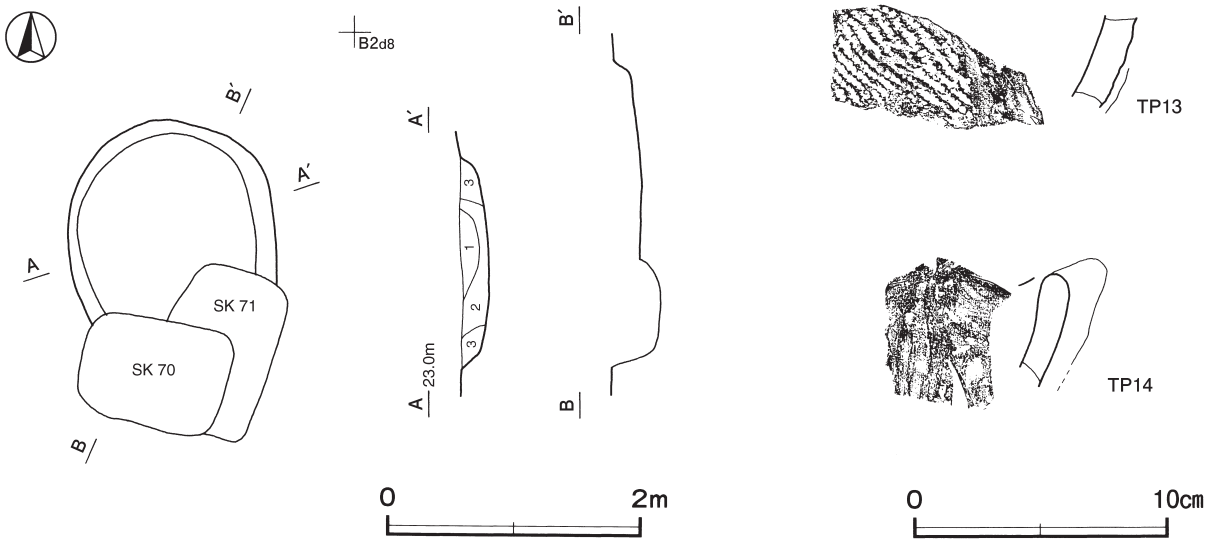
土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片９点が出土している。土器は細片が多く，散在して出土している。TP13・TP14

は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第 15 図　第 69 号土坑・出土遺物実測図

第 69 号土坑出土遺物観察表（第 15 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備　考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	隆帯文　RL の単節縄文	覆土中	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	隆帯を波頂部より垂下	覆土中	

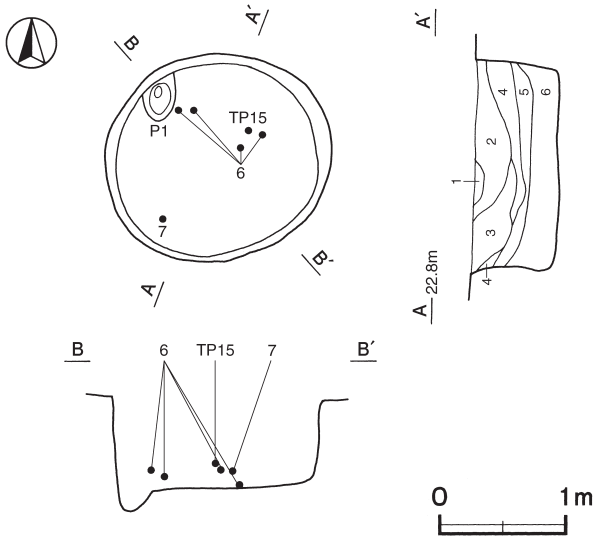
第 73 号土坑（第 16・17 図）

位置　調査区西部のＢ２c9 区，標高 22 mの台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.83 m，短径 1.65 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 51°－Ｅである。深さは 73㎝で，底面は平坦であり，壁は直立している。

ピット　北西壁際に位置している。深さは 20㎝であり，性格は不明である。

覆土　６層に分層できる。各層にローム土が含まれているが，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。



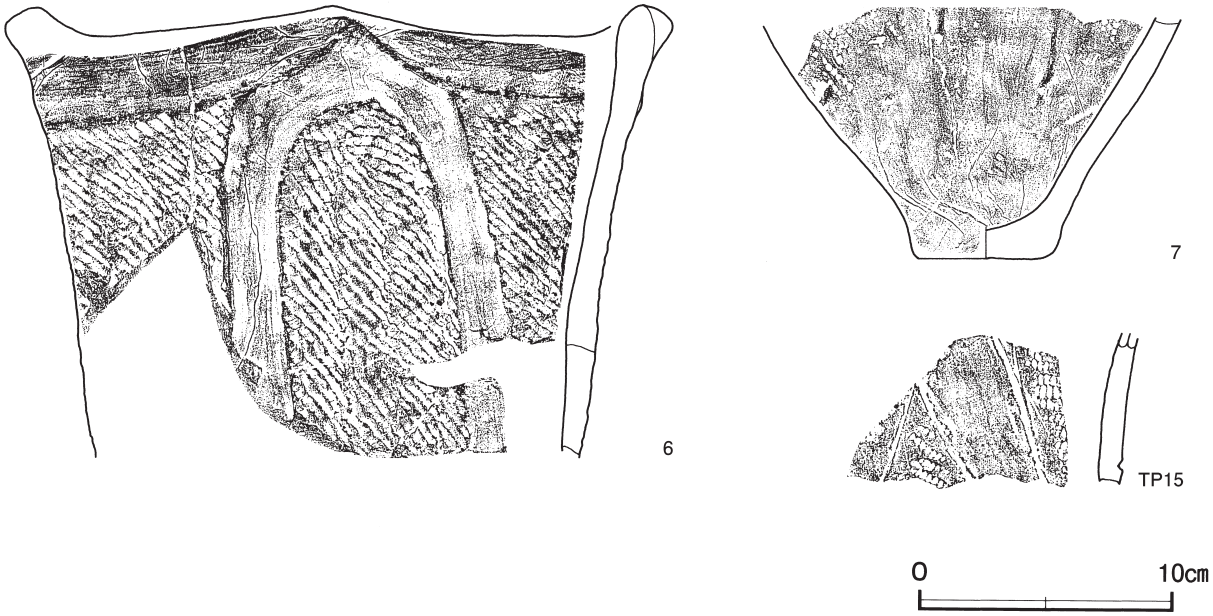
土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量（第３層よりやや明るい色調）
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片 57 点，石器１点（磨石），剥片１点が出土している。６・TP15 は中央部の覆土下層から，７は南西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。

第 16 図　第 73 号土坑実測図



第 17 図　第 73 号土坑出土遺物実測図

第 73 号土坑出土遺物観察表（第 17 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
6	縄文土器	深鉢	[24.0]	(17.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部直下に微隆帯が巡る　逆U字状の微隆帯による懸垂文　0段多条によるLRの単節縄文	覆土下層	30%　PL12
7	縄文土器	深鉢	－	(9.4)	5.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	微隆帯による懸垂文　LRの単節縄文	覆土下層	20%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐	沈線文　LRの単節縄文	覆土下層	

第 98 号土坑（第 18 図）

位置　調査区西部のＢ２h9 区，標高 22 mの台地上に位置している。

規模と形状　開口部が径 2.2 m，底面が径 2.4 mほどの円形である。深さは 102cmで，底面はほぼ平坦であり，壁は内傾して立ち上がっている。

底面　中央部から南東壁際にかけて，硬化した範囲が認められる。

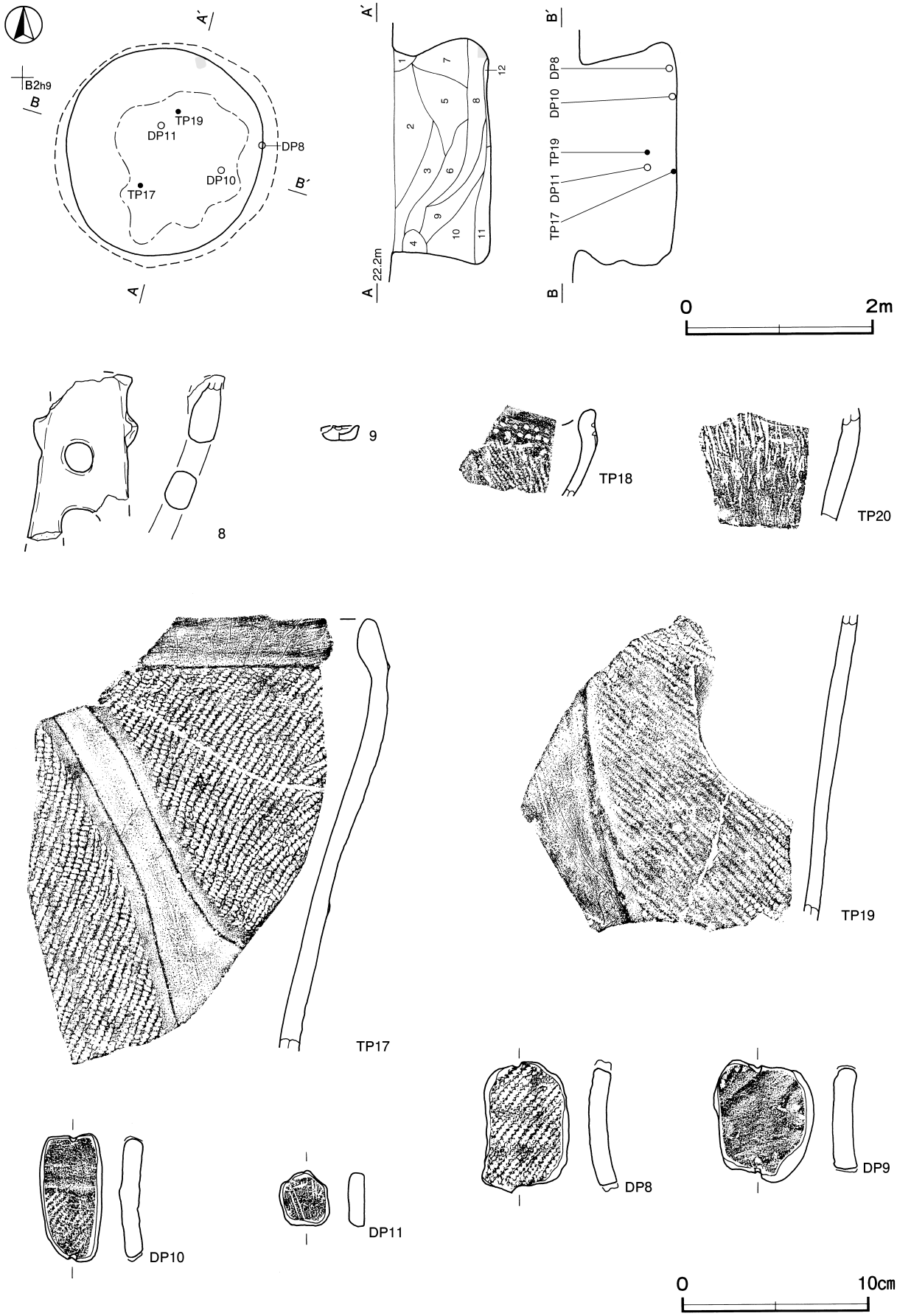
覆土　12 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黄　褐　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，黒色粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・黒色粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 457 点，土製品５点（土器片錘４・土器片円盤１），石器１点（磨石）が出土している。TP17 は中央部の底面，DP ８・DP10 は東壁寄りの底面に近い覆土下層，TP19・DP11 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。北壁際の底面から，焼土塊が確認されている。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ｉ式期）と考えられる。



第 18 図　第 98 号土坑・出土遺物実測図

第 98 号土坑出土遺物観察表（第 18 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
8	縄文土器	深鉢	－	(8.9)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	円孔を有する把手	覆土中	5％　PL13
9	縄文土器	ミニチュア	2.0	0.8	1.2	長石・石英	明赤褐	普通	無文　口唇部にキザミ	覆土中	80％　PL12

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	口唇部直下に微隆帯が巡る　２本一組の微隆帯によって文様を描出　RL の単節縄文	底面	PL12
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口唇部に連続刺突文　RL の単節縄文	覆土中	
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	微隆帯による懸垂文　LR の単節縄文	覆土下層	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	撚糸文	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP 8	土器片錘	7.1	4.7	1.6	－	44.7	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	覆土下層	PL13
DP 9	土器片錘	6.5	5.4	1.3	－	48.5	長石・石英	両端にキザミ　周縁部研磨　微隆帯によって文様を描出　LR の単節縄文	覆土中	PL13
DP10	土器片錘	6.9	3.3	1.3	－	30.4	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　微隆帯によって文様を描出　LR の単節縄文	覆土下層	PL13
DP11	土器片円盤	2.9	2.7	0.9	－	8.0	長石・石英・赤色粒子	周縁部研磨　沈線文	覆土下層	

第 114 号土坑（第 19 図）

位置　調査区中央部のＢ３f2 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 115 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東部を第 115 号土坑に掘り込まれているため，東西径は 1.18 ｍが確認されただけで，南北径は 1.35 ｍである。平面形は，長径方向がＮ－ 34°－Ｅの楕円形と推定できる。深さは 56㎝で，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

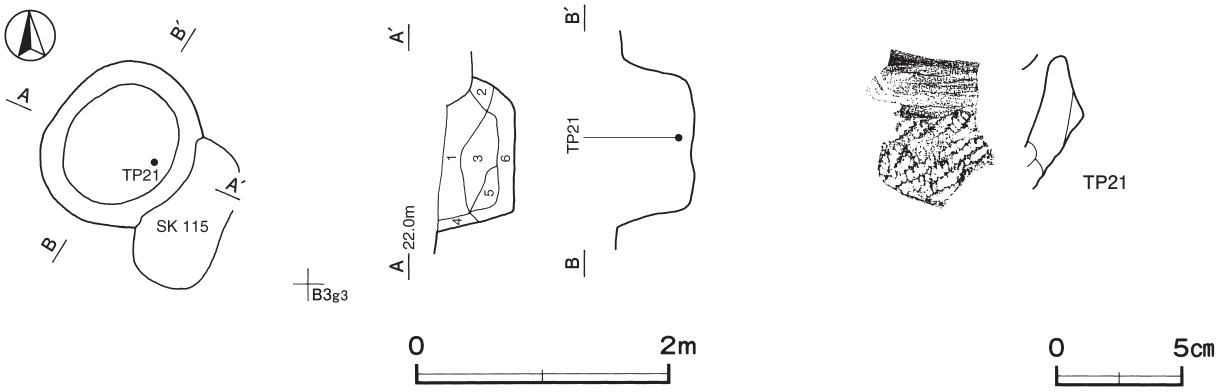
覆土　６層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・黒色粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量（第１層よりやや暗い色調）
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・黒色粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片８点が出土している。TP21 は，東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第 19 図　第 114 号土坑・出土遺物実測図

第 114 号土坑出土遺物観察表（第 19 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	口唇部直下に微隆帯が巡る　LR の単節縄文	覆土下層	

第 129 号土坑（第 20 図）

位置　調査区中央部のＢ３j2 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 130 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北西部を第 130 号土坑に掘り込まれているため，東西径は 1.25 ｍ，南北径は 0.76 ｍしか確認できなかった。平面形は，長径方向がＮ－ 85°－Ｗの楕円形と推定できる。深さは 21㎝で，底面は平坦であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

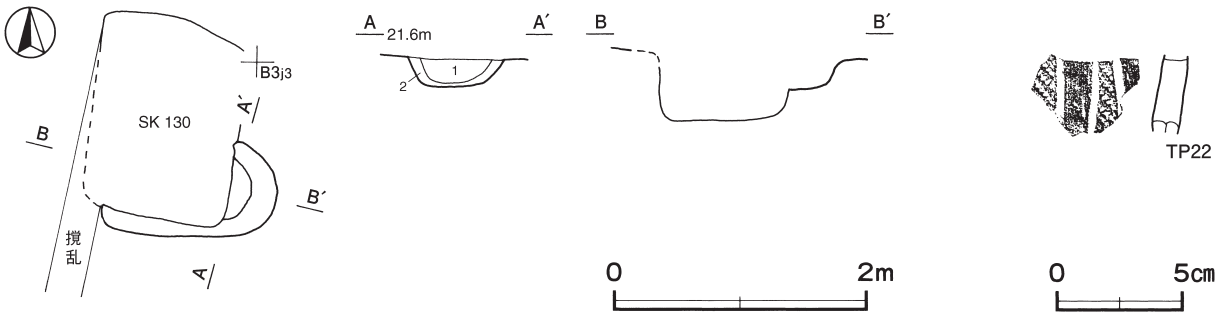
覆土　２層に分層できる。重複のため全容は不明であるが，各層にロームブロックが含まれており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子・黒色粒子微量　　2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片２点が出土している。TP22 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉と考えられる。



第 20 図　第 129 号土坑・出土遺物実測図

第 129 号土坑出土遺物観察表（第 20 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	沈線による懸垂文間を磨り消す　LR の単節縄文	覆土中	

第 133 号土坑（第 21 図）

位置　調査区中央部のＢ３i2 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 134 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　径 1.3 ｍほどの円形である。深さは 35㎝で，底面は皿状であり，壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　７層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

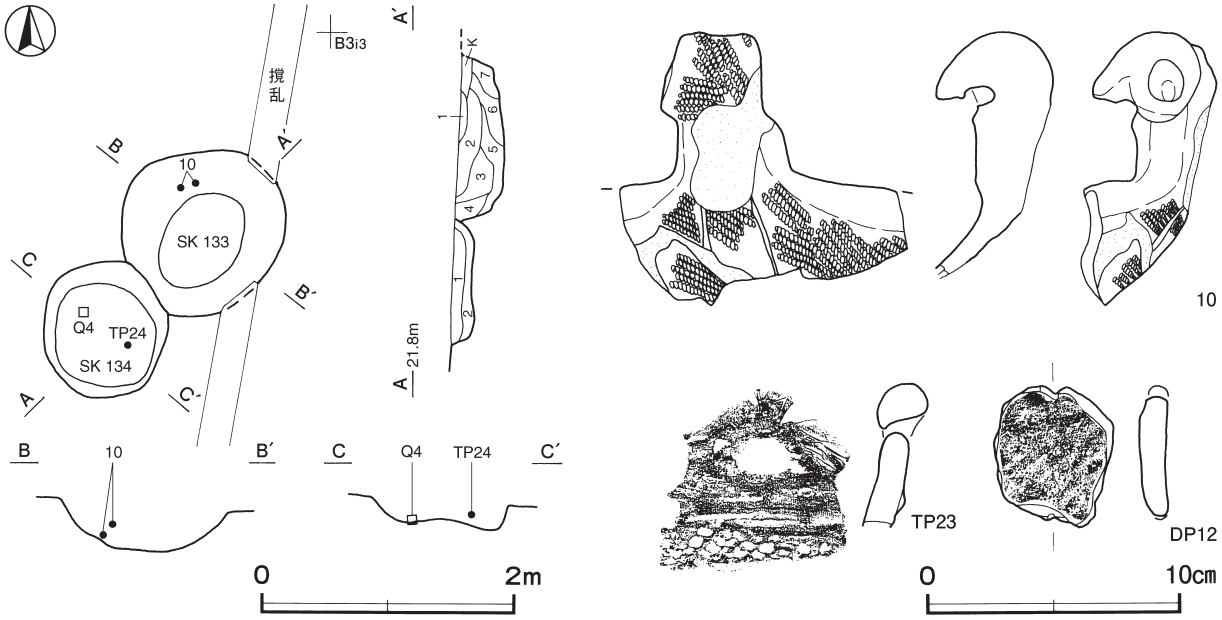
土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片 34 点，土製品１点（土器片錘）が出土している。10 は，北壁際の覆土下層と覆土

中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第 21 図　第 133・134 号土坑，第 133 号土坑出土遺物実測図

第 133 号土坑出土遺物観察表（第 21 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
10	縄文土器	深鉢	－	(10.8)	－	長石・石英	橙	普通	沈線による懸垂文　RL の単節縄文	覆土下層 覆土中層	5％　PL13

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	円孔を有する把手　口唇部直下に微隆帯が巡る　LR の単節縄文	覆土中	PL13

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP12	土器片錘	5.5	4.7	1.2	－	31.8	長石・石英	両端にキザミ　周縁部研磨　微隆帯によって文様を描出	覆土中	

第 134 号土坑（第 21・22 図）

位置　調査区中央部のＢ３i2 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

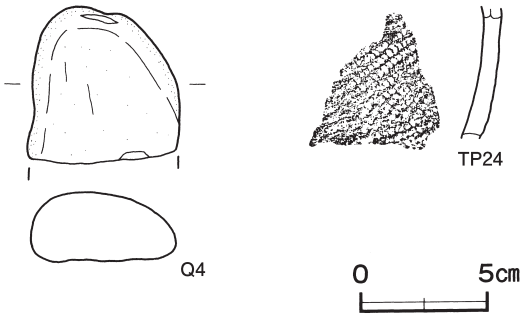
重複関係　第 133 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　径 1.0 ｍほどの円形である。深さは 20㎝で，底面は若干凸凹がある。壁は，南東壁の一部が直立している以外は，外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 20 点，石器１点（磨石）が出土している。Ｑ４は中央部の覆土下層，TP24 は中央部の覆土中層から，それぞれ出土している。



第 22 図　第 134 号土坑出土遺物実測図

所見　時期は，出土土器と重複関係から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。

第 134 号土坑出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文様の特徴ほか	出土位置	備　考
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	RL の単節縄文	覆土中層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 4	磨石	(6.2)	(6.0)	(2.7)	(144)	シルト岩	表面に使用痕	覆土下層	

第 135 号土坑（第 23 図）

位置　調査区西部のＢ２h0 区，標高 21 mの台地上に位置している。

重複関係　第 11 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　上部を第 11 号住居に掘り込まれているため，確認できたのは径 2.1 mほどの円形である。深さは 88cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

底面　ほぼ全体に，硬化した範囲が認められる。

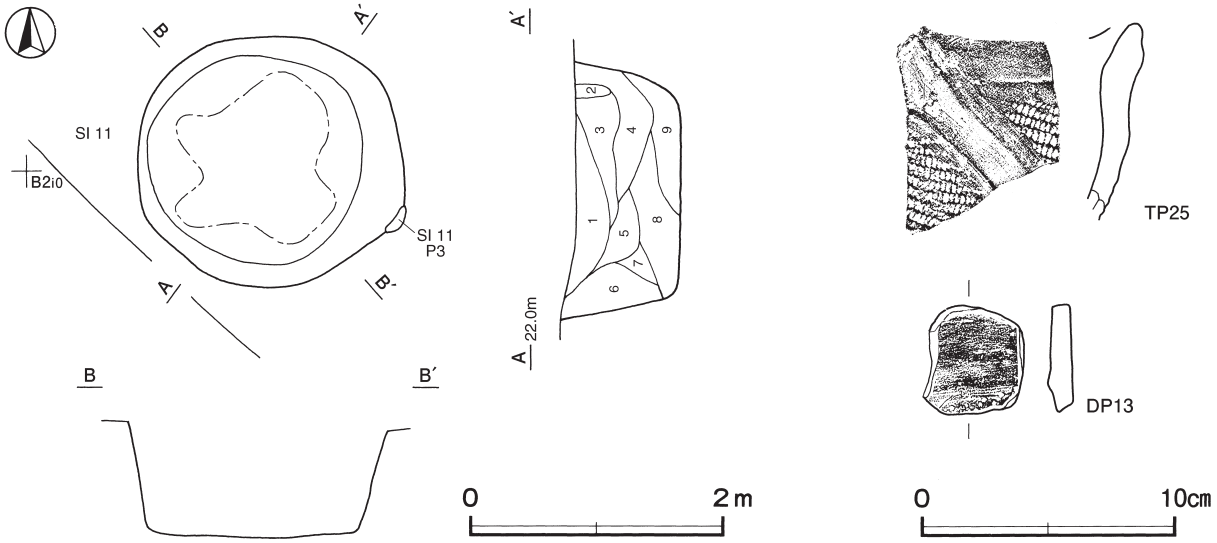
覆土　９層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
3　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子微量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子少量
8　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，黒色粒子少量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 94 点，土製品４点（土器片錘１・土器片円盤３）が出土している。TP25 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第 23 図　第 135 号土坑・出土遺物実測図

第 135 号土坑出土遺物観察表（第 23 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	口唇部直下に微隆帯が巡る　２本一組の微隆帯による懸垂文 LR の単節縄文	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP13	土器片 円盤	4.3	(3.9)	1.0	－	(19.2)	長石・石英	周縁部研磨　微隆帯で文様を描出　LR の単節縄文	覆土中	

第 136 号土坑（第 24 図）

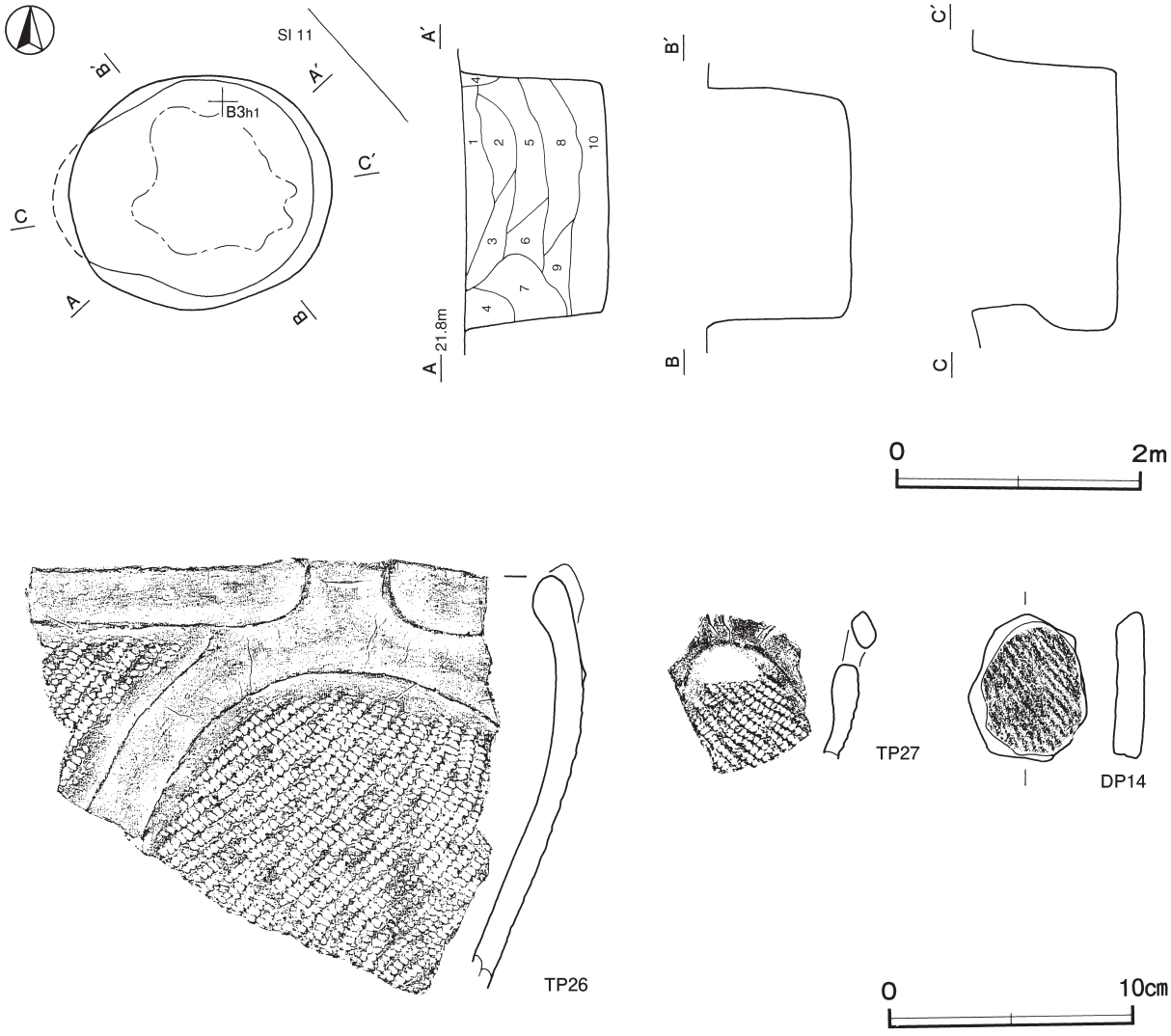
位置　調査区西部のＢ２h0 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 11 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　上部を第 11 号住居に掘り込まれているため，確認できたのは長径 2.14 ｍ，短径 1.92 ｍである。平面形は，長径方向がＮ－ 69°－Ｅの楕円形である。深さは 119㎝で，底面は平坦である。壁は西壁の一部が内傾している以外は，外傾して立ち上がっている。

底面　中央部に，硬化した範囲が認められる。

覆土　10 層に分層できる。各層にローム土が含まれており，不均質な堆積状況から埋め戻されている。



第 24 図　第 136 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，黒色粒子微量
2　暗　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・黒色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック・黒色粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・黒色粒子少量
10　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 32 点，土製品 1 点（土器片円盤）が出土している。TP26・TP27 は，覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。

第 136 号土坑出土遺物観察表（第 24 図）

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文様の特徴ほか	出土位置	備　考
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤褐	口唇部直下に微隆帯が巡る　微隆帯による逆U字状の懸垂文 RL の単節縄文	覆土下層	PL12
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	円孔を有する把手　LR の単節縄文	覆土下層	PL13

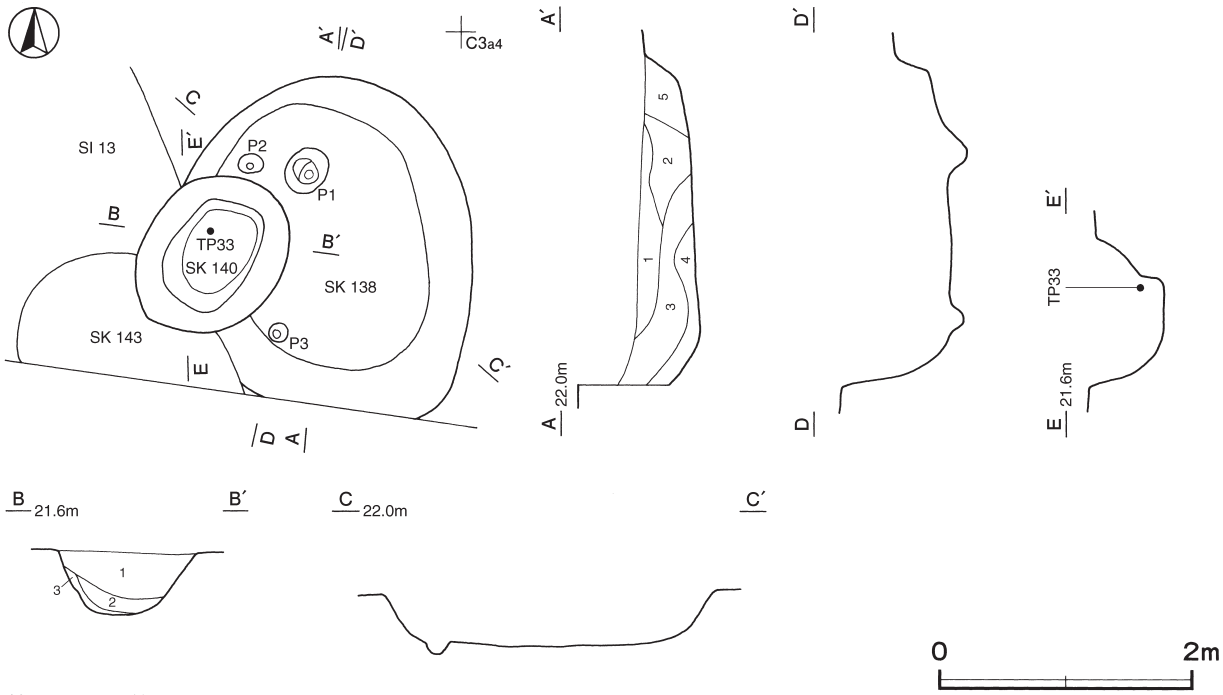
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　徴	出土位置	備　考
DP14	土器片円盤	6.1	4.8	1.2	－	33.9	長石・石英 赤色粒子	周縁部研磨　RL の単節縄文	覆土中	

第 138 号土坑（第 25・26 図）

位置　調査区中央部のＣ３a3 区，標高 21 mの台地上に位置している。

重複関係　第 140・143 号土坑に掘り込まれている。第 13 号住居跡と重複しているが，重複する部分が他の土坑に掘り込まれているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　重複する遺構があり，南部が調査区域外に延びているため，確認できたのは南北径 2.60 m，東西径 2.12 mである。平面形は，長径方向がＮ－７°－Ｗの楕円形と推定できる。深さは 48㎝で，底面は南側にやや傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。



第 25 図　第 138・140 号土坑実測図

ピット　３か所。Ｐ１は中央部のやや北寄りに，Ｐ２・Ｐ３は西壁際に位置している。深さは，Ｐ１は16cm，Ｐ２は11cm，Ｐ３は10cmであり，性格は不明である。

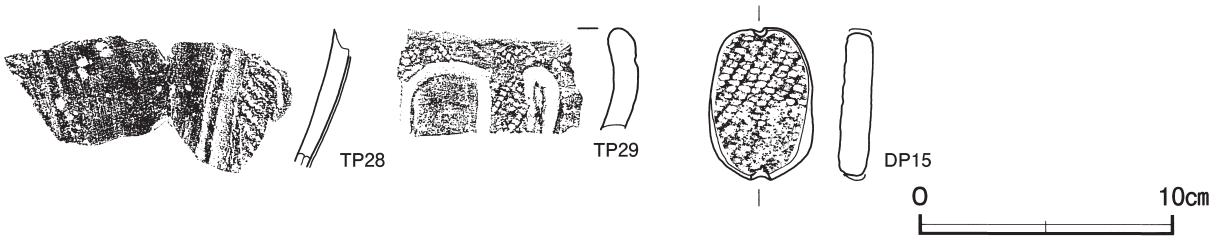
覆土　５層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・黒色粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・黒色粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック・黒色粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片105点，土製品１点（土器片錘）が出土している。TP28・DP15は，覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第26図　第138号土坑出土遺物実測図

第138号土坑出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	２本一組の微隆帯による懸垂文　LRの単節縄文	覆土下層	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	沈線による逆U字状の懸垂文　RLの単節縄文	覆土中	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP15	土器片錘	6.0	4.2	1.3	－	37.9	長石・石英	両端にキザミ　周縁部研磨　RLの単節縄文	覆土下層	PL13

第139号土坑（第27図）

位置　調査区中央部のＣ３a4区，標高21ｍの台地上に位置している。

重複関係　第14号住居跡及び第142号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　径1.9ｍほどの円形である。深さは137cmで，底面は平坦である。壁は，北壁の一部が内傾している以外は，直立している。

覆土　11層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。覆土中層の第６層から焼土塊が確認されている。

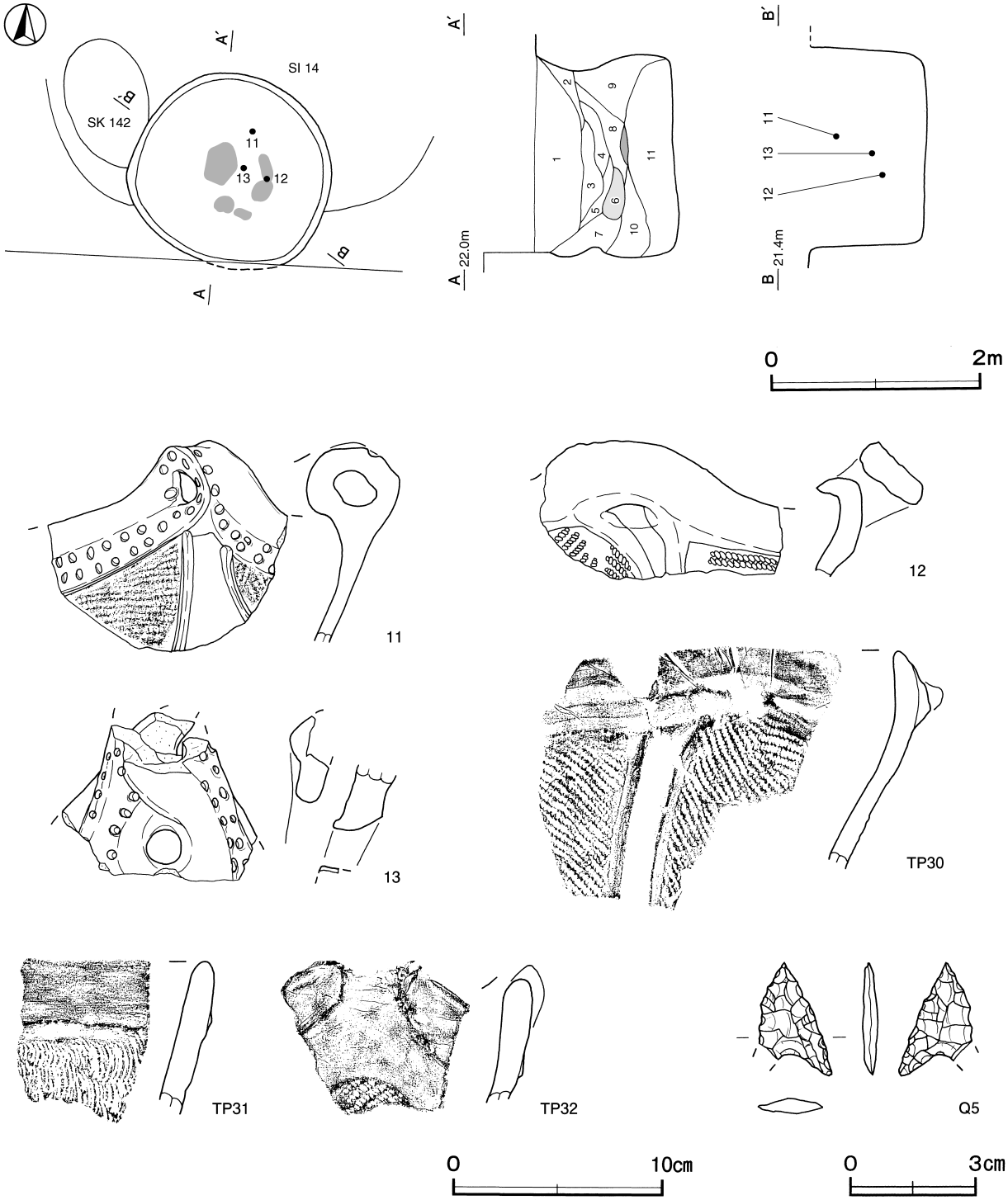
土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
6　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（締まり弱い）
9　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片263点，石器１点（石鏃），剥片２点のほか，混入した不明鉄製品が出土している。12・13は，中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。また，覆土中層から投棄された貝（ハマグリ・シ

オフキ・サルボウ類）が出土しており，ハマグリは，殻長が３～４㎝のものが主体である（表３）。

所見　遺物出土状況から，廃絶後に覆土下層まで埋め戻された後，貝や土器が投棄されたことが想定される。覆土中層から確認された焼土塊は，覆土中層まで埋没した段階で，２次的な利用で火を炊いたことが考えられるが，明確な痕跡は確認されていない。時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第 27 図　第 139 号土坑・出土遺物実測図

第 139 号土坑出土遺物観察表（第 27 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
11	縄文土器	深鉢	－	(9.5)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部直下に連続刺突文　RL の単節縄文	覆土上層	5％　PL13
12	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	RL の単節縄文	覆土中層	5％　PL13
13	縄文土器	深鉢	－	(8.0)	－	長石・石英 赤色粒子	にぶい橙	普通	円孔を有する把手　連続刺突文	覆土中層	5％　PL13

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	口唇部直下に微隆帯が巡る　微隆帯による２本一組の微隆帯による懸垂文　LR の単節縄文	覆土下層	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	口唇部直下に微隆帯が巡る　キザミ目列	覆土下層	PL13
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	微隆帯で文様を描出　RL の単節縄文	覆土下層	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q５	石鏃	2.7	(1.8)	0.4	(1.2)	珪質頁岩	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	覆土中	PL16

表３　第 139 号土坑出土貝種別集計表

殻　　長		2.0cm～2.5cm未満	2.5cm～3.0cm未満	3.0cm～3.5cm未満	3.5cm～4.0cm未満	4.0cm～4.5cm未満	4.5cm～5.0cm未満	5.0cm～5.5cm未満	5.5cm～6.0cm未満	小計（個）	総合計（個）
ハマグリ	右殻	1	2	6	7	4	1		1	22	71
	左殻	2	4	10	5	1			3	25	59
シオフキ	右殻	1			1		1			3	10
	左殻										5
サルボウ類	－									(1)	(1)

※殻頂部が残っているものを集計の対象（総合計）とし，さらに殻長が計測できるものは，大きさ別に集計（小計）した。サルボウ類は，殻頂部が残存していない１個体が検出されている。

第 140 号土坑（第 25・28 図）

位置　調査区中央部のＣ３a3 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 13 号住居跡及び第 138・143 号土坑を掘り込んでいる。

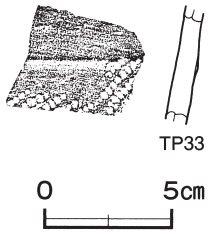
規模と形状　長径 1.38 ｍ，短径 1.06 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 41°－Ｅである。深さは 45㎝で，底面は皿状であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。周囲からの土の流入を示す自然堆積である。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　黄　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片２点が出土している。TP33 は，中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器と重複関係から後期初頭（称名寺Ｉ式期）と考えられる。



第 28 図　第 140 号土坑出土遺物実測図

第 140 号土坑出土遺物観察表（第 28 図）

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐	微隆帯で文様を描出　LR の単節縄文	覆土中層	

第 141 号土坑（第 29 図）

位置　調査区中央部のＣ３a2 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

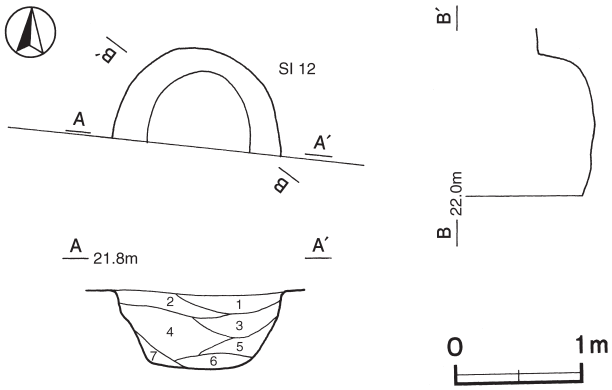
重複関係　第 12・13 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区域外に延びているため，南北径は 0.78 ｍが確認されただけで，東西径は 1.33 ｍである。平面形は，径 1.3 ｍほどの円形又は楕円形と推定できる。深さは 58㎝で，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　７層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量



遺物出土状況　縄文土器片３点が覆土中から出土している。いずれも細片で，図示することができない。

所見　時期は，出土土器と重複関係から中期後葉～後期初頭と考えられる。

第 29 図　第 141 号土坑実測図

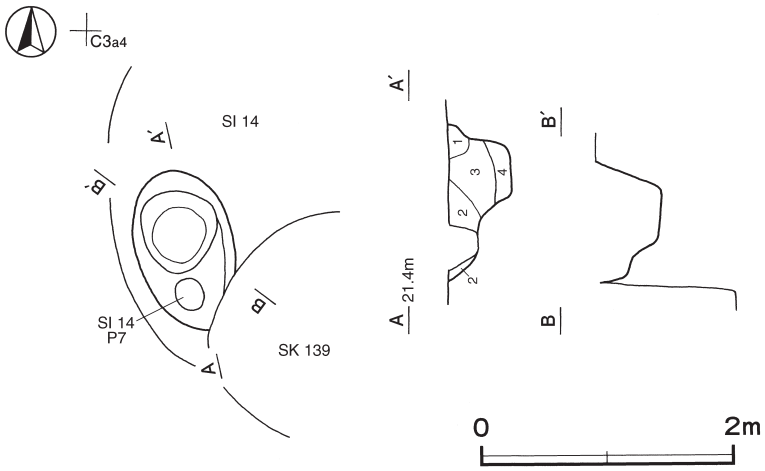
第 142 号土坑（第 30 図）

位置　調査区中央部のＣ３a4 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 14 号住居及び第 139 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　重複する遺構に掘り込まれているため，確認できたのは長径 1.27 ｍ，短径 0.79 ｍである。平面形は，長径方向がＮ－ 20°－Ｗの楕円形である。深さは 45㎝で，底面は平坦であり，中位に段を有している。

覆土　４層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。



土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片４点が出土している。いずれも細片で，図示することができない。

所見　時期は，出土土器と重複関係から中期後葉～後期初頭と考えられる。

第 30 図　第 142 号土坑実測図

第 143 号土坑（第 31 図）

位置　調査区中央部のＣ３a3 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 13 号住居跡及び第 138 号土坑を掘り込み，第 140 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　重複する遺構があり，南部が調査区域外に延びているため，確認できたのは南北径 1.12 ｍ，東西径 1.22 ｍのみである。平面形は，長径方向がＮ－ 34°－ Ｗの楕円形と推定できる。深さは 95㎝で，底面は平坦であり，中位に段を有している。

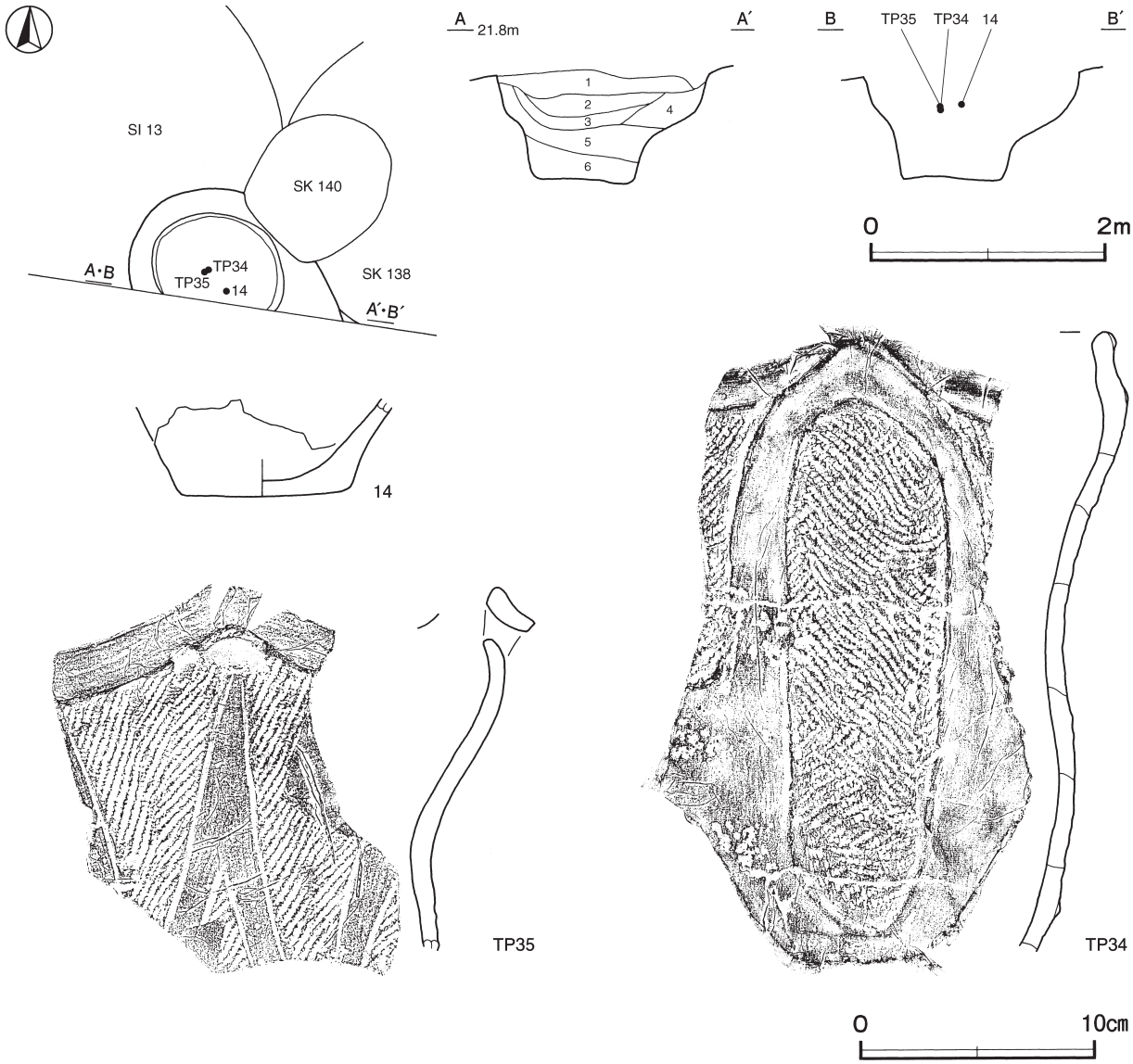
覆土　６層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	
3	暗　褐　色	ロームブロック微量	
4	褐　　色	ロームブロック中量	
5	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量	
6	暗　褐　色	ロームブロック少量	

遺物出土状況　縄文土器片 51 点，土製品１点（土器片錘）が出土している。14・TP34・TP35 は，中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第 31 図　第 143 号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
14	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	無文	覆土中層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	口唇部直下に微隆帯が巡る　２本一組の微隆帯による逆U字状の懸垂文　LRの単節縄文	覆土中層	PL12
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	波頂部に円孔を有する　２本一組の沈線による懸垂文　RLの単節縄文	覆土中層	PL12

表４　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模		壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）						重複関係（古→新）
63	Ｂ３e9	（円形）	－	(1.5)	(70)	内傾 外傾	平坦	－	人為	縄文土器	本跡→SI 4
64	Ｂ３f9	（円形）	－	(1.3)	(72)	直立	平坦	－	人為	縄文土器	本跡→SI 4
67	Ｂ２f9	楕円形	N－19°－W	1.90 × 1.66	123	直立	平坦	－	人為	縄文土器	
68	Ｂ２e9	［円形］	－	1.53 × (1.31)	68	直立	平坦	－	人為	縄文土器・石鏃・磨石	本跡→SK72
69	Ｂ２d7	［楕円形］	N－7°－W	(1.52) × 1.64	15	緩斜	皿状	－	人為	縄文土器	本跡→SK70・71
73	Ｂ２c9	楕円形	N－51°－E	1.83 × 1.65	73	直立	平坦	1	自然	縄文土器・磨石	
98	Ｂ２h9	円形	－	2.2 2.4	102	内傾	平坦	－	人為	縄文土器・土器片錘・土器片円盤・磨石	
114	Ｂ３f2	［楕円形］	N－34°－E	1.35 × (1.18)	56	外傾	平坦	－	人為	縄文土器	本跡→SK115
129	Ｂ３j2	［楕円形］	N－85°－W	(1.25 × 0.76)	21	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器	本跡→SK130
133	Ｂ３i2	円形	－	1.3	35	緩斜	皿状	－	人為	縄文土器・土器片錘	本跡→SK134
134	Ｂ３i2	円形	－	1.0	20	直立 外傾	凸凹	－	自然	縄文土器・磨石	SK133→本跡
135	Ｂ２h0	（円形）	－	(2.1)	(88)	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・土器片錘・土器片円盤	本跡→SI11
136	Ｂ２h0	（楕円形）	N－69°－E	(2.14 × 1.92)	(119)	内傾 外傾	平坦	－	人為	縄文土器・土器片円盤	本跡→SI11
138	Ｃ３a3	［楕円形］	N－7°－W	(2.60 × 2.12)	48	外傾	傾斜	3	人為	縄文土器・土器片錘	本跡→SK140・143 SI13との新旧不明
139	Ｃ３a4	円形	－	1.9	137	内傾 直立	平坦	－	人為	縄文土器・石鏃・ハマグリ・シオフキ	SI14，SK142→本跡
140	Ｃ３a3	楕円形	N－41°－E	1.38 × 1.06	45	外傾	皿状	－	自然	縄文土器	SI13，SK138・143→本跡
141	Ｃ３a2	［円形］ ［楕円形］	－	(0.78) × 1.33	58	外傾	平坦	－	人為	縄文土器	SI12・13→本跡
142	Ｃ３a4	（楕円形）	N－20°－W	(1.27 × 0.79)	(45)	中位に段	平坦	－	人為	縄文土器	本跡→SI14，SK139
143	Ｃ３a3	［楕円形］	N－34°－W	(1.22 × 1.12)	95	中位に段	平坦	－	人為	縄文土器・土器片錘	SI13，SK138→本跡 →SK140

２　弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡７軒を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第３号住居跡（第32・33図）

位置　調査区中央部のＢ３h9区，標高21ｍの台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.54ｍ，短軸3.50ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－21°－Ｗである。壁高は11～15cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周囲を除いて壁際が硬化している。覆土中層から床面にかけて，中央部から焼土，壁際から炭化材を確認した。

炉　中央部の東寄りに付設されている。径50cmほどの円形を呈する地床炉である。炉床は，床面から10cmほど掘りくぼめられた凹凸の有る面であるが，赤変硬化は認められない。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量

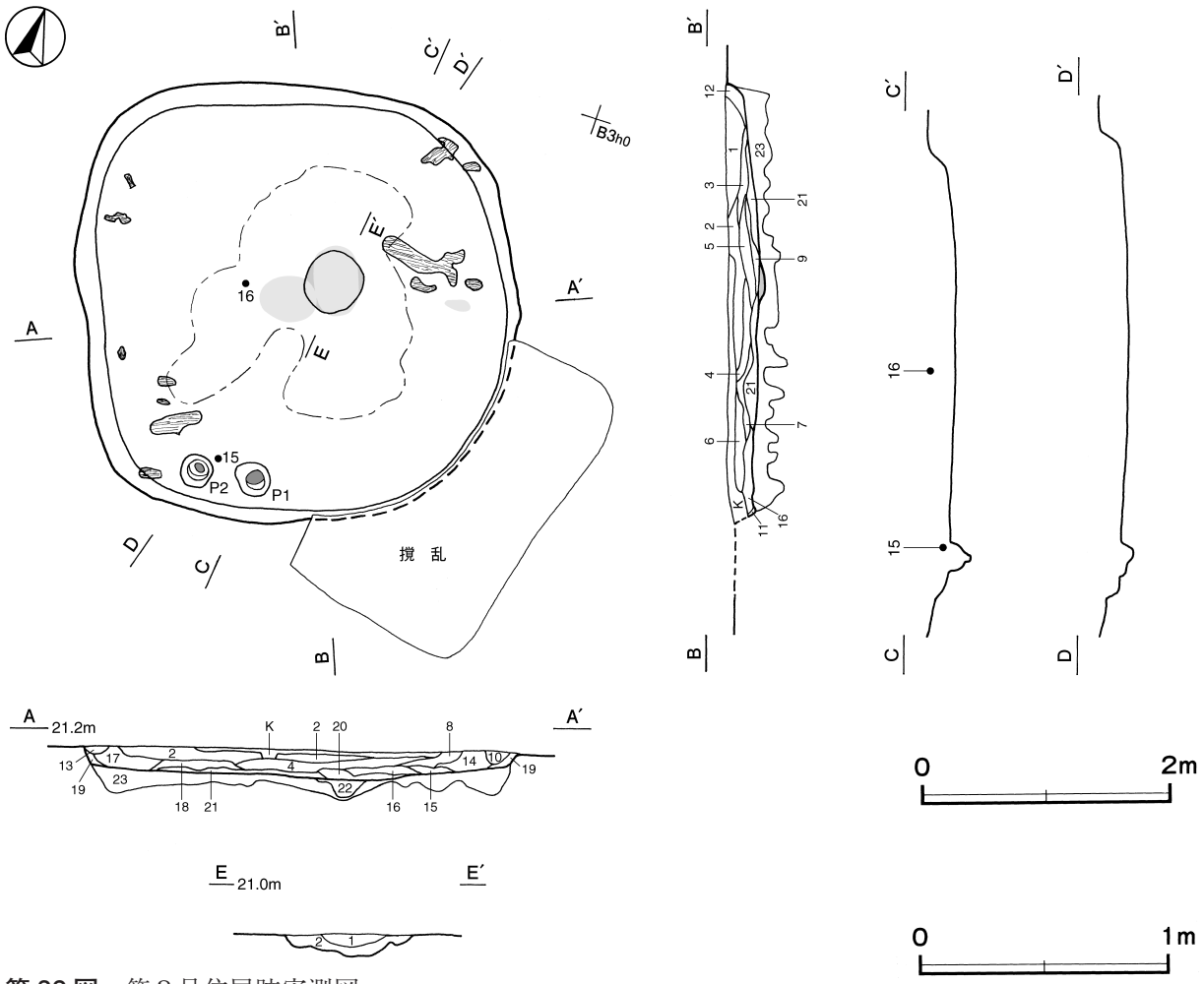
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　２か所。南壁際に位置するＰ１・Ｐ２は深さ15cm・10cmで，炉と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットの可能性がある。Ｐ１・Ｐ２の底面に，径10cmほどの柱のあたりとみられる円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土　21層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお，第22・23層は貼床の構築土である。

土層解説

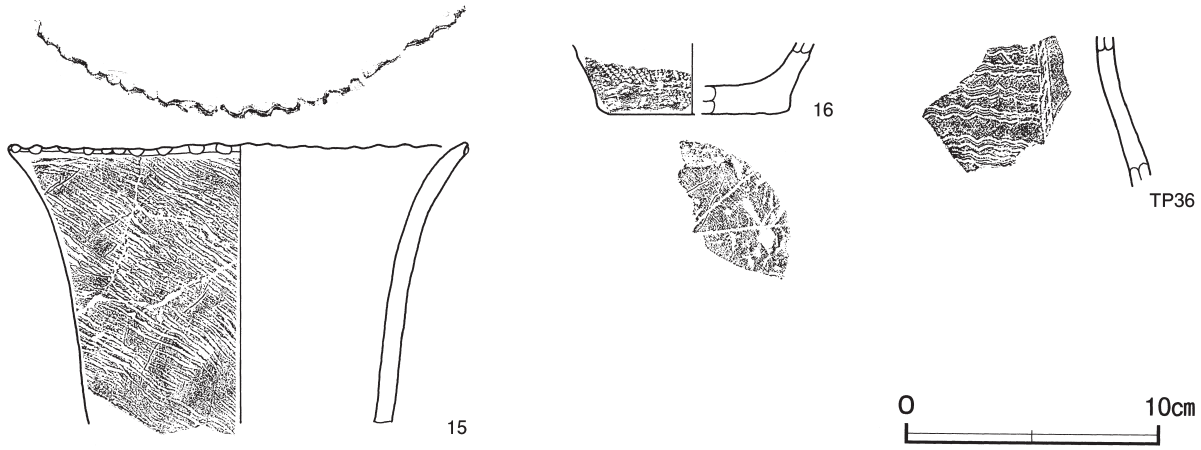
1　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗褐色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック中量
12　褐　色　ロームブロック中量
13　黒　色　ローム粒子・炭化粒子微量
14　灰褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子少量
15　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
16　暗褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
17　暗褐色　ローム粒子微量
18　黒褐色　ロームブロック少量
19　褐　色　ロームブロック中量(第12層よりやや明るい色調)
20　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
21　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
22　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
23　褐　色　ロームブロック多量



第32図　第３号住居跡実測図

遺物出土状況　弥生土器片 120 点のほか，混入した縄文土器片 13 点，土器片錘 1 点が出土している。15 は，南壁際の覆土中層から出土している。16 は，中央部の確認面に近い覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。また，炭化材や焼土の出土状況から，焼失住居と考えられる。



第 33 図　第３号住居跡出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表（第 33 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
15	弥生土器	甕	［18.0］	（11.0）	－	長石	にぶい橙	普通	口唇部に刻み目　附加条一種縄文施文	覆土中層	10%　PL14
16	弥生土器	壺	－	（2.8）	［7.4］	長石・石英	にぶい橙	普通	附加条一種縄文施文　底部木葉痕	覆土上層	５％

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP36	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい赤褐	櫛歯状工具（４本）による波状文	覆土中	

第４号住居跡（第 34・35 図）

位置　調査区中央部のＢ３f9 区，標高 21 mの台地上に位置している。

重複関係　第 63・64 号土坑を床下から確認した。

規模と形状　長軸 5.35 m，短軸 4.45 mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 18°－Ｗである。壁高は８～ 20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，北東コーナー部を除いて，壁際が硬化している。壁際の覆土中層から床面にかけて，焼土及び炭化材を確認した。

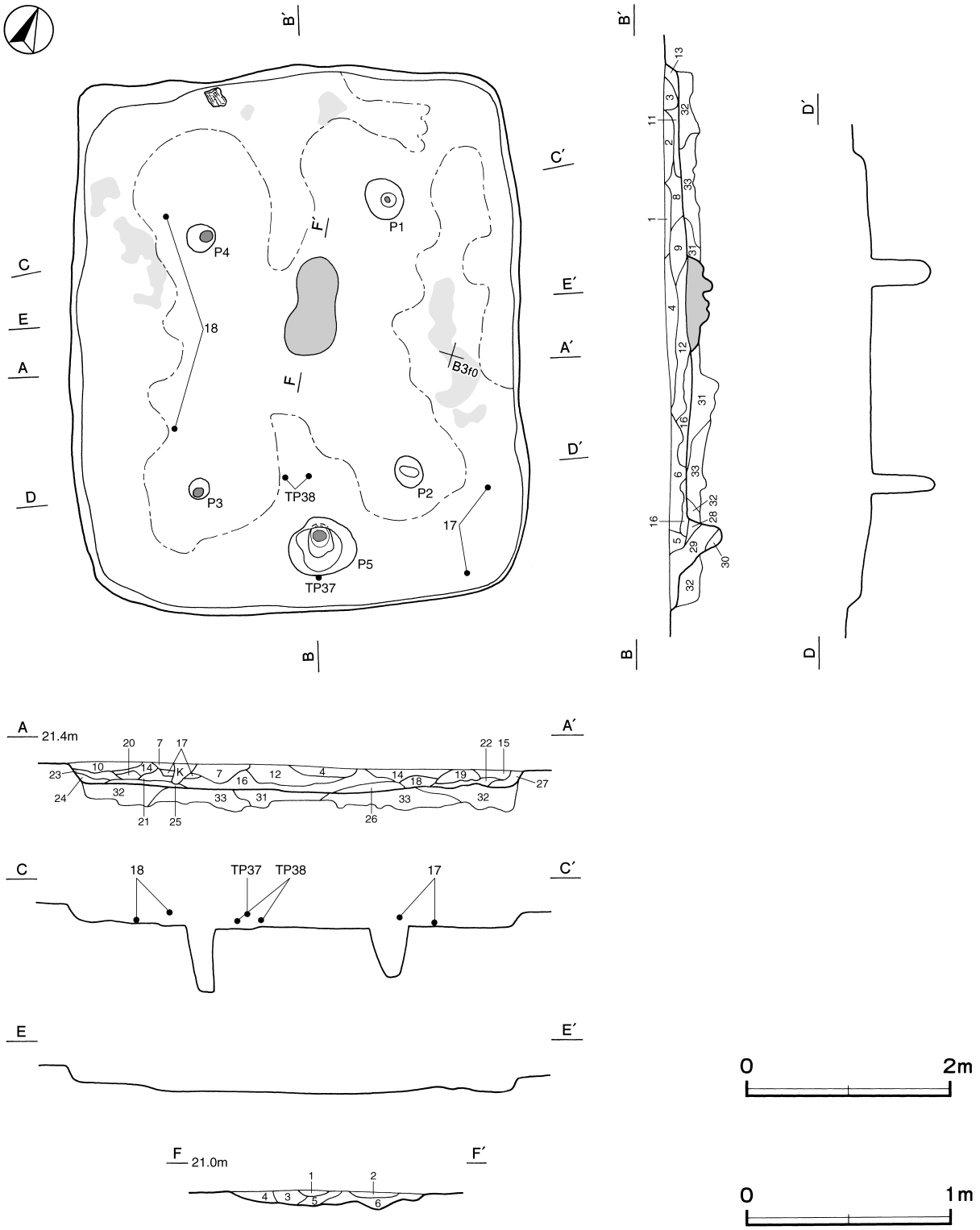
炉　中央部に付設されている。長径 95cm，短径 50cmの不整楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面から８cmほど掘りくぼめられた凹凸の有る面であるが，赤変硬化は認められない。

炉土層解説

1　黒　　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
2　にぶい黄褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子・黒色粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，黒色粒子少量，ローム粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子少量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子・黒色粒子少量，炭化粒子微量
6　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・黒色粒子少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ51～64cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ44cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１・Ｐ３～Ｐ５の底面に，径５～15cmの柱のあたりとみられる円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土　30層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお，第31～33層は貼床の構築土である。



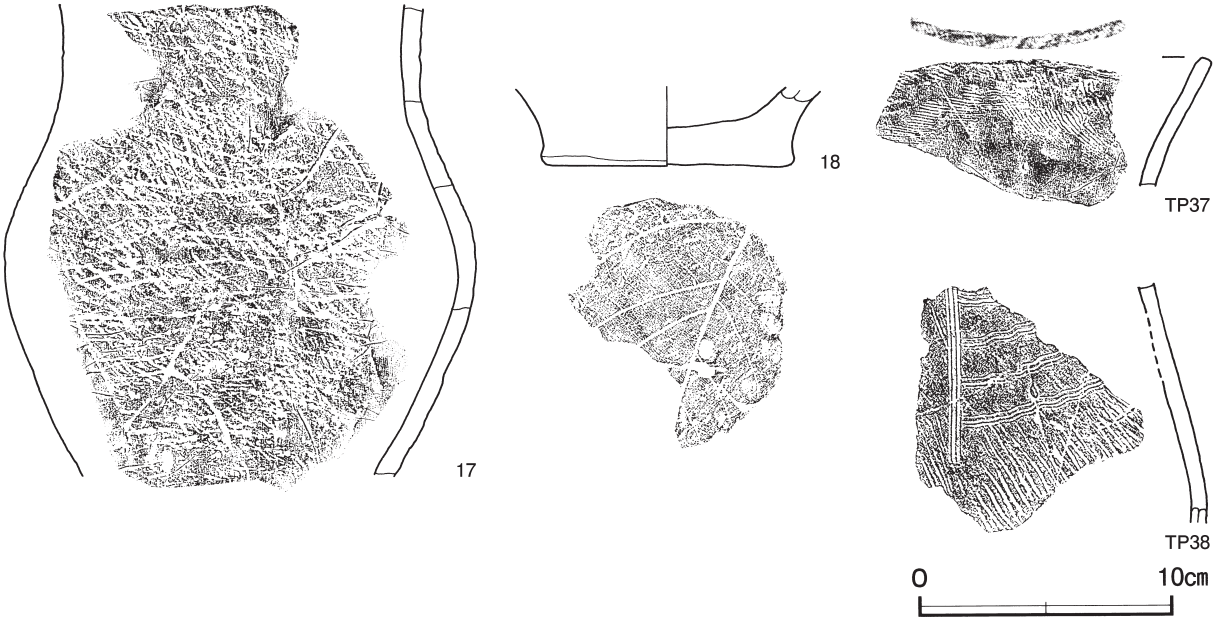
第34図　第４号住居跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　灰 黄 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・黒色粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量
12　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
13　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
14　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
15　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量
16　黒　褐　色　ロームブロック多量
17　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
18　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
19　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
20　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
21　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
22　にぶい黄褐色　焼土ブロック中量
23　褐　　色　ロームブロック中量
24　褐　　色　ロームブロック多量
25　黄　褐　色　ロームブロック多量
26　褐　　色　ロームブロック中量(第23層よりやや明るい色調)
27　灰 黄 褐 色　ロームブロック中量
28　褐　　色　ロームブロック多量（第24層よりやや暗い色調）
29　黒　褐　色　ロームブロック中量
30　暗　褐　色　ロームブロック中量
31　黄　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
32　灰 黄 褐 色　ロームブロック・黒色粒子中量
33　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片 173 点，石器 1 点（磨石），剥片 11 点のほか，混入した縄文土器片 37 点が出土している。17 は南東コーナー部，TP38 はＰ５の北側の覆土下層からそれぞれ出土している。18 は，西壁寄りの覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したものである。TP37 は，南壁際の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。また，炭化材や焼土の出土状況から，焼失住居と考えられる。



第 35 図　第４号住居跡出土遺物実測図

第４号住居跡出土遺物観察表（第 35 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
17	弥生土器	壺	－	(18.6)	－	長石・石英	褐	普通	短軸絡条体による網目状撚糸文	覆土下層	20%
18	弥生土器	壺	－	(3.2)	9.8	長石・石英	橙	普通	底部木葉痕	覆土下層 覆土中層	5％

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP37	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい赤褐	口唇部に縄文施文　口縁部に附加条一種縄文施文	覆土中層	PL15
TP38	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	櫛歯状工具（３本）による縦方向の区画内に波状文充填 胴部に附加条一種縄文施文	覆土下層	PL15

第６号住居跡（第 36・37 図）

位置　調査区中央部のＢ３e7 区，標高 21 mの台地上に位置している。

重複関係　第 65 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.50 m，短軸 5.05 mの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 40 ゜－Ｗである。壁高は 30 ～ 34cmで，外傾して立ち上がっている。

床　中央部を除いて，壁際が硬化している。炉の北側に深さ 10cmほどの円形状の凹みがある。炭化材及び焼土が集中して確認できたが，性格は不明である。また南東壁際の中央部はなだらかに傾斜して周囲より凹んでいる。平面形は長径 83cm，短径 65cmの半円形状を呈し，深さは 12cmである。位置から貯蔵穴の可能性が考えられるが，明確な痕跡は確認されていない。

炉　中央部に付設されている。長径 80cm，短径 68cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から７cmの深さに位置する第７層上面と考えられるが，赤変硬化は認められない。第７層は，掘方への埋土である。

炉土層解説

1	黒　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
2	黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
3	黒 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量	
4	黒 褐 色	焼土粒子少量，ローム粒子微量	
5	赤 褐 色	焼土ブロック多量，ロームブロック中量	
6	明赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量	
7	明黄褐色	ロームブロック中量	

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 40 ～ 45cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・Ｐ６は深さ 29cm・47cmで，ともに性格は不明である。Ｐ１～Ｐ４の底面に，柱のあたりとみられる径 10cmほどの円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

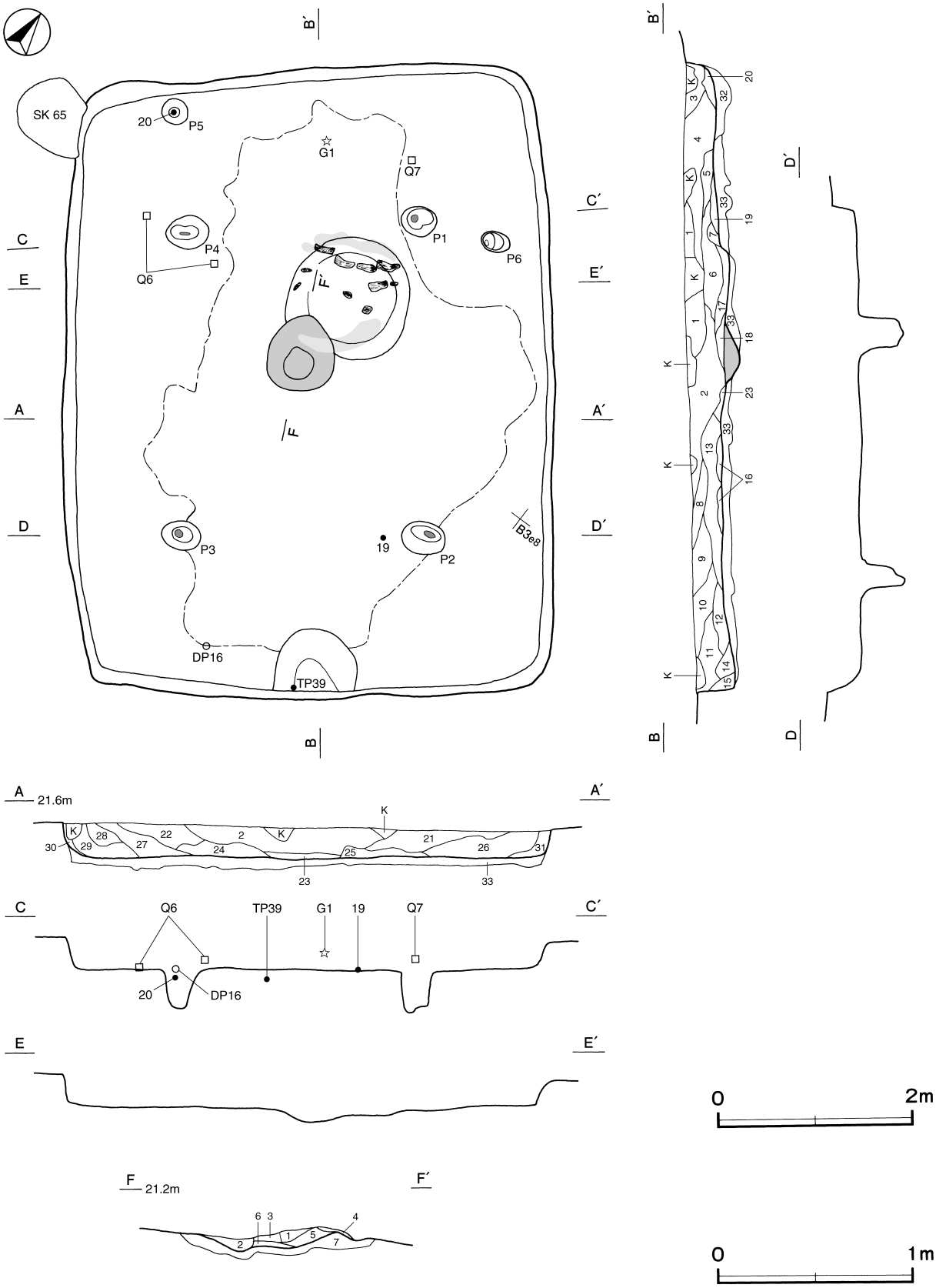
覆土　31 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。また，第 32・33 層は貼床の構築土である。

土層解説

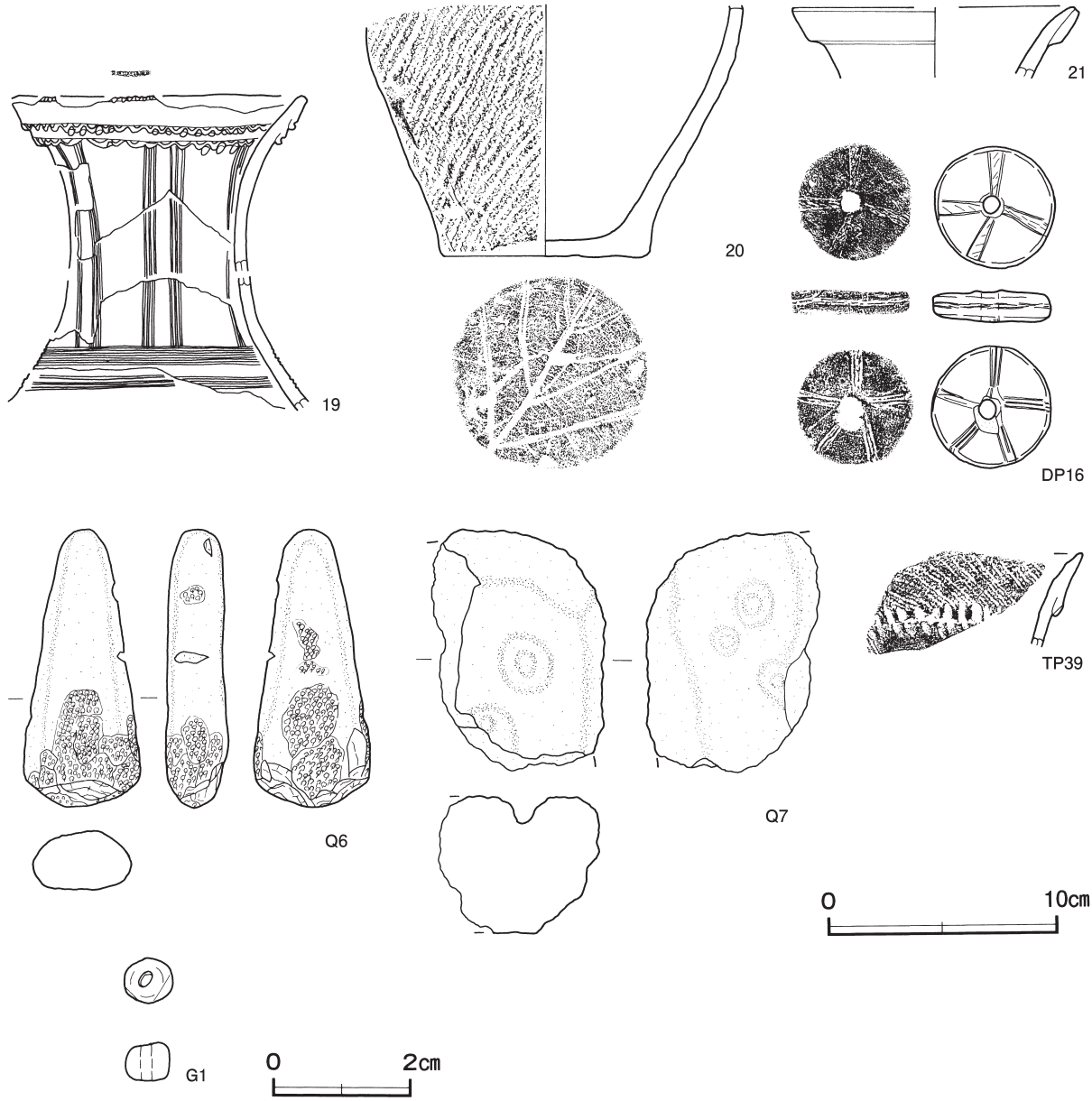
1	黒　色	黒色粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒 褐 色	黒色粒子少量，ロームブロック微量
3	暗 褐 色	ロームブロック・黒色粒子少量，炭化粒子微量
4	黒 褐 色	ロームブロック少量，黒色粒子微量
5	黒 褐 色	ロームブロック中量，黒色粒子少量
6	黒 褐 色	炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
8	黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
9	暗 褐 色	黒色粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子少量，ローム粒子微量
11	暗 褐 色	ローム粒子少量，黒色粒子微量
12	暗 褐 色	ロームブロック少量，炭化粒子・黒色粒子微量
13	黒 褐 色	ローム粒子・黒色粒子少量
14	暗 褐 色	ロームブロック・炭化物・黒色粒子微量
15	黒 褐 色	ロームブロック・黒色粒子少量
16	黒 褐 色	ロームブロック中量
17	黒 褐 色	炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
18	黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
19	暗 褐 色	ロームブロック多量
20	暗 褐 色	ロームブロック少量
21	黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
22	黒 褐 色	ローム粒子・黒色粒子微量
23	暗 褐 色	ロームブロック中量，黒色粒子少量
24	灰黄褐色	ロームブロック少量，黒色粒子微量
25	黒 褐 色	ロームブロック多量
26	暗 褐 色	ロームブロック・黒色粒子少量
27	暗 褐 色	ロームブロック・黒色粒子少量，焼土粒子微量
28	黒 褐 色	ロームブロック・炭化粒子・黒色粒子微量
29	灰黄褐色	ロームブロック中量，黒色粒子微量
30	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，黒色粒子微量
31	暗 褐 色	ロームブロック少量，黒色粒子微量
32	黄 褐 色	ロームブロック中量，黒色粒子微量
33	黄 褐 色	ロームブロック・黒色粒子中量

遺物出土状況　弥生土器片 114 点，土製品１点（紡錘車），石器３点（敲石２，凹石１），ガラス製品１点（小玉）のほか，混入した縄文土器片 73 点が出土している。19 はＰ２の南西側，DP16 は南東壁際，Ｑ６は南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。20 はＰ５の覆土，TP39 は南東壁際中央部の凹みから，それぞれ出土している。Ｇ１は，北西壁際の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。確認できた炭化材や焼土は部分的であり，焼失住居か否かは明確でない。



第 36 図　第 6 号住居跡実測図



第 37 図　第６号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表（第 37 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
19	弥生土器	壺	[12.4]	(13.7)	－	長石・石英	灰褐	普通	口唇部に刻み目　複合口縁下端に交互刺突文 頸部は櫛歯状工具（３本）による縦方向の区画	覆土下層	20%　PL14
20	弥生土器	壺	－	(11.0)	8.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部に附加条一種縄文施文　底部木葉痕	Ｐ５覆土	40%　PL14
21	弥生土器	壺	[12.1]	(3.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	複合口縁　無文	覆土中	５％

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP39	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	複合口縁に附加条一種縄文施文　口縁部下端に棒状工具による刺突	南東壁際凹み	PL15

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP16	紡錘車	5.2	1.4	0.8	42.6	長石・石英	上面・下面・側面に櫛描文	覆土下層	PL14

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q 6	敲石	12.2	5.1	2.8	(193)	シルト岩	両面・側面下端に敲打痕　被熱痕有	覆土下層	PL16
Q 7	凹石	(10.6)	(7.6)	(6.0)	(630)	花崗岩	両面に断面形がＶ字状の凹み	覆土中層	PL16

番号	器　種	長さ	径	孔径	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
G 1	小玉	0.58	0.68	0.19	0.4	ガラス	濃青　管切りヵ	覆土中層	PL16

第７号住居跡（第 38 図）

位置　調査区東部のＢ４f3 区，標高 21 mの台地上に位置している。

重複関係　第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北東部が調査区域外に延びているため，確認できたのは南北軸 1.27 m，東西軸 5.07 mのみである。平面形は，一辺 5.0 mほどの隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。壁高は 35 ～ 50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，壁際が硬化している。壁下には壁溝が巡っている。

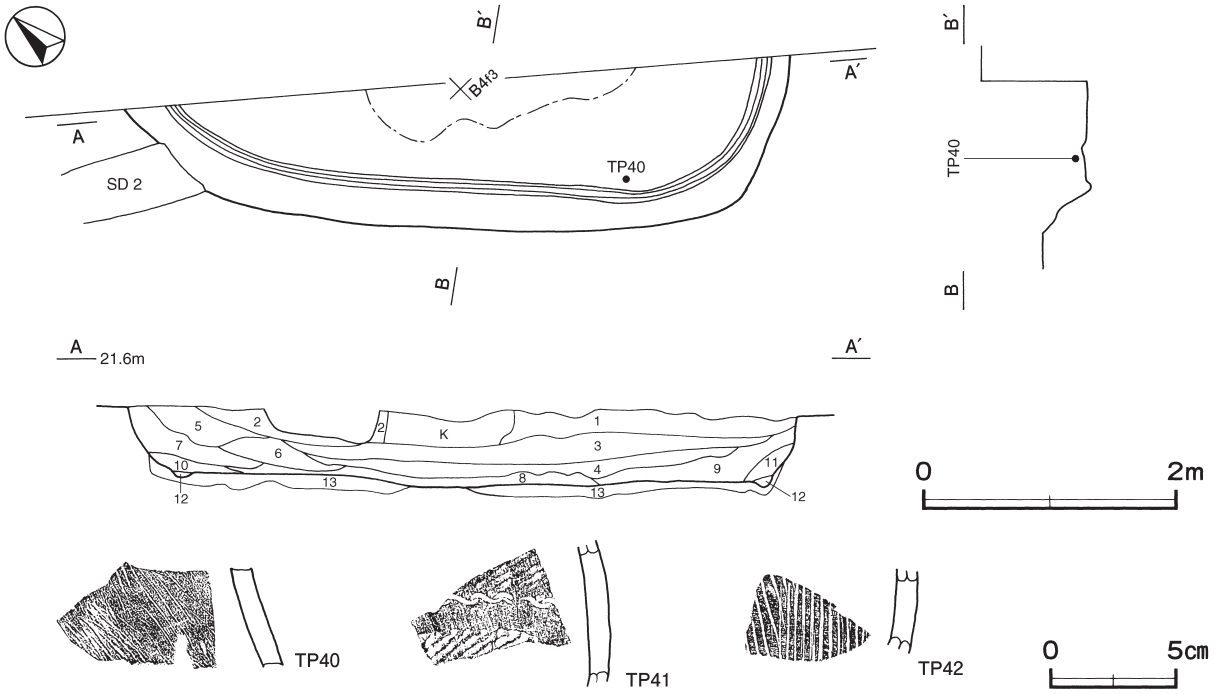
覆土　12 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。また，第 13 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・黒色粒子中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　黒色粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　黒色粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　　色　黒色粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，黒色粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
13　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子中量

遺物出土状況　弥生土器片 27 点，剥片１点のほか，混入した縄文土器片 37 点が出土している。TP40 は，南西壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第 38 図　第７号住居跡・出土遺物実測図

第７号住居跡出土遺物観察表（第 38 図）

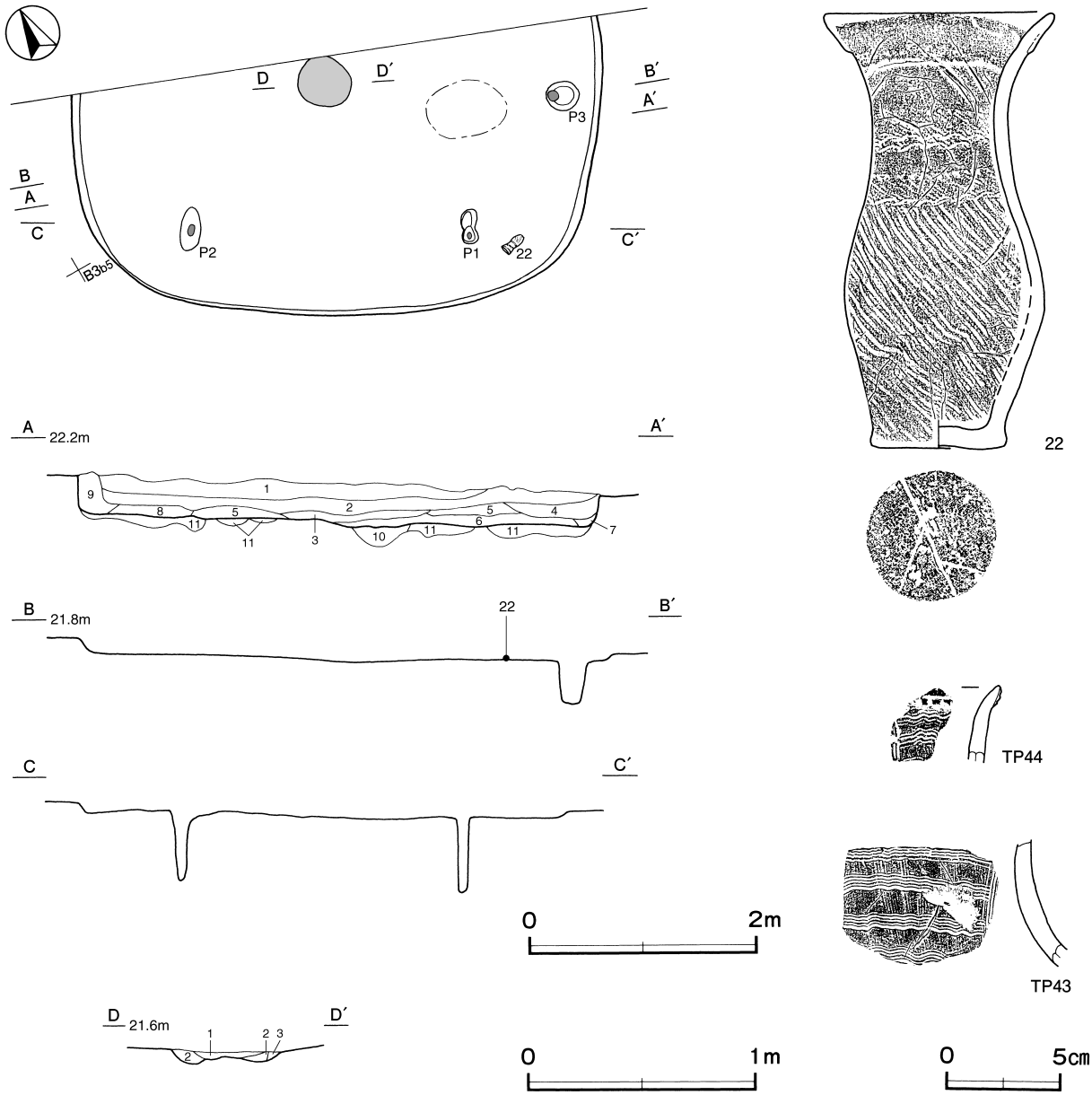
番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備　考
TP40	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい赤褐	附加条縄文施文	覆土下層	
TP41	弥生土器	壺	長石	にぶい黄褐	単節縄文　Ｓ字状の結節文	覆土下層	
TP42	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄橙	附加条縄文施文	覆土下層	

第８号住居跡（第 39 図）

位置　調査区中央部のＢ３b5 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

規模と形状　北部が調査区域外に延びているため，南北軸は 2.36 ｍが確認されただけで，東西軸は 4.70 ｍである。平面形は主軸方向がＮ－ 58°－Ｗで，一辺 4.7 ｍほどの隅丸方形又は隅丸長方形と推定できる。壁高は６～ 25㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，炉南東側の一部を除いて，全体的に硬化している。



第 39 図　第８号住居跡・出土遺物実測図

炉　ほぼ中央部に付設されていたと推測できる。径50cmほどの円形を呈する地床炉である。炉床は床面から５cmほど掘りくぼめられた凹凸の有る面であるが，赤変硬化は認められない。

炉土層解説

1　黒　　色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ65cm・59cmで，配置から主柱穴と考えられる。東壁際に位置するＰ３は深さ37cmで，炉と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットの可能性がある。Ｐ１～Ｐ３の底面に，柱のあたりとみられる径４～10cmの円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土　９層に分層できる。第１・２層はレンズ状の堆積状況から自然堆積とみられるが，第３層以下は，ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。また，第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・黒色粒子微量
2　黒　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子・黒色粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
7　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
9　暗　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック微量
10　明赤褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，黒色粒子微量
11　明黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片42点，土製品１点（紡錘車）のほか，混入した縄文土器片５点が出土している。22は，南コーナー部の床面に近い覆土下層から横位で出土している。TP43・TP44は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。

第８号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
22	弥生土器	壺	9.9	19.2	5.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部無文　頸部無文帯の上下に附加条縄文及び結節文　胴部に附加条一種縄文施文　底部木葉痕	覆土下層	95%　PL14

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	櫛歯状工具（５本）による縦方向の区画内に波状文充填	覆土中	PL15
TP44	弥生土器	壺	長石	にぶい黄橙	櫛歯状工具（４本）による波状文	覆土中	

第10号住居跡（第40・41図）

位置　調査区中央部のＢ３c3区，標高22ｍの台地上に位置している。

規模と形状　長軸4.19ｍ，短軸4.10ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－27°－Ｗである。壁高は10～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　南コーナー部に若干の高まりがある以外は，ほぼ平坦である。中央部から南西壁際にかけて硬化している。

炉　中央部の北寄りに付設されている。径60cmほどの円形を呈する地床炉である。炉床は床面から９cmの深さに位置する第11層上面であり，火を受けて赤変硬化している。第11層は，掘方への埋土である。

炉土層解説

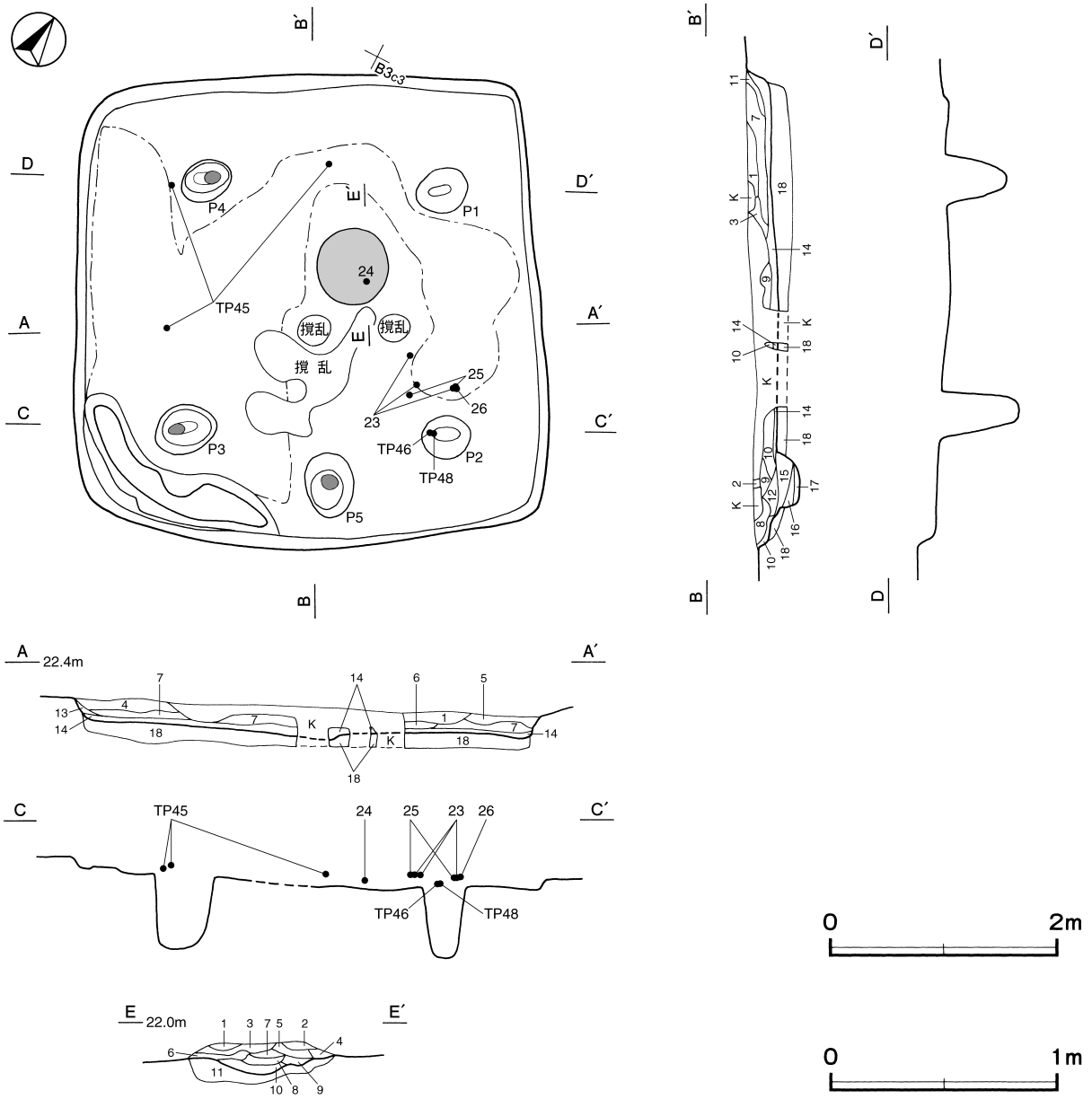
1　黒　　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　　色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗赤灰色　焼土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　灰黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ54～69cmで，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ25cmで，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３～Ｐ５の底面に，柱のあたりとみられる径10cmほどの円形及び楕円形の硬化範囲が認められる。

覆土　17層に分層できる。撹乱を受けており全容は不明であるが，多くの層にロームブロックが含まれており，埋め戻されていると考えられる。また，第18層は貼床の構築土である。

土層解説

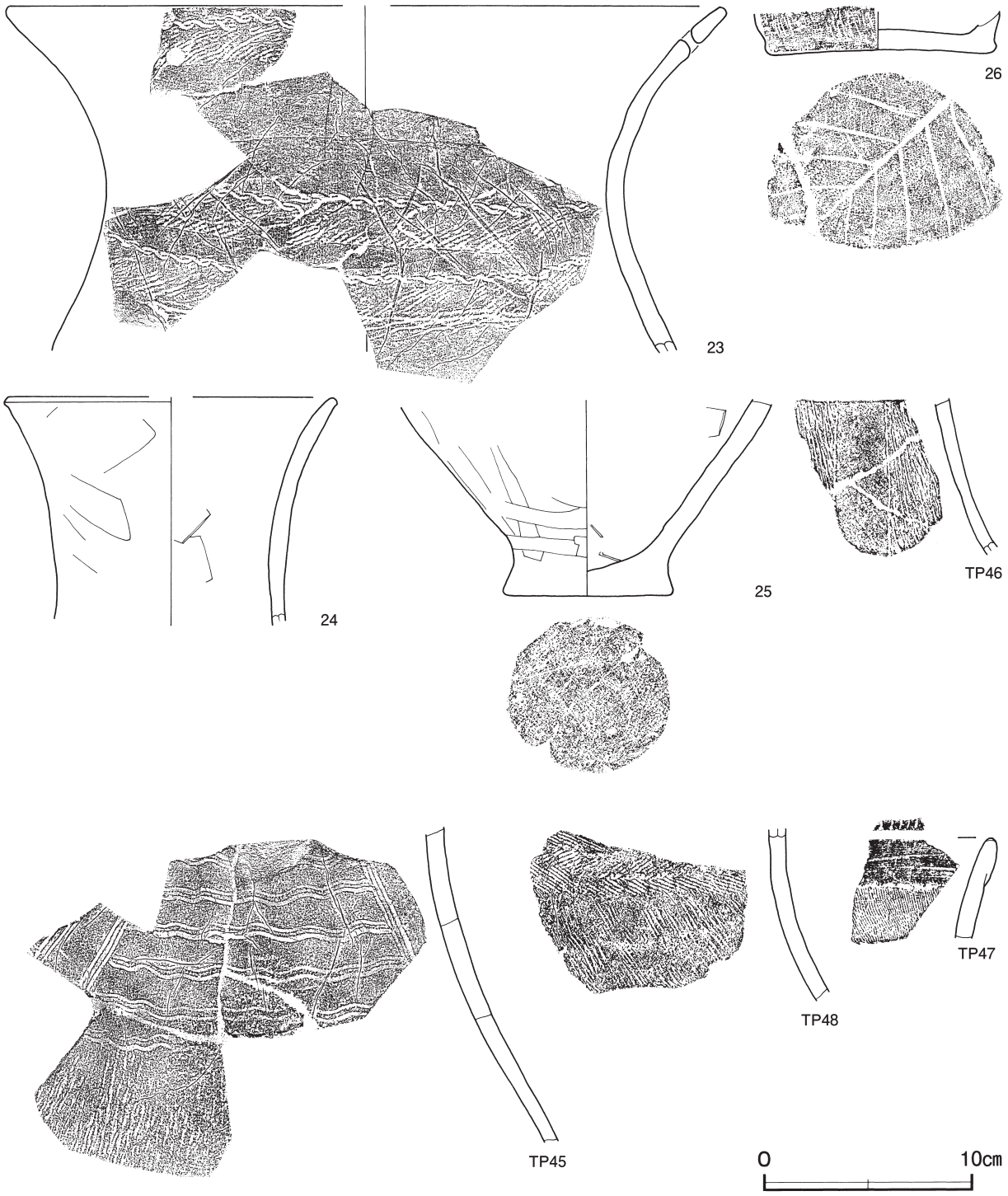
1	黒　　色	黒色粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗　褐　色	ロームブロック・黒色粒子少量，炭化物微量	
3	黒　　色	ロームブロック・黒色粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
4	黒　　色	黒色粒子中量，ロームブロック少量	
5	黒　褐　色	黒色粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	
6	灰黄褐色	ロームブロック少量	
7	褐　　色	黒色粒子中量，ロームブロック少量	
8	にぶい黄褐色	ロームブロック・黒色粒子少量	
9	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，黒色粒子微量	
10	褐　　色	ロームブロック中量，黒色粒子微量	
11	褐　　色	ロームブロック少量，黒色粒子微量	
12	黒　褐　色	ロームブロック少量，黒色粒子微量	
13	暗　褐　色	ロームブロック・黒色粒子中量	
14	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量	
15	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，黒色粒子少量	
16	黒　褐　色	ロームブロック・黒色粒子少量	
17	褐　　色	ロームブロック多量，黒色粒子微量	
18	褐　　色	ロームブロック多量	



第40図　第10号住居跡実測図

遺物出土状況　弥生土器片 597 点，剥片３点のほか，混入した縄文土器片７点が，Ｐ２周囲の覆土上層から下層にかけて集中して出土している。TP46・TP48 はＰ２直上の覆土下層，24 は炉直上の覆土中層，23・25・26 はＰ２北西側の覆土上層からそれぞれ出土している。TP45 は，炉の北西側の覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。



第 41 図　第 10 号住居跡出土遺物実測図

第 10 号住居跡出土遺物観察表（第 41 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
23	弥生土器	壺	［34.0］	（16.5）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部に単節縄文及び結節文　頸部無文帯の上下に単節縄文及び結節文　補修孔有り	覆土上層	５％　PL14
24	弥生土器	壺	［15.5］	（10.9）	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外・内面ヘラナデ整形	覆土中層	５％
25	弥生土器	壺	－	（9.4）	7.6	長石・石英	橙	普通	外・内面ヘラナデ整形	覆土上層	５％
26	弥生土器	壺	－	（2.0）	10.4	長石・石英	にぶい橙	普通	附加条縄文施文　底部木葉痕	覆土上層	５％

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP45	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	櫛歯状工具（２本）による縦方向の区画内に波状文充填　胴部に附加条一種縄文施文	覆土中層	PL15
TP46	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	沈線による縦方向の区画内を赤彩　沈線文	覆土下層	PL15
TP47	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	口唇部に刻み目　附加条一種縄文施文	覆土中	PL15
TP48	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	頸部単節縄文による羽状構成　胴部に附加条一種縄文施文	覆土下層	

第 11 号住居跡（第 42・43 図）

位置　調査区西部のＢ２h0 区，標高 22 ｍの台地上に位置している。

重複関係　第 135・136 号土坑を床下から確認した。第４号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 7.48 ｍ，短軸 6.60 ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 47°－Ｗである。壁高は 15 ～ 24㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。中央部の南東側及びピットの周囲を除いて，硬化している。

炉　中央部に付設されている。長径 133㎝，短径 59㎝の楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から５㎝の深さに位置する第３～７層上面であり，火を受けて赤変硬化している。第３～７層は，掘方への埋土である。

炉土層解説

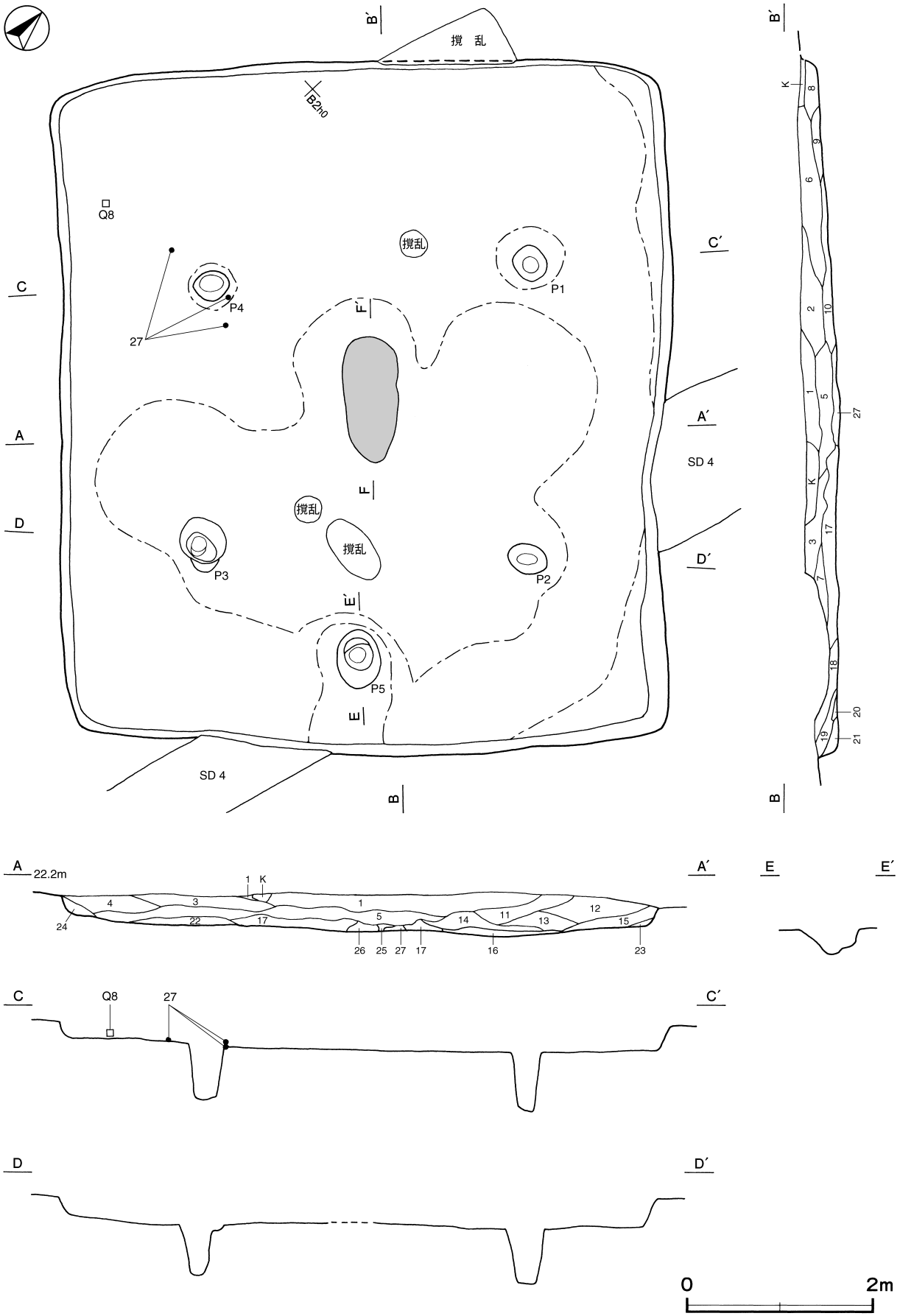
1　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・黒色粒子少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
5　灰黄褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・黒色粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，黒色粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 52 ～ 65㎝で，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ 28㎝で，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

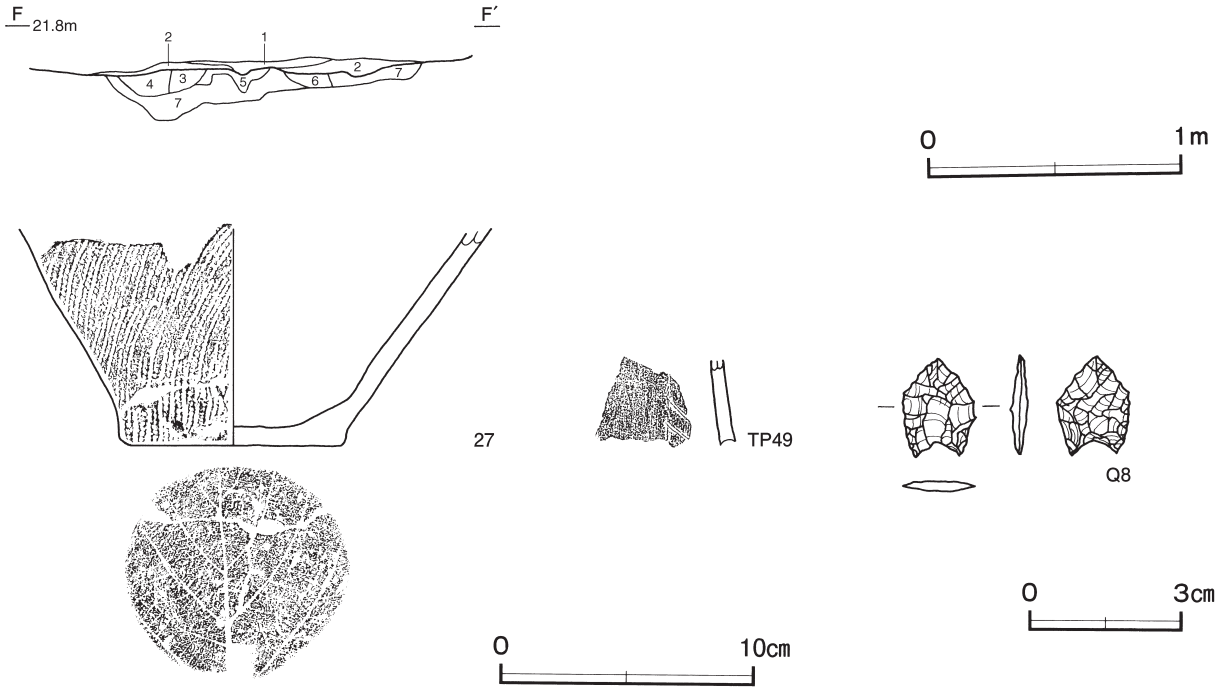
覆土　27 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　　色　黒色粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子・黒色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　黒色粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子微量
5　黒　　色　黒色粒子少量，ローム粒子微量
6　黒　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック微量
7　黒　褐　色　黒色粒子中量，ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・黒色粒子少量
9　黒　　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　黒色粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
12　黒　褐　色　ローム粒子・黒色粒子中量
13　黒　褐　色　黒色粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　黒　褐　色　ローム粒子・黒色粒子中量，焼土粒子少量
15　黒　褐　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
16　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・黒色粒子微量
17　暗　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック微量
18　灰黄褐色　ローム粒子・黒色粒子少量
19　灰黄褐色　黒色粒子中量，ローム粒子少量
20　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子中量
21　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子微量
22　黒　褐　色　ローム粒子中量，黒色粒子微量
23　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
24　にぶい黄褐色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
25　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，黒色粒子・炭化粒子微量
26　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，黒色粒子少量，炭化粒子微量
27　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・黒色粒子少量



第 42 図　第 11 号住居跡実測図



第 43 図　第 11 号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　弥生土器片 41 点，土製品 1 点（土玉ヵ），石器 1 点（石鏃），剥片 5 点のほか，混入した縄文土器片 301 点，土器片円盤 1 点が出土している。27･Q 8 は，P 4 周囲の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。

第 11 号住居跡出土遺物観察表（第 43 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
27	弥生土器	壺	－	(8.5)	8.4	長石・石英	にぶい赤褐	普通	附加条一種縄文施文　底部に木葉痕	覆土下層	30%

番号	種　別	器種	胎　土	色　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP49	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	沈線文	覆土中	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Q 8	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.7	黒曜石	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	覆土下層	PL16

表 5　弥生時代竪穴住居跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	(cm)			主柱穴	出入口	ピット	炉	貯蔵穴				重複関係（古→新）
3	B 3 h9	N － 21° － W	隅丸方形	3.54 × 3.50	11 ～ 15	平坦	－	－	2	－	1	－	人為	弥生土器	後期前葉	
4	B 3 f9	N － 18° － W	隅丸長方形	5.35 × 4.45	8 ～ 20	平坦	－	4	1	－	1	－	人為	弥生土器・磨石	後期前葉	SK63・64 →本跡
6	B 3 e7	N － 40° － W	隅丸長方形	6.50 × 5.05	30 ～ 34	一部凹み	－	4	－	2	1	－	人為	弥生土器・紡錘車・敲石・凹石・ガラス小玉	後期前葉	本跡→ SK65
7	B 4 f3	－	[隅丸方形][隅丸長方形]	(1.27 × 5.07)	35 ～ 50	平坦	一部	－	－	－	－	－	人為	弥生土器	後期	本跡→ SD 2
8	B 3 b5	N － 58° － W	[隅丸方形][隅丸長方形]	(2.36) × 4.70	6 ～ 25	平坦	－	2	1	－	1	－	自然人為	弥生土器・紡錘車	後期前葉	
10	B 3 c3	N － 27° － W	隅丸方形	4.19 × 4.10	10 ～ 35	平坦	－	4	1	－	1	－	人為	弥生土器	後期前葉	
11	B 2 h0	N － 47° － W	隅丸長方形	7.48 × 6.60	15 ～ 24	平坦	－	4	1	－	1	－	人為	弥生土器・石鏃・土玉ヵ	後期	SK135・136 →本跡→ SD 4

３　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴住居跡２軒を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

竪穴住居跡

第２号住居跡（第 44・45 図）

位置　調査区東部のＢ４e1 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

規模と形状　長軸 3.65 ｍ，短軸 3.57 ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－ 22゜－Ｗである。壁高は８～ 14㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，中央部を除き壁際が硬化している。

炉　中央部の東寄りに付設されている。長径 38㎝，短径 31㎝の楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面とほぼ同じ高さに位置する第２・３層上面と考えられるが，赤変硬化は認められない。

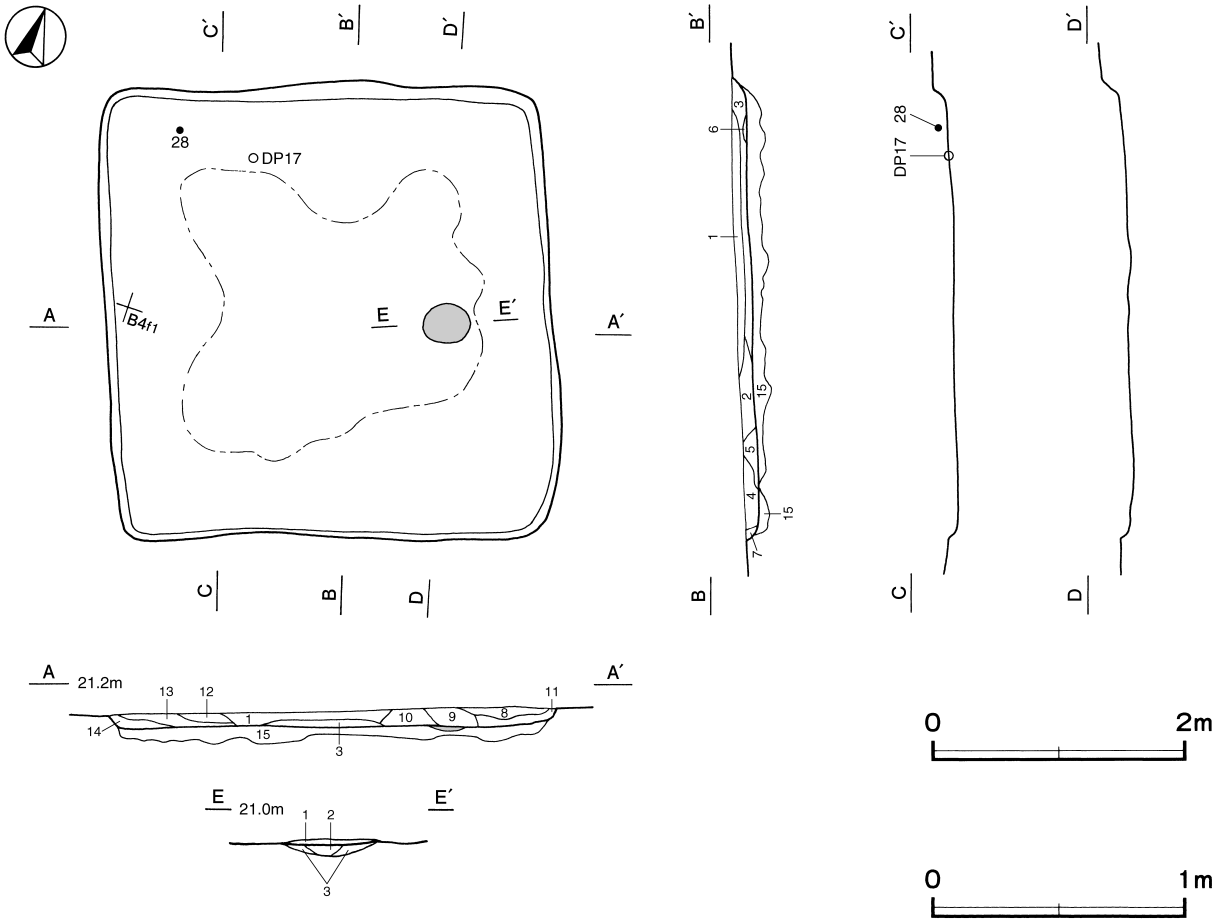
炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　灰黄褐色　ロームブロック多量

覆土　14 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお，第 15 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
7　灰黄褐色　ロームブロック多量
8　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化物微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
11　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
13　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
14　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量



第 44 図　第２号住居跡実測図

第45図　第２号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片23点（器台２，壺・甕類６，不明15），土製品１点（土玉），剥片１点のほか，混入した縄文土器片28点，弥生土器片７点，土器片錘２点が出土している。DP17・28は，北壁際の床面及び覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期前半と考えられる。

第２号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
28	土師器	器台	5.9	4.6	7.6	長石・石英	にぶい橙	普通	受部外・内面ナデ　脚部外面ヘラ磨き　内面ヘラ削り後，ナデ	覆土上層	60%　PL15

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP17	土　玉	3.8	3.3	0.4	31.6	長石	表面ナデ　一方向から穿孔	床面	PL15

第５号住居跡（第46・47図）

位置　調査区中央部のＢ３g8区，標高21ｍの台地上に位置している。

規模と形状　長軸4.86ｍ，短軸4.72ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は30～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，炉の周囲と壁際を除いて硬化している。壁下には壁溝が巡っている。

炉　２か所。炉１は，中央部の東寄りに付設されている。長径75cm，短径56cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から８cmの深さに位置する第６層上面で，火を受けて赤変硬化している。炉２は，炉１の南西側に位置し，径30cmほどの円形を呈する地床炉である。炉床は床面から５cmの深さに位置する第７～11層上面と考えられるが，赤変硬化は認められない。炉１・２の覆土には，硬化した層が認められないことから，２か所とも併用されていたものと考えられる。

炉１・２土層解説

1　赤　黒　色　焼土ブロック・炭化物中量，ローム粒子少量
2　灰　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子中量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　黄　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
7　灰黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
8　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子少量
10　黄　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
11　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

ピット　南東壁際の中央部に位置するＰ１は深さ38cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１の底面に，径10cmほどの柱のあたりとみられる円形の硬化範囲が認められる。

貯蔵穴　南東壁際の中央部よりやや東寄りに位置し，平面形は長径80cm，短径48cmの半円形状を呈し，深さは21cmである。底面はやや凹凸があり，壁は外傾して立ち上がっている。

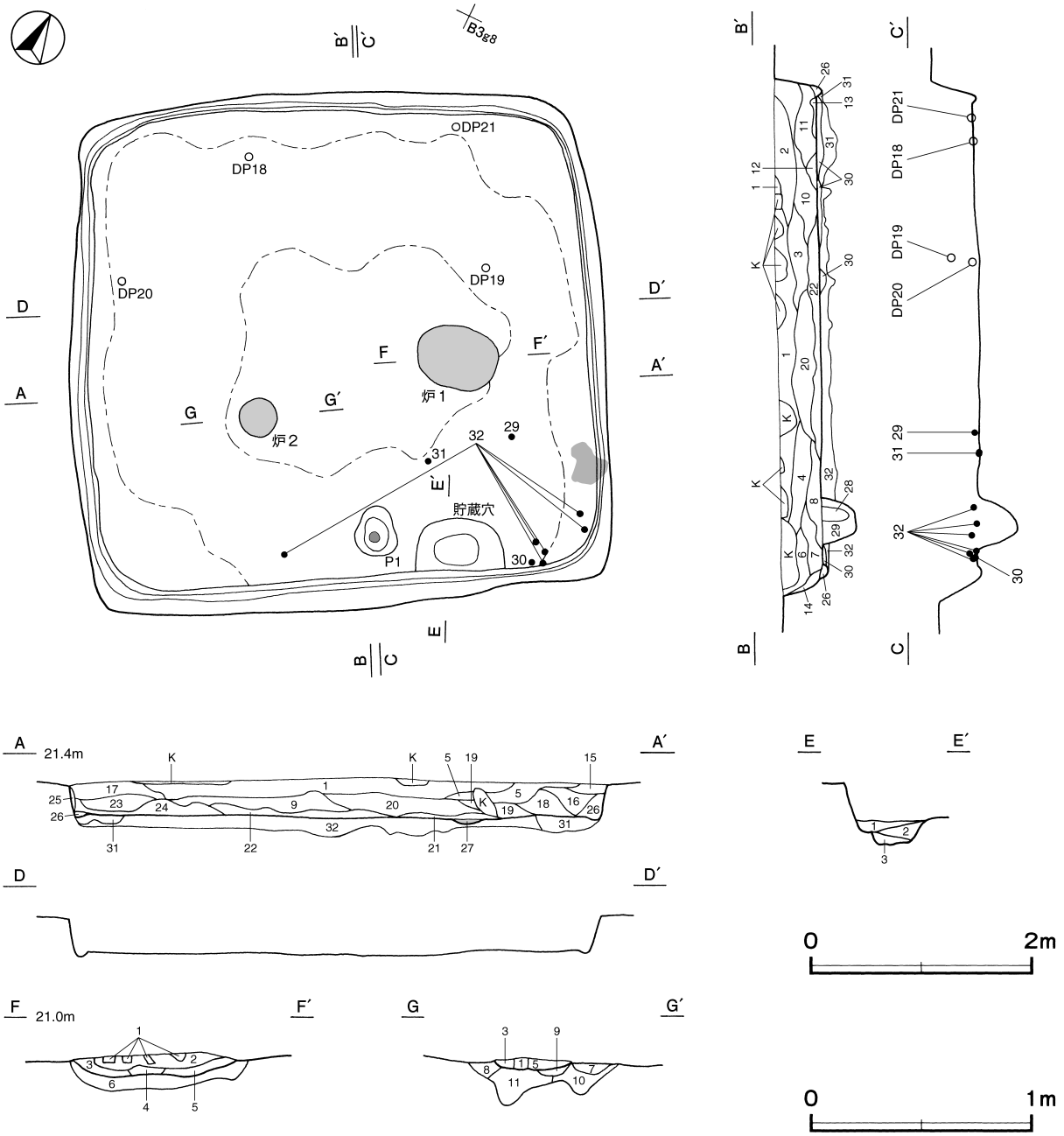
貯蔵穴土層解説

1　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　29 層に分層できる。第 1 層は含有物が少なく自然堆積とみられるが，第 2 層以下はブロック状の堆積状況から埋め戻されている。なお，第 30 ～ 32 層は貼床の構築土である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，黒色粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・黒色粒子微量
5　黒　褐　色　黒色粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
7　暗　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子中量
9　黒　　色　黒色粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
10　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
11　褐　　色　ロームブロック・黒色粒子中量
12　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子少量，焼土粒子微量
13　黄　褐　色　ロームブロック多量，黒色粒子少量
14　黄　褐　色　ロームブロック中量
15　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
16　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
17　黒　褐　色　ロームブロック，黒色粒子中量

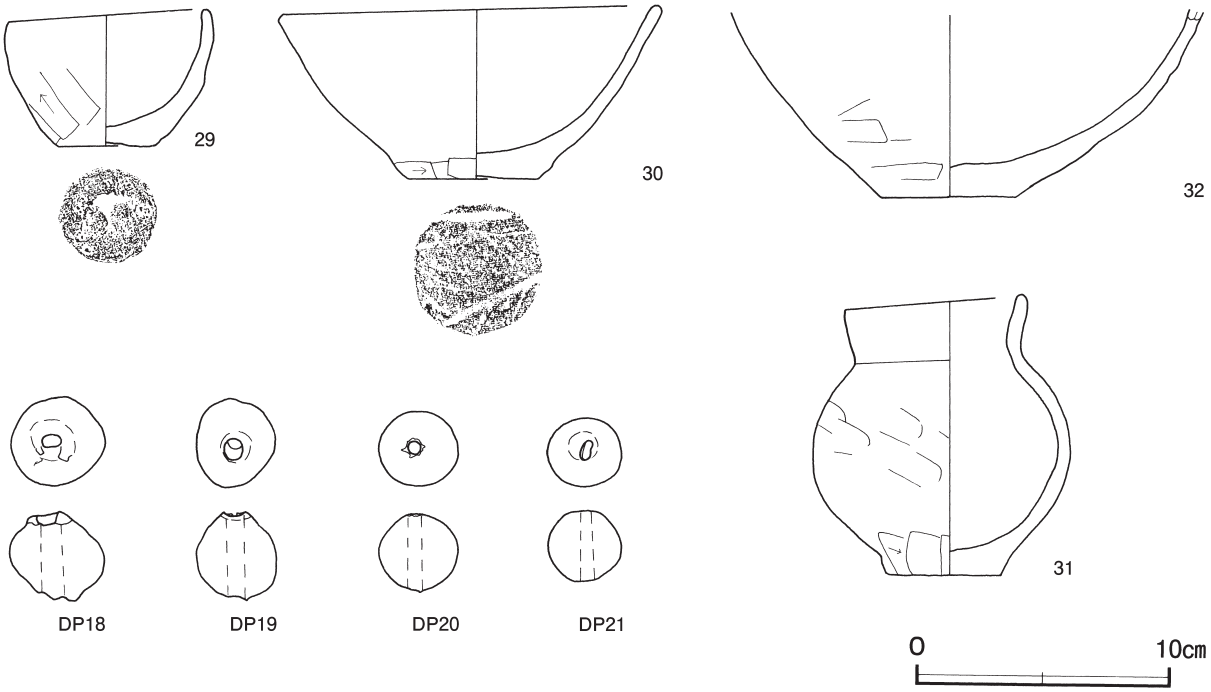


第 46 図　第 5 号住居跡実測図

18　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，黒色粒子少量
19　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
20　黒　褐　色　ローム粒子中量，黒色粒子少量，焼土粒子微量
21　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量
22　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子中量
23　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック微量
24　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子少量
25　黄　褐　色　ロームブロック多量
26　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量
27　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック少量
28　黒　褐　色　ロームブロック中量
29　褐　　色　ロームブロック少量
30　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子中量
31　黒　　色　黒色粒子多量，ロームブロック少量
32　黄　褐　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量

遺物出土状況　土師器片 24 点（椀１, 鉢２, 小形壺１, 甕１, 壺･甕類 17, 不明２), 土製品４点（土玉）のほか, 混入した縄文土器片 139 点, 弥生土器片 56 点が, 東コーナー部の覆土下層から集中して出土している。31 は, 貯蔵穴北側の床面に近い覆土下層から斜位で出土している。32 は, 東コーナー部の覆土下層から散在して出土した破片が接合したものである。29 は北東壁寄り, 30 は東コーナー部, DP18・DP20・DP21 は壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。DP19 は, 北東壁寄りの覆土中層から出土している。また, 北東壁際の覆土中層から上層にかけて, 投棄されたヤマトシジミが出土しており, 殻長が２～４㎝のものが主体である（表６)。

所見　遺物の出土状況から, 貝や土器は廃絶後の埋め戻しの際に, 東コーナー側から投棄されたと想定できる。時期は, 出土土器から前期と考えられる。



第 47 図　第５号住居跡出土遺物実測図

第５号住居跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
29	土師器	椀	7.3	5.4	3.6	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土下層	95%　PL15
30	土師器	鉢	14.6	6.8	5.0	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ　底部周縁ヘラ削り後，ナデ	覆土下層	100%　PL15
31	土師器	小形壺	6.8	11.0	4.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　底部周縁ヘラ削り後，ナデ	覆土下層	90%　PL15
32	土師器	甕	－	(7.2)	5.4	長石	橙	普通	外面ヘラ削り後，ナデ　内面ナデ	覆土下層	30%

番号	器　種	径	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP18	土　玉	3.7	3.5	0.8	33.0	長石・石英・赤色粒子	表面ナデ　一方向から穿孔	覆土下層	PL15
DP19	土　玉	3.2	3.5	0.7	34.9	長石	表面ナデ　一方向から穿孔	覆土中層	PL15
DP20	土　玉	3.1	3.1	0.6	26.7	長石・石英	表面ナデ　一方向から穿孔	覆土下層	PL15
DP21	土　玉	3.0	2.7	0.7	19.4	長石・石英	表面ナデ　一方向から穿孔	覆土下層	PL15

表６　第５号住居跡出土貝種別集計表

殻　　長	1.0cm未満	1.0cm～1.5cm未満	1.5cm～2.0cm未満	2.0cm～2.5cm未満	2.5cm～3.0cm未満	3.0cm～3.5cm未満	3.5cm～4.0cm未満	4.0cm～4.5cm未満	小計（個）	総合計（個）
ヤマトシジミ	1	1	5	39	31	41	17	4	139	203

※殻頂部が残っているものを集計の対象（総合計）とし，さらに殻長が計測できるものは，大きさ別に集計（小計）した。

表７　古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	（cm）			主柱穴	出入口	ピット	炉	貯蔵穴				重複関係（古→新）
2	Ｂ４e1	N－22°－W	隅丸方形	3.65 × 3.57	８～14	平坦	－	－	－	－	1	－	人為	土師器・土玉	前期前半	
5	Ｂ３g8	N－25°－W	隅丸方形	4.86 × 4.72	30～40	平坦	全周	－	1	－	2	1	自然人為	土師器・土玉・ヤマトシジミ	前　　期	

４　中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は，墓坑の可能性がある土坑９基，溝跡２条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　墓坑の可能性がある土坑

確認できた土坑の中で，出土遺物が少ないため時期や性格が不明なものも多いが，覆土が人為的に埋め戻されており，またその形状から墓坑の可能性がある９基を掲載する。以下，出土遺物を図示した第 52・55・108 号土坑については文章で説明し，その他の土坑については，それぞれ実測図と土層解説，一覧表で掲載する。

第 52 号土坑（第 48 図）

位置　調査区中央部のＢ３d0 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

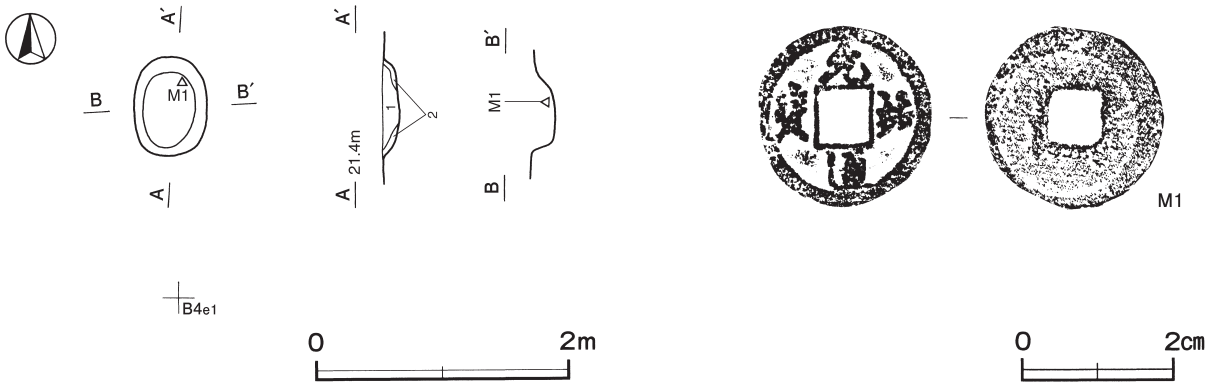
規模と形状　長径 0.78 ｍ，短径 0.58 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－０°である。深さは 15cmで，底面はほぼ平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説
１　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・黒色粒子微量　　２　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子少量

遺物出土状況　銭貨１点（元祐通寶）が出土している。Ｍ１は，北壁際の覆土中層から出土している。

所見　銭貨が出土しており覆土が埋め戻されていることから，土坑墓と考えられる。時期は，中世以降と考えられる。



第 48 図　第 52 号土坑・出土遺物実測図

第 52 号土坑出土遺物観察表（第 48 図）

番号	銭　名	径	孔径	厚さ	重量	初鋳年	材質	特　　徴	出土位置	備　考
M 1	元祐通寶	2.4	0.7	0.2	2.5	1086	銅	行書	覆土中層	PL16

第 55 号土坑（第 49 図）

位置　調査区中央部のＢ３d9 区，標高 21 mの台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.14 m，短径 0.95 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 44°－Ｅである。深さは 32cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

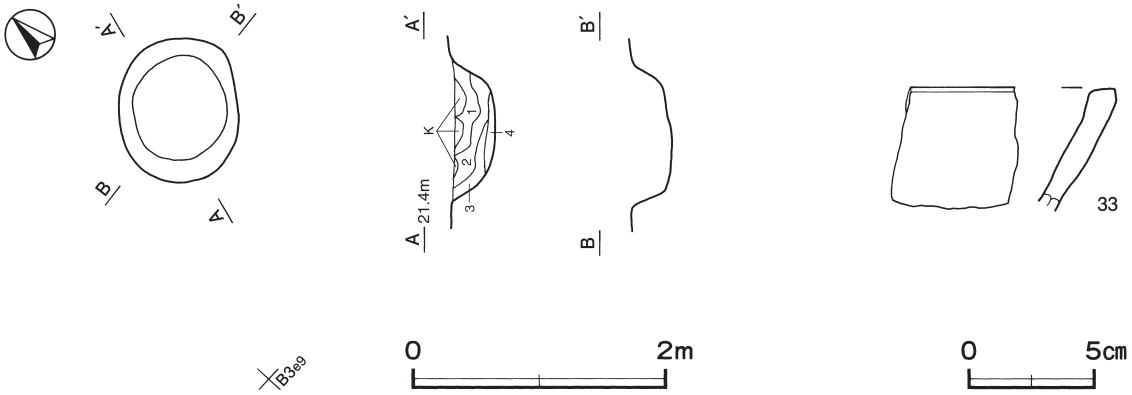
覆土　４層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，黒色粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量

遺物出土状況　土師質土器片１点（鍋）が出土している。33 は，覆土中から出土している。

所見　覆土が埋め戻されていることから，土坑墓の可能性がある。時期は，出土土器から中世以降と考えられる。



第 49 図　第 55 号土坑・出土遺物実測図

第 55 号土坑出土遺物観察表（第 49 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
33	土師質土器	鍋	－	(4.8)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部片　外面煤付着	覆土中	5％

第 108 号土坑（第 50 図）

位置　調査区中央部のＢ３e1 区，標高 21 ｍの台地上に位置している。

規模と形状　長径 1.73 ｍ，短径 1.53 ｍの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 85°－Ｗである。深さは 98㎝で，底面の中央部には方形状の凹みがある。壁は外傾して立ち上がっている。

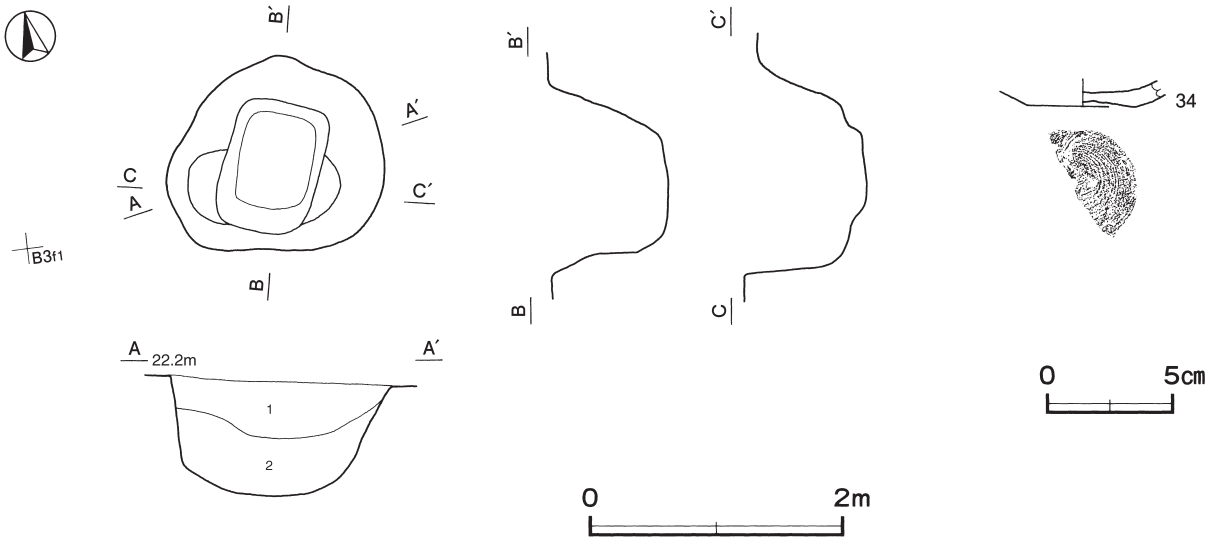
覆土　２層に分層できる。各層にロームブロックが含まれており，不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿），陶器片１点（皿），磁器片１点（碗ヵ）のほか，混入した縄文土器片１点，土師器片 12 点が出土している。34 は，覆土中から出土している。

所見　覆土が埋め戻されていることから，土坑墓の可能性がある。時期は，出土土器から中世以降と考えられる。



第 50 図　第 108 号土坑・出土遺物実測図

第 108 号土坑出土遺物観察表（第 50 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
34	土師質土器	小皿	－	(1.0)	4.4	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロ成形　底部回転糸切り	覆土中	５％

第 20 号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 21 号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 50 号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第 57 号土坑土層解説

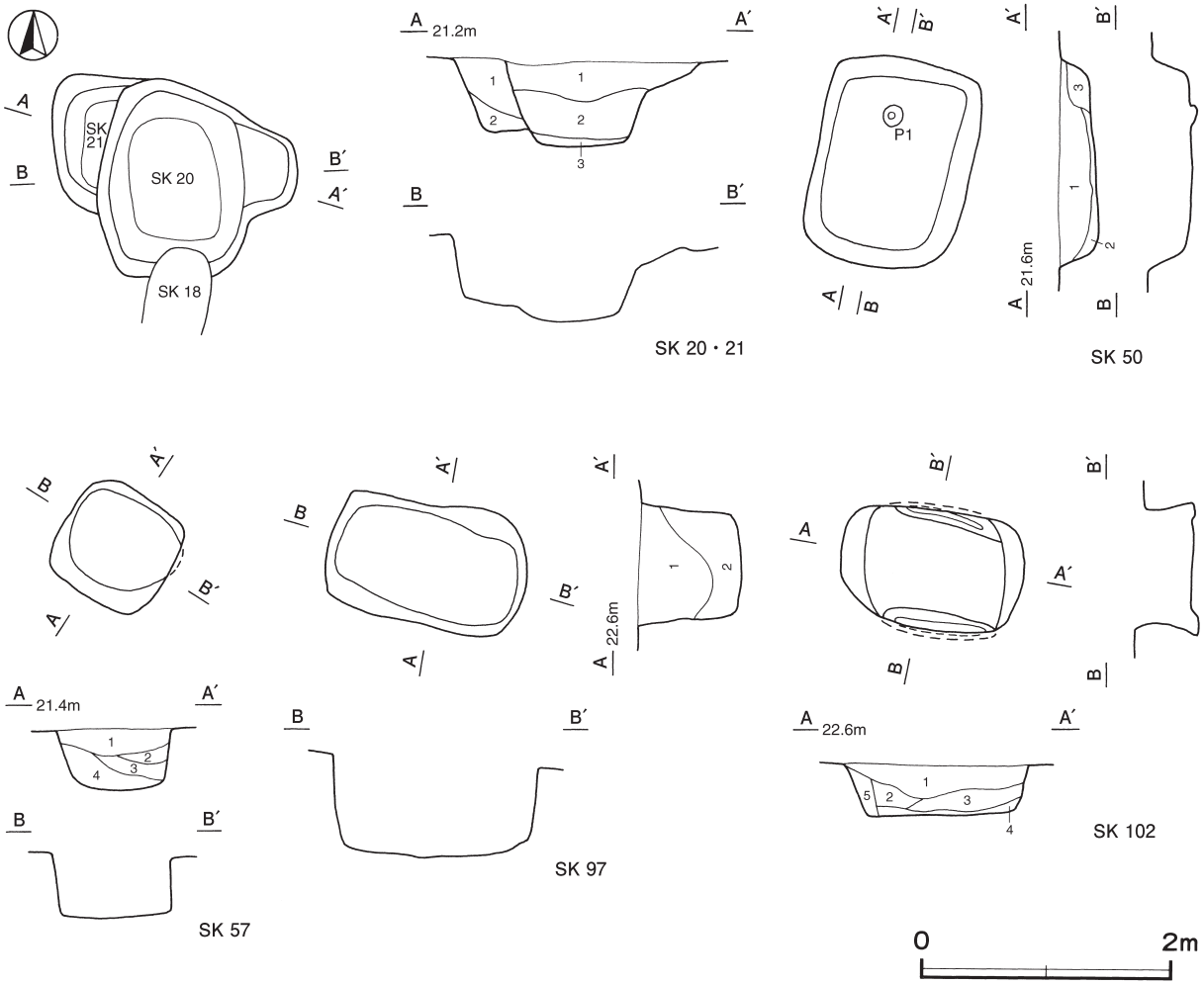
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量

第 97 号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 102 号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量



第51図　第20・21・50・57・97・102号土坑実測図

表8　中世・近世の墓坑の可能性がある土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径（軸）方向	規模（m，深さはcm）		壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	備考
				長径（軸）×短径（軸）	深さ						重複関係（古→新）
20	C 4a3	不定形	－	1.60 × (1.58)	68	外傾	有段	－	人為	－	SK21→本跡→SK18
21	C 4a3	[隅丸方形]	－	1.09 × (0.50)	57	外傾	平坦	－	人為	－	本跡→SK20
50	B 3j5	隅丸長方形	N－11°－E	1.69 × 1.26	34	外傾	平坦	1	人為	－	
52	B 3d0	楕円形	N－0°	0.78 × 0.58	15	外傾	平坦	－	人為	銭貨	
55	B 3d9	楕円形	N－44°－E	1.14 × 0.95	32	外傾	平坦	－	人為	土師質土器	
57	B 3f7	方形	－	0.94 × 0.92	52	外傾 直立	平坦	－	人為	－	
97	B 2e9	隅丸長方形	N－77°－W	1.62 × 1.04	80	直立	平坦	－	人為	－	
102	B 2a0	隅丸長方形	N－80°－W	1.47 × 0.95	40	内傾 外傾	凹凸	－	人為	陶器	
108	B 3e1	不整楕円形	N－85°－W	1.73 × 1.53	98	外傾	凹み	－	人為	土師質土器・陶器・磁器	

(2)　溝跡

第1号溝跡（第52図）

位置　調査区東部のB 4g4～C 4b2区で，標高20 mの台地上に位置している。

重複関係　第22～28号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認できた長さは22.8 mで，北東方向（N － 25° － E）へ直線上に延び，両端とも調査区域外に至っている。上幅2.06 ～ 2.66 m，下幅0.74 ～ 1.28 m，深さ45 ～ 60cmである。断面形はU字状か逆台形状で，壁は緩やかに立ち上がっている。底面には，幅30cmほどの硬化面が確認できた。

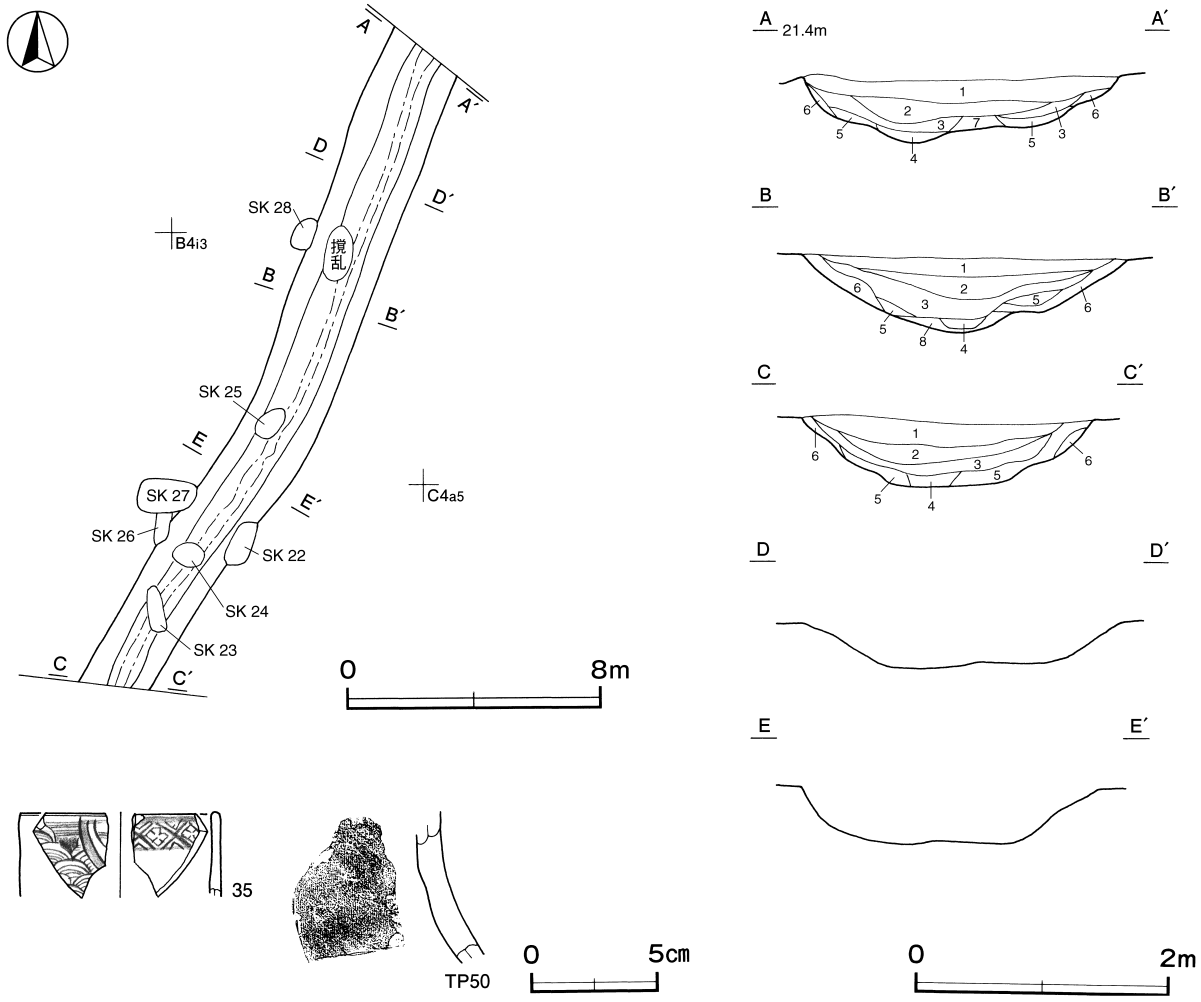
覆土　８層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量（第６層よりやや暗い色調）
8　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片１点（皿），陶器片４点（碗，甕，皿，不明），磁器片３点（香炉ヵ，蓋，不明）のほか，流れ込みによる縄文土器片90点，土師器片11点，須恵器片３点，石錘１点，土器片錘１点が出土している。TP50は覆土下層，35は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　底面に硬化面が確認できたことから，道路として機能していた時期もあると考えられる。時期は，出土土器から，近世と考えられる。



第52図　第１号溝跡・出土遺物実測図

第１号溝跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
35	磁　器	香炉ヵ	［8.0］	（3.3）	－	緻密　透明釉	灰白	良好	外面青海波文　内面四方襷文	覆土上層	５％ 在地産

番号	種　別	器種	胎土・施釉	色　　調	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP50	陶　器	甕	長石	灰黄褐	外・内面ナデ	覆土下層	

第３号溝跡（第 53 図）

位置　調査区中央部のＢ３c9 ～ Ｂ ４d1 区で，標高 21 ｍの台地上に位置している。

規模と形状　調査区域外に延びているため，長さ 9.10 ｍ，上幅 1.05 ｍ，下幅 0.48 ｍ，深さ 28㎝のみが確認できた。北西方向（N － 62° － W）へ直線上に延びている。断面形は逆台形状と推測でき，壁は緩やかに立ち上がっている。

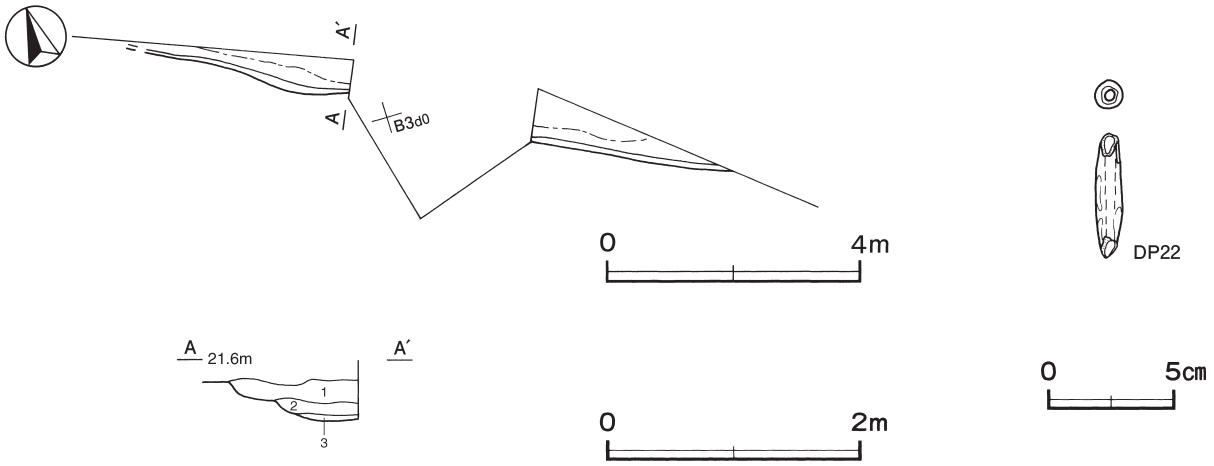
覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第３層は締まりが強く，上面は最大幅 58㎝で硬化していた。

土層解説

1　黒　褐　色　黒色粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック・黒色粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量

遺物出土状況　流れ込みによる縄文土器片５点，弥生土器片１点，土製品１点（管状土錘），剥片１点が覆土中から出土している。DP22 は，覆土中から出土している。

所見　底面に硬化面が確認できたことから，道路として機能していた時期もあると考えられる。時期は，伴う遺物が出土していないため明確でないが，第１号溝跡と走行方向がほぼ直交し，形状も類似する点が多いことから，第１号溝跡とは機能的に関連があり，ほぼ同時期の近世と考えられる。



第 53 図　第３号溝跡・出土遺物実測図

第３号溝跡出土遺物観察表（第 53 図）

番号	器　種	長さ	幅	孔径	重量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP22	管状土錘	4.8	1.1	0.4	(4.6)	石英	一方向から穿孔　孔端部ナデ	覆土中	PL15

表９　中世・近世の溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	断面形	規　模				壁面	底　面	覆土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m)	下幅（m)	深さ（cm)					重複関係（古→新）
1	Ｂ４g4 ～ Ｃ４b2	N － 25° － E	U 字形 逆台形	(22.80)	2.06 ～ 2.66	0.74 ～ 1.28	45 ～ 60	緩斜	浅いＵ字	自然	土師質土器・陶器・磁器	本跡→ SK22 ～ 28
3	Ｂ３c9 ～ Ｂ４d1	N － 62° － W	逆台形	(9.10)	(1.05)	(0.48)	(28)	緩斜	平坦	自然	管状土錘	

5　その他の遺構と遺物

今回の調査で，伴う遺物が出土していないことから，時期が明確でない土坑108基，溝跡２条を確認した。土坑は実測図と土層解説及び一覧表で，溝跡は断面図と土層解説及び一覧表で掲載し，平面図は遺構全体図（第３図）で掲載する。

⑴　土坑（第54～62図）

第８号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第９号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第10号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第11号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第12号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第13号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第14号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第15号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第16号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第17号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第18号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第19号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第22号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第23号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量

第24号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量

第25号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

第26号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第27号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第28号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第29号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第30号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第31号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

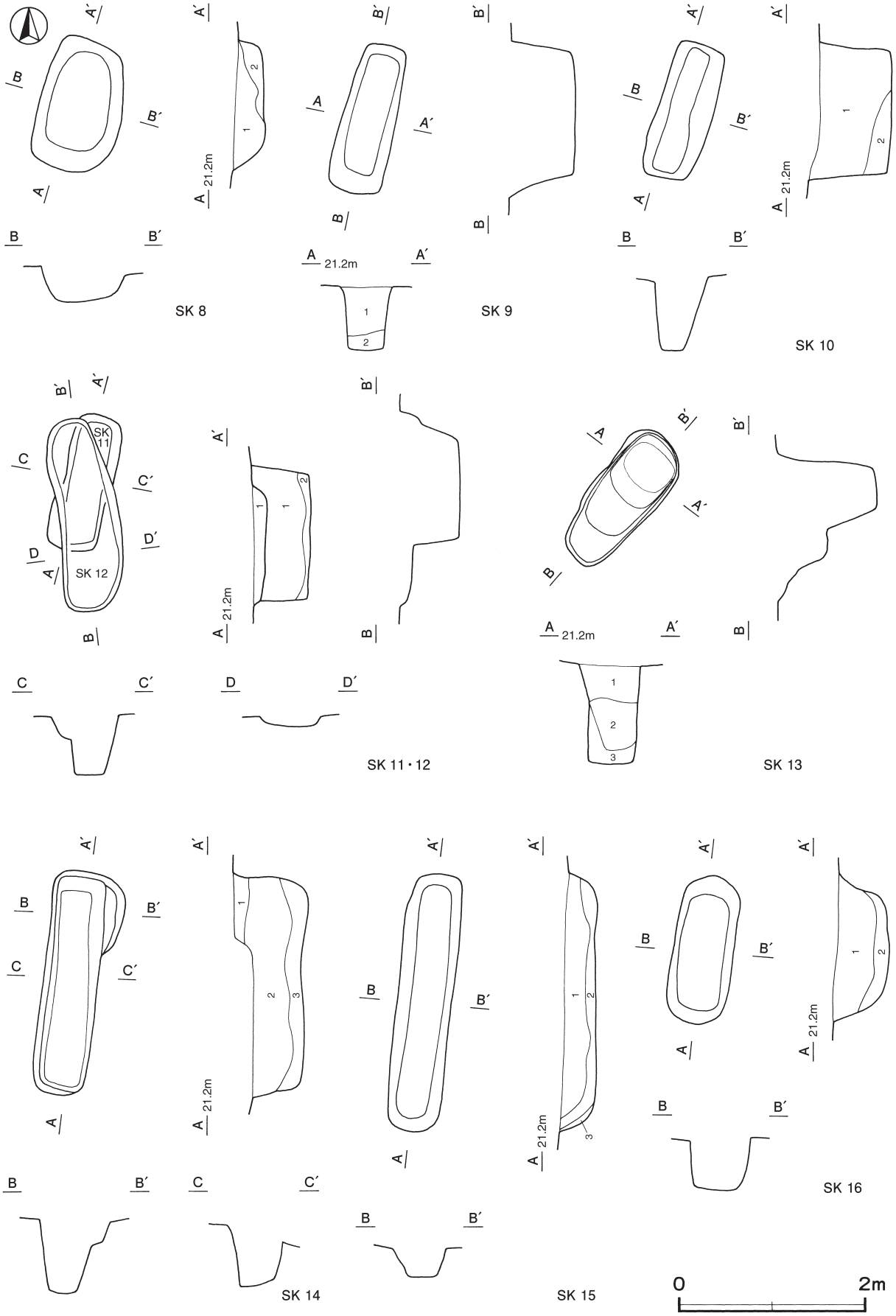
第32号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第33号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

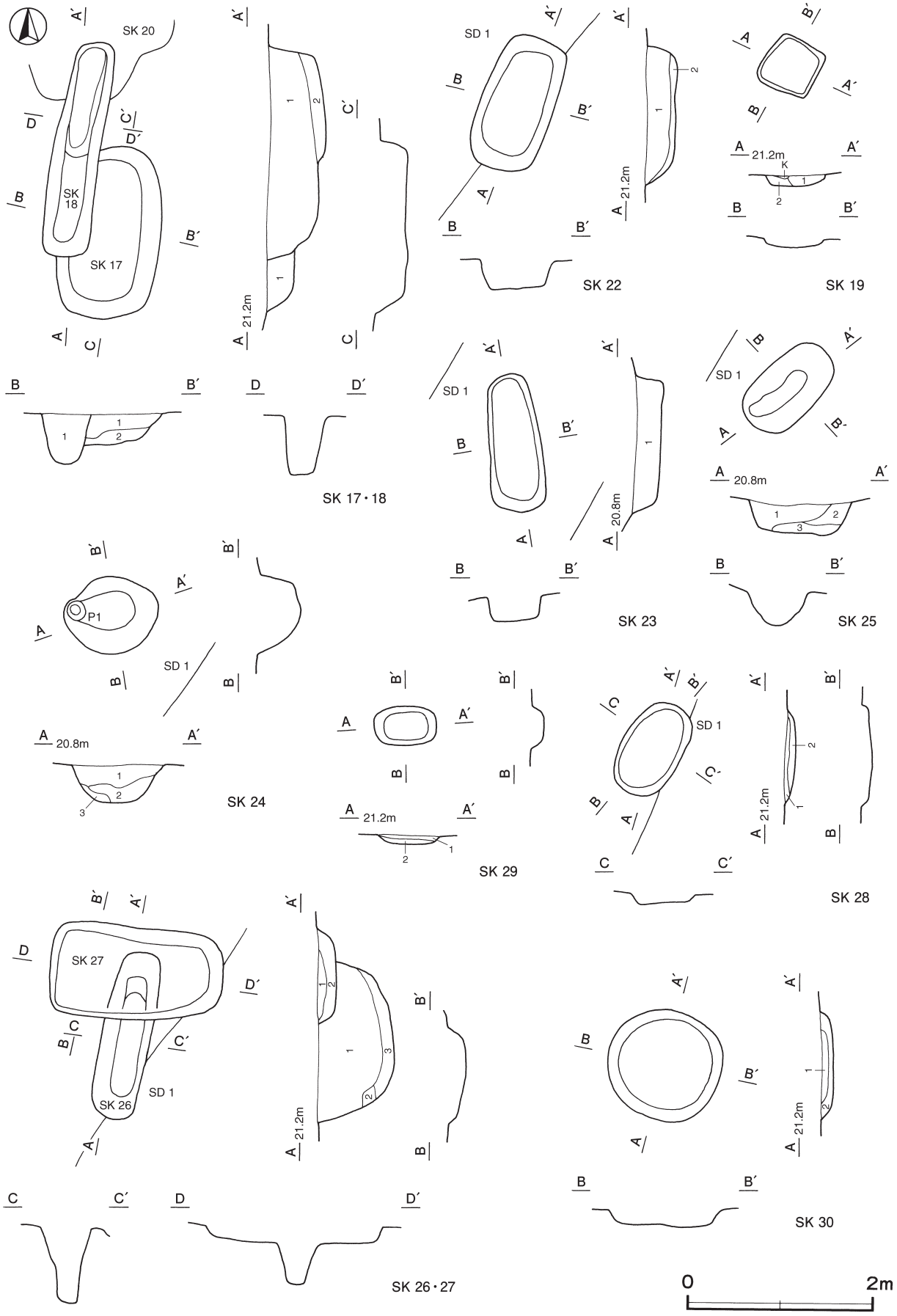
第34号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第35号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化材中量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

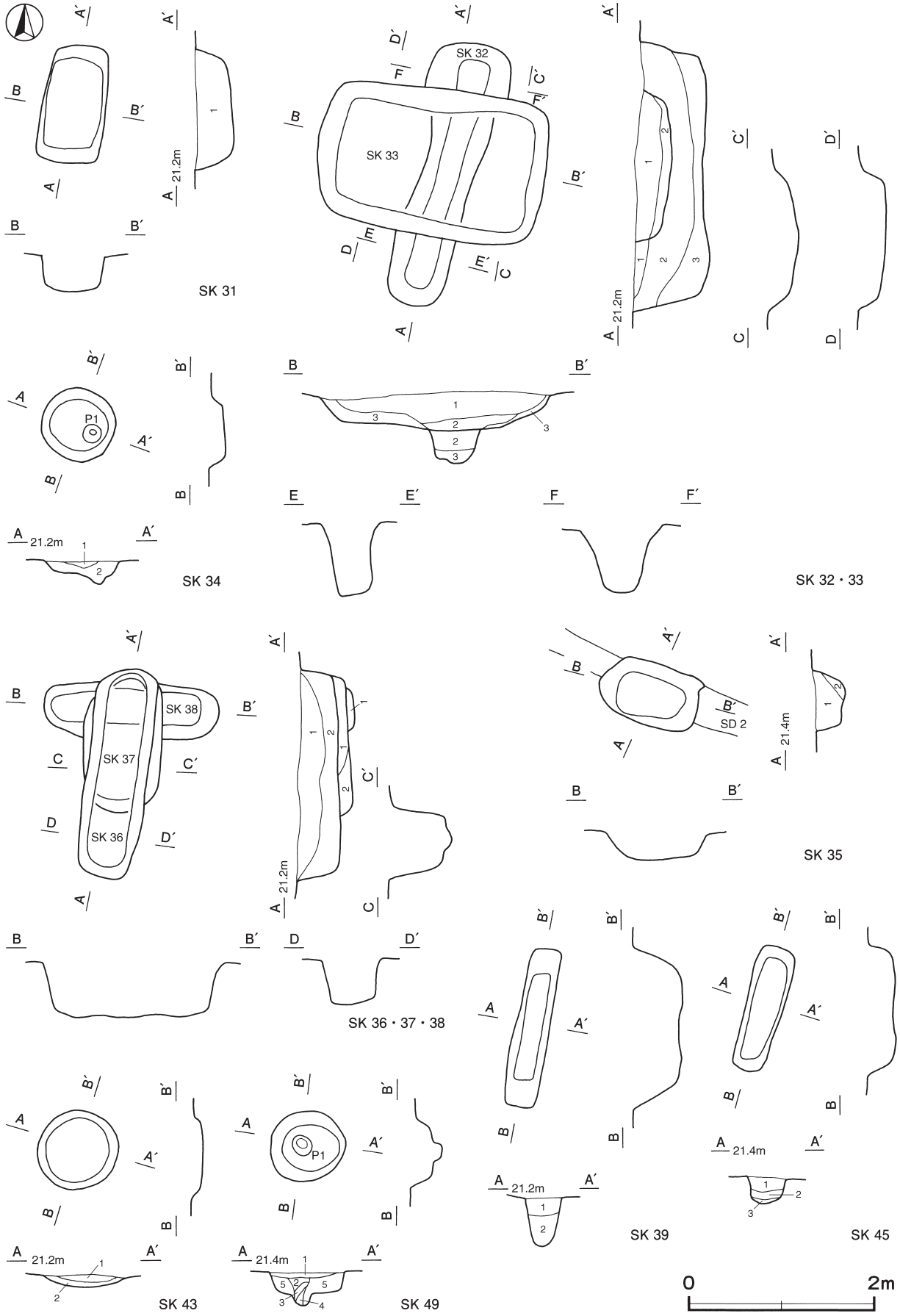
第36号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量



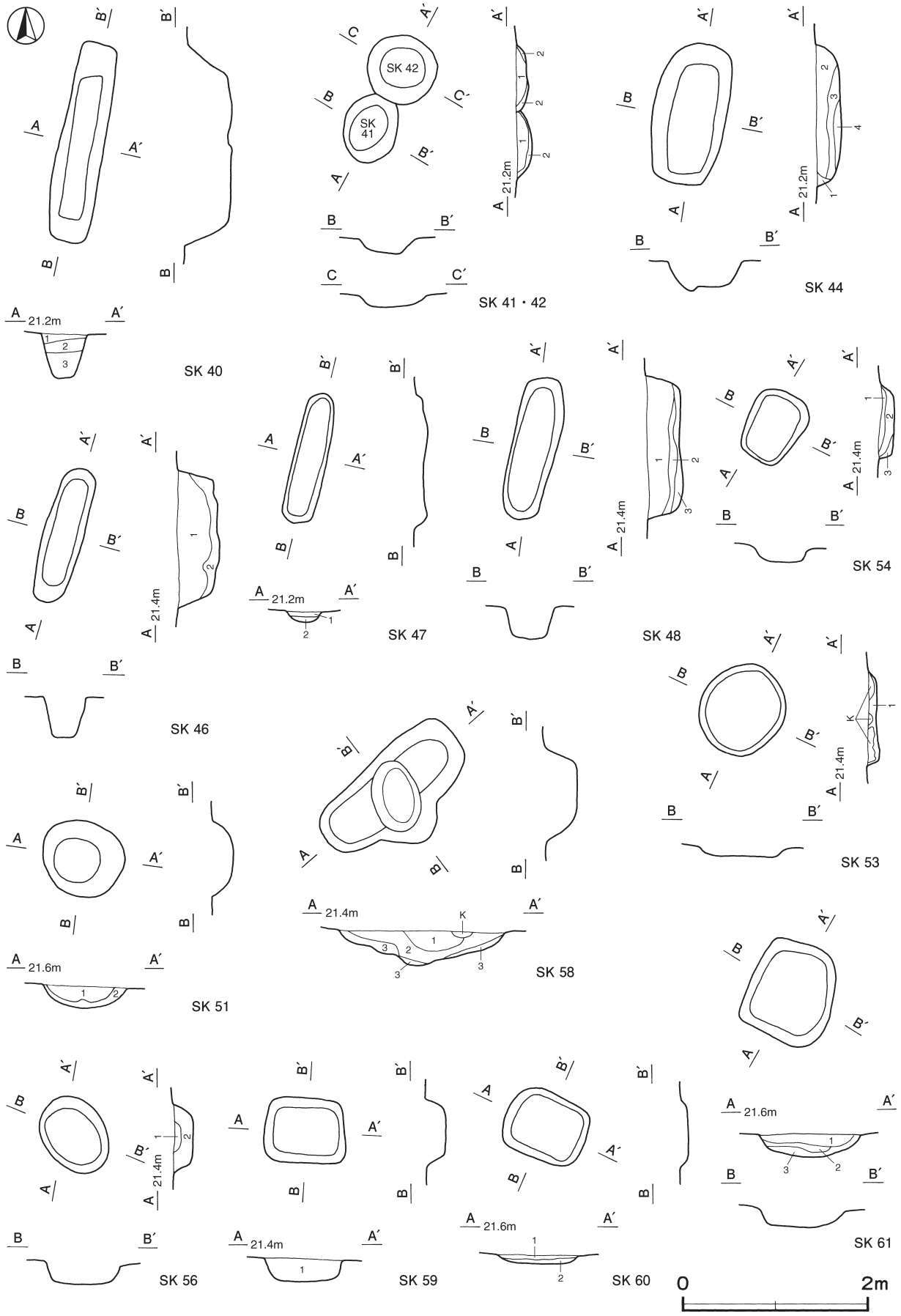
第54図　その他の土坑実測図（1）



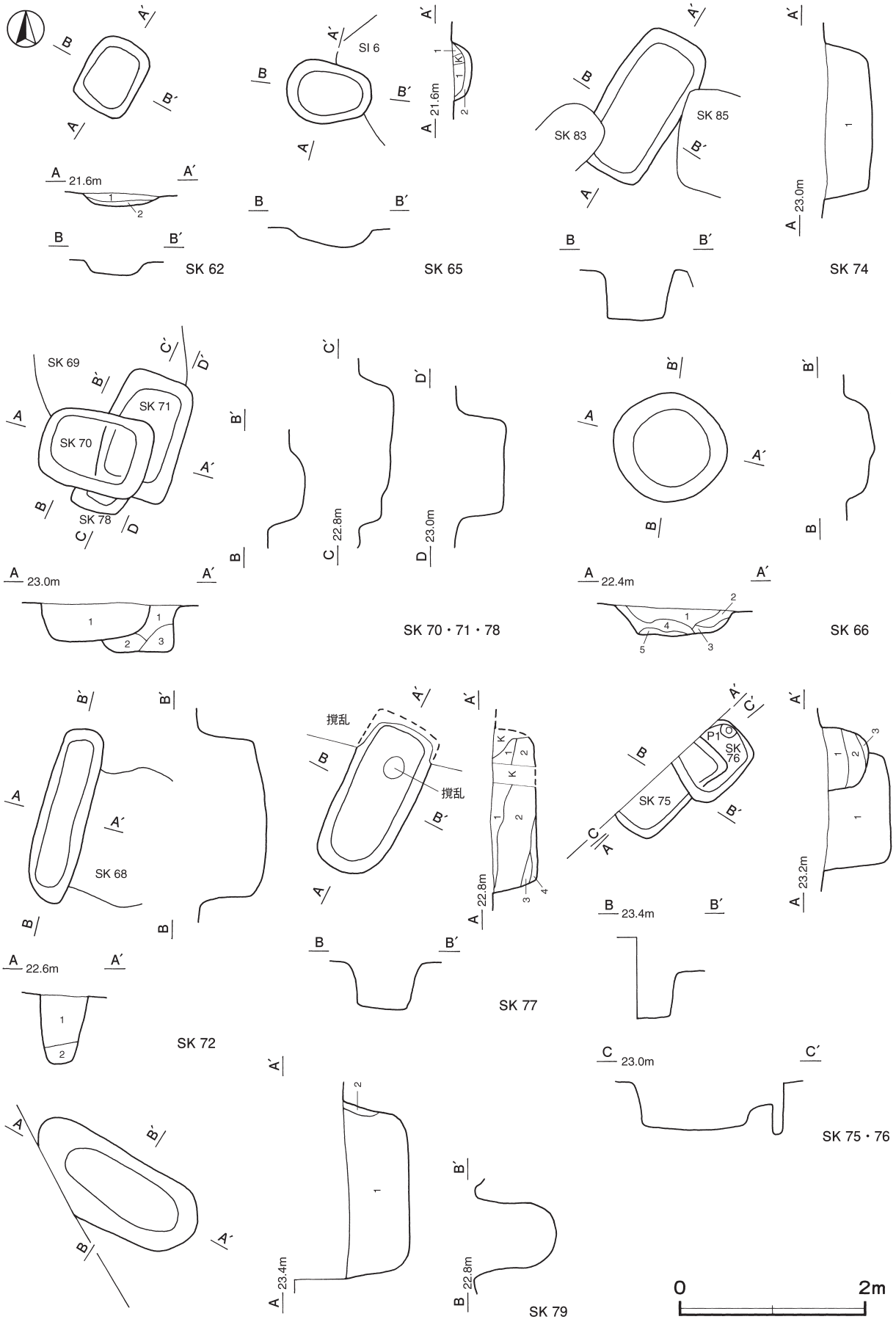
第55図　その他の土坑実測図（2）



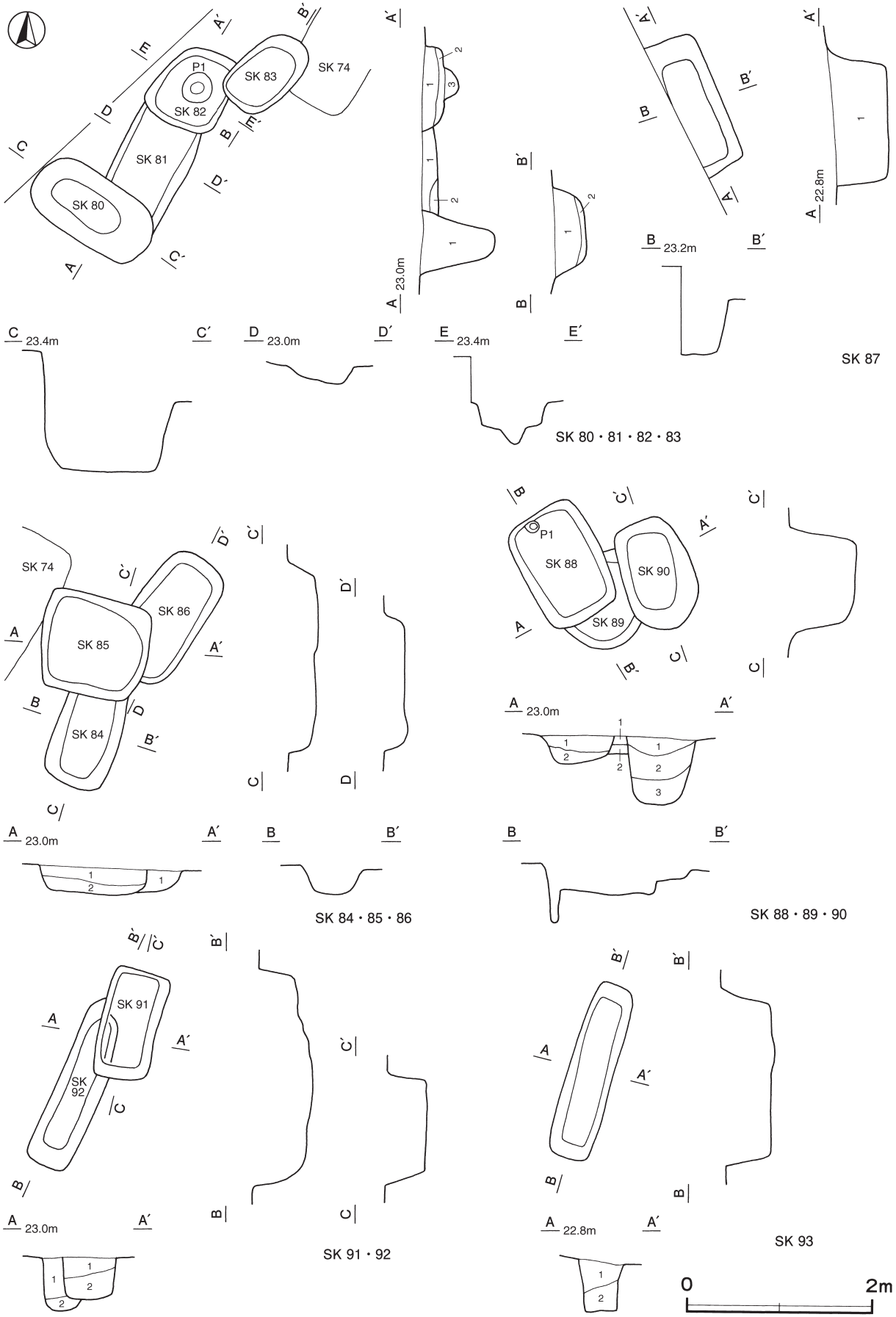
第56図　その他の土坑実測図（3）



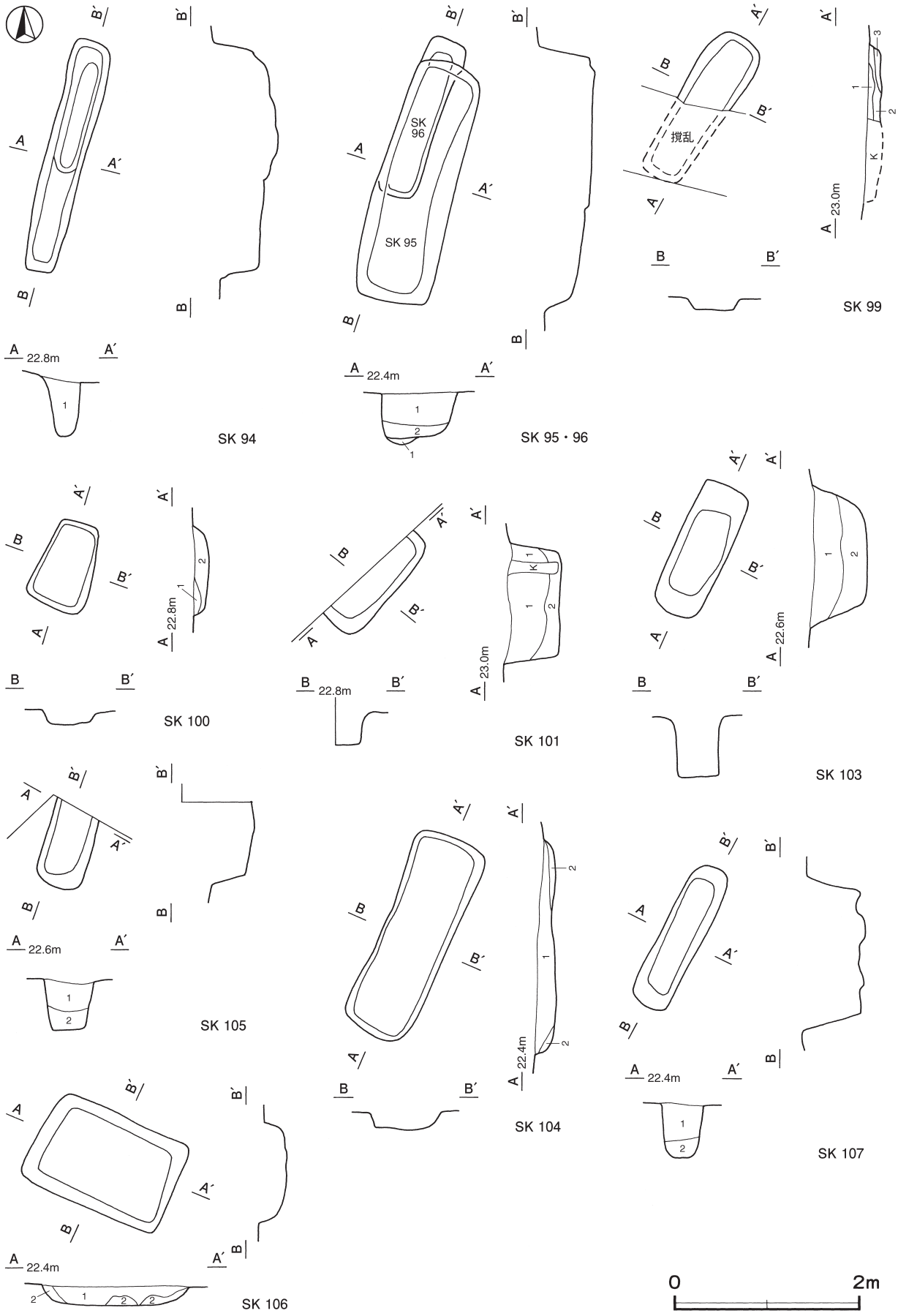
第57図　その他の土坑実測図（4）



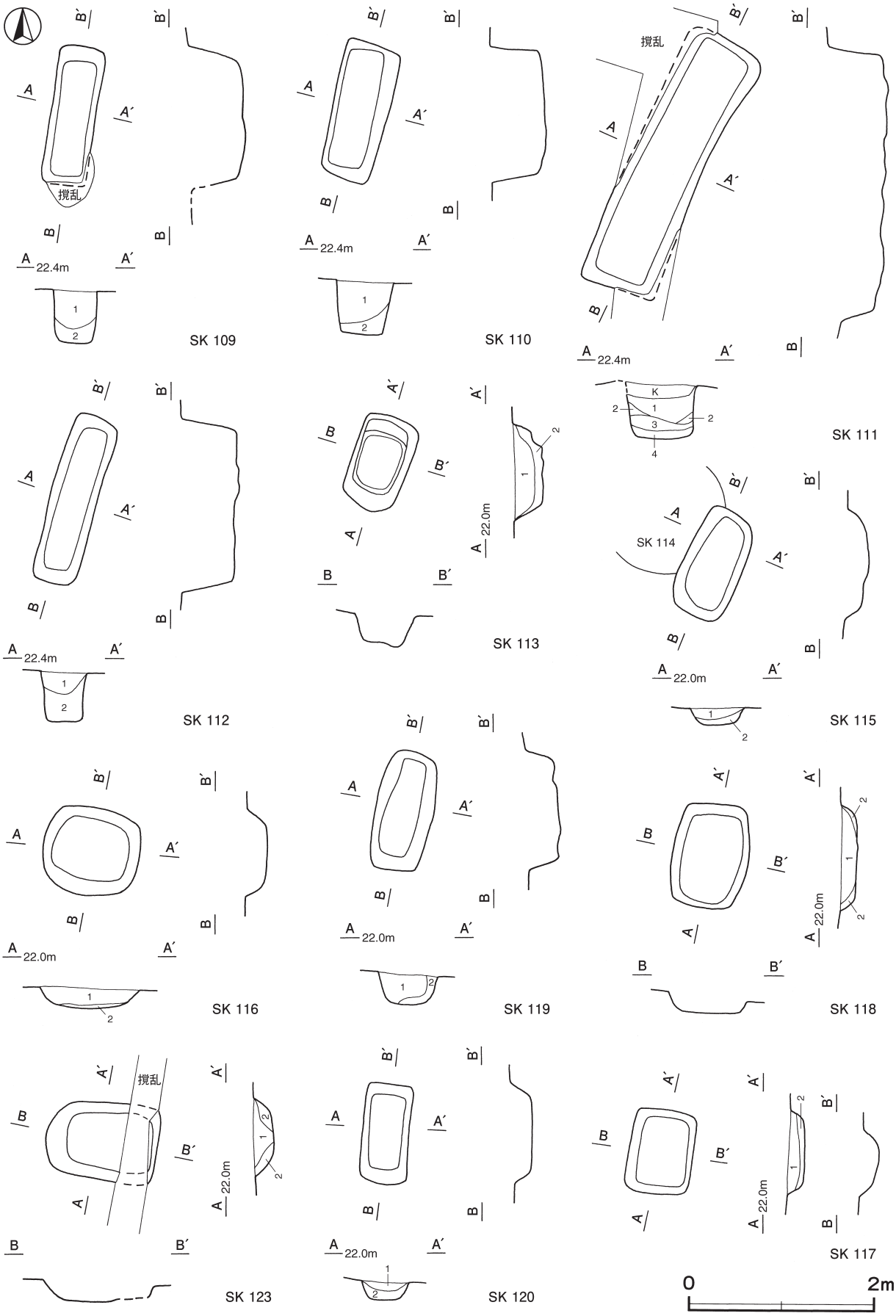
第 58 図　その他の土坑実測図（5）



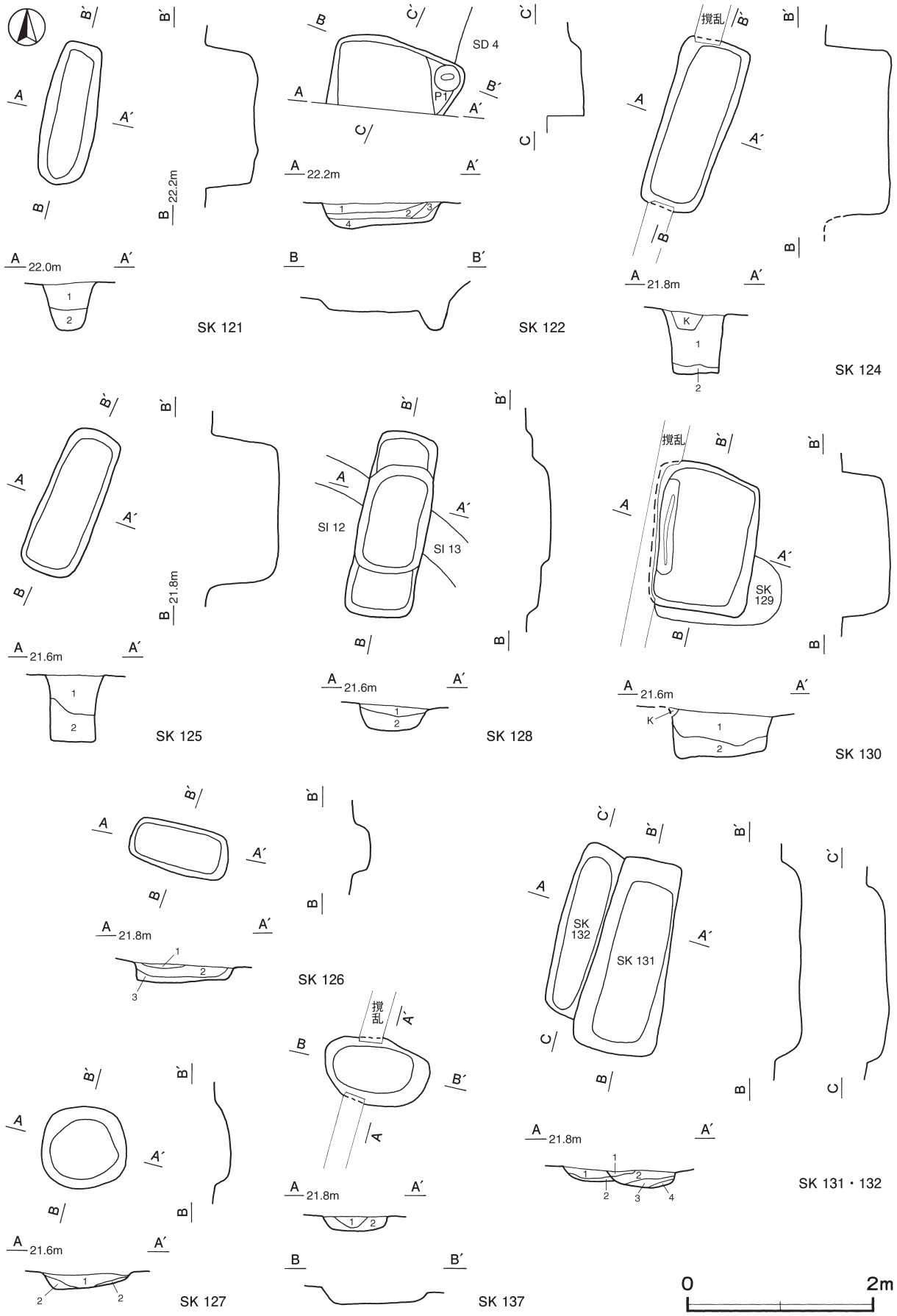
第 59 図　その他の土坑実測図（6）



第60図　その他の土坑実測図（7）



第61図　その他の土坑実測図（8）



第 62 図　その他の土坑実測図（9）

第 37 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 38 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 39 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 40 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 41 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 42 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 43 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 44 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第 45 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 46 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 47 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 48 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック多量

第 49 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量

第 51 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 53 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子少量

第 54 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子中量
3　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子少量

第 56 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，黒色粒子少量

第 58 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 59 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

第 60 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 61 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 62 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量

第 65 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 66 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・黒色粒子少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック・黒色粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量
5　黄　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

第 70 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

第 71 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量

第 72 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 74 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 75 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 76 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 77 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 79 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 80 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 81 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 82 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 83 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 85 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量

第 86 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 87 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 88 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 89 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 90 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 91 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 92 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 93 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，灰微量

第 94 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 95 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 96 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 99 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

第 100 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 101 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 103 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 104 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 105 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 106 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 107 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 109 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 110 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 111 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 112 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 113 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

第 115 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・黒色粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

第 116 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・黒色粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量

第 117 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・黒色粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

第 118 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量

第 119 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 120 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 121 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量

第 122 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　黒色粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック・黒色粒子中量

第 123 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子中量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック多量，黒色粒子微量

第 124 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量，黒色粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量

第 125 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック多量，黒色粒子中量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，黒色粒子少量

第 126 号土坑土層解説
1　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・黒色粒子微量
2　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量

第 127 号土坑土層解説
1　黒　　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

第 128 号土坑土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ロームブロック中量

第 130 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 131 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，黒色粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・黒色粒子少量，焼土ブロック微量
4　褐　　色　ロームブロック多量，黒色粒子微量

第 132 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 137 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　黒色粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，黒色粒子微量

表 10　その他の土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径（軸）方向	規模（m，深さはcm）		壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						重複関係（古→新）
8	B 4 i5	隅丸長方形	N − 14° − E	1.42 × 0.90	36	緩斜	皿状	−	人為	−	
9	B 4 i5	長　方　形	N − 13° − E	1.65 × 0.60	65	外傾	平坦	−	人為	土師質土器	
10	B 4 h5	長　方　形	N − 16° − E	1.50 × 0.61	73	外傾	平坦	−	人為	縄文土器・弥生土器・陶器	
11	B 4 j5	長　方　形	N − 13° − E	1.50 × 0.56	50	外傾	平坦	−	人為	土師器・土師質土器	本跡→ SK12
12	B 4 j5	隅丸長方形	N − 8° − W	2.07 × 0.65	12	緩斜	平坦	−	人為	−	SK11 →本跡
13	C 4 a5	隅丸長方形	N − 37° − E	1.62 × 0.70	109	中位に段	平坦	−	人為	弥生土器・土師器・磁器	
14	C 4 b5	不整長方形	N − 6° − E	2.42 × 0.80	80	中位に段	平坦	−	人為	−	
15	C 4 b4	隅丸長方形	N − 6° − E	2.79 × 0.60	33	外傾	平坦	−	人為	縄文土器・磁器	
16	C 4 b4	隅丸長方形	N − 10° − E	1.60 × 0.65	58	外傾	平坦	−	人為	縄文土器	
17	C 4 b3	隅丸長方形	N − 9° − E	1.90 × 1.08	30	緩斜	平坦	−	人為	縄文土器・土師質土器	本跡→ SK18
18	C 4 b3	隅丸長方形	N − 9° − E	2.35 × 0.49	62	外傾	平坦	−	人為	−	SK17・20 →本跡
19	C 4 b3	方　　形	−	0.62 × 0.60	7	緩斜	皿状	−	自然	−	
22	C 4 a3	隅丸長方形	N − 20° − E	1.49 × 0.80	31	外傾	平坦	−	人為	土師器・陶器	SD 1 →本跡
23	C 4a2	隅丸長方形	N − 6° − W	1.48 × 0.59	28	外傾	平坦	−	人為	土師器・土師質土器・陶器	SD 1 →本跡
24	C 4 a3	楕　円　形	N − 83° − E	1.04 × 0.84	45	外傾緩斜	平坦	1	人為	−	SD 1 →本跡
25	B 4 j3	楕　円　形	N − 45° − E	1.12 × 0.65	37	緩斜	皿状	−	人為	−	SD 1 →本跡
26	C 4 a2	隅丸長方形	N − 10° − E	1.83 × 0.53	80	外傾	平坦	−	人為	土師器	SD 1 →本跡→ SK27
27	C 4 a2	長　方　形	N − 87° − W	1.88 × 1.03	20	緩斜	平坦	−	人為	土師器	SK26，SD 1 →本跡
28	B 4 i4	楕　円　形	N − 29° − E	1.06 × 0.68	11	緩斜	平坦	−	人為	土師器・土師質土器・須恵器	SD 1 →本跡
29	B 4 i3	楕　円　形	N − 87° − E	0.67 × 0.43	13	緩斜	平坦	−	人為	−	
30	B 4 j1	円　　形	−	1.25 × 1.24	17	緩斜	平坦	−	自然	縄文土器	

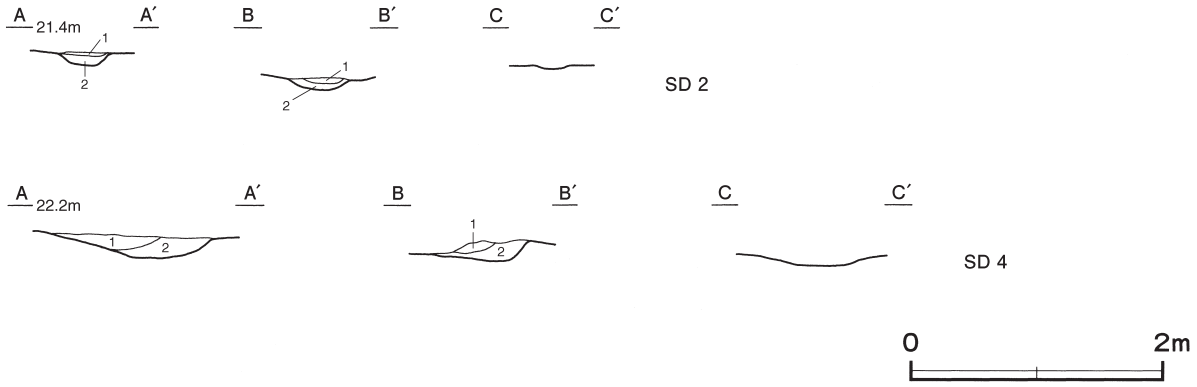
番号	位置	平面形	長径（軸）方向	規模（m，深さはcm）		壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						重複関係（古→新）
31	B 3 i0	長方形	N－ 7°－E	1.29 × 0.68	40	外径	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器・土器片錘	
32	B 4 i2	隅丸長方形	N－14°－E	2.92 × 0.88	79	外傾	平坦	－	人為	陶器	本跡→SK33
33	B 4 i2	長方形	N－80°－W	2.47 × 1.57	28	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器・陶器・管状土錘	SK32→本跡
34	B 4 i3	円形	－	0.82 × 0.79	16	緩斜	凹凸	1	自然	縄文土器	
35	B 4 e1	不整楕円形	N－70°－W	1.09 × 0.65	30	外傾	平坦	－	人為	弥生土器・土師器	SD 2→本跡
36	C 3 a0	隅丸長方形	N－ 7°－E	2.30 × 0.68	48	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・土師質土器	SK37・38→本跡
37	C 3 a0	楕円形	N－ 5°－E	1.55 × 0.82	64	外傾	凹凸	－	人為	－	SK38→本跡→SK36
38	C 3 a0	隅丸長方形	N－87°－W	1.89 × 0.59	61	外傾	凹凸	－	人為	縄文土器・土師器	本跡→SK36・37
39	B 3 j9	長方形	N－11°－E	1.74 × 0.39	53	緩斜	凹凸	－	人為	縄文土器	
40	B 3 i9	長方形	N－ 9°－E	2.16 × 0.49	51	緩斜	凹凸	－	人為	縄文土器・土師器・須恵器	
41	B 3 j8	楕円形	N－22°－E	(0.72) × 0.59	17	緩斜	平坦	－	自然	－	本跡→SK42
42	B 3 j8	円形	－	0.75 × 0.75	14	緩斜	平坦	－	人為	土師器・陶器	SK41→本跡
43	B 3 j7	円形	－	0.88 × 0.83	11	緩斜	平坦	－	自然	－	
44	B 3 j7	隅丸長方形	N－ 9°－E	1.53 × 0.79	28	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器	
45	B 3 j6	隅丸長方形	N－16°－E	1.40 × 0.42	29	外傾緩斜	凹凸	－	人為	縄文土器・弥生土器	
46	B 3 j6	隅丸長方形	N－16°－E	1.50 × 0.44	43	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・陶器	
47	B 3 i7	隅丸長方形	N－12°－E	1.42 × 0.37	14	外傾	凹凸	－	人為	陶器・釘	
48	B 3 i6	隅丸長方形	N－10°－E	1.53 × 0.51	34	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器	
49	C 3 a5	円形	－	0.80 × 0.75	22	緩斜	平坦	1	人為	弥生土器・土師器	
51	B 3 j4	円形	－	0.89 × 0.82	23	緩斜	平坦	－	人為	土師器	
53	B 3 e9	円形	－	1.01 × 0.92	10	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器	
54	B 3 d9	長方形	N－31°－E	0.80 × 0.60	15	外傾緩斜	平坦	－	人為	－	
56	B 3 d8	楕円形	N－36°－W	0.86 × 0.68	20	外傾緩斜	平坦	－	人為	弥生土器・土師質土器	
58	B 3 f7	不整長方形	N－50°－E	1.78 × 1.00	35	外傾緩斜	凹凸	－	自然	土師器	
59	B 3 g7	長方形	N－87°－W	0.85 × 0.71	22	外傾	平坦	－	人為	縄文土器	
60	B 3 g6	長方形	N－67°－W	0.88 × 0.71	8	緩斜	平坦	－	人為	－	
61	B 3 h5	長方形	N－21°－E	1.07 × 0.95	20	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器・陶器	
62	B 3 e6	長方形	N－32°－E	0.82 × 0.64	15	緩斜	平坦	－	人為	－	
65	B 3 d6	楕円形	N－87°－W	0.91 × 0.70	16	緩斜	皿状	－	人為	弥生土器	SI 6→本跡
66	B 3 d1	円形	－	1.26 × 1.15	30	外傾	平坦	－	人為	－	
70	B 2 d7	長方形	N－78°－W	1.16 × 0.84	36	外傾	平坦	－	人為	陶器	SK69・71・78→本跡
71	B 2 d7	長方形	N－19°－E	1.32 × 0.86	54	外傾	平坦	－	人為	－	SK69・78→本跡→SK70
72	B 2 e9	隅丸長方形	N－14°－E	1.90 × 0.52	73	外傾	平坦	－	人為	弥生土器	SK68→本跡
74	B 2 c7	長方形	N－29°－E	1.70 × 0.82	53	外傾	平坦	－	人為	－	本跡→SK83・85
75	B 2 c7	［長方形］	N－45°－E	1.25 × (0.46)	50	直立	平坦	－	人為	－	本跡→SK76
76	B 2 c7	［長方形］	N－45°－E	0.83 × (0.60)	28	直立	平坦	1	人為	－	SK75→本跡
77	B 2 c8	［長方形］	N－27°－E	[1.80] × 0.81	49	外傾	平坦	－	人為	陶器	
78	B 2 d7	不定形	N－15°－E	0.55 × (0.20)	24	外傾	平坦	－	－	－	本跡→SK70・71
79	B 2 d7	隅丸長方形	N－55°－W	2.00 × 0.87	85	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・瓦	
80	B 2 d7	隅丸長方形	N－53°－W	1.40 × 0.74	76	外傾	平坦	－	人為	－	SK81→本跡
81	B 2 d7	［長方形］	N－23°－E	(0.90) × 0.77	18	外傾緩斜	傾斜	－	人為	－	本跡→SK80・82
82	B 2 d7	長方形	N－30°－E	0.93 × 0.82	24	外傾	平坦	1	人為	釘	SK81→本跡→SK83
83	B 2 d7	隅丸長方形	N－40°－E	0.95 × 0.60	35	外傾	平坦	－	人為	釘	SK74・82→本跡
84	B 2 d8	［長方形］	N－12°－E	(1.00) × 0.65	28	緩斜	平坦	－	－	－	本跡→SK85

番号	位置	平面形	長径（軸）方向	規模（m，深さはcm）		壁面	底面	ピット	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						重複関係（古→新）
85	B2d8	方形	－	1.18 × 1.10	30	緩斜	平坦	－	人為	－	SK84・86→本跡
86	B2c8	長方形	N－32°－E	1.46 × 0.73	23	緩斜	平坦	－	人為	－	本跡→SK85
87	B2e7	[長方形]	N－27°－W	1.50 × (0.55)	59	外傾	平坦	－	人為	－	
88	B2e7	長方形	N－33°－W	1.24 × 0.87	34	外傾	平坦	1	人為	－	SK89→本跡
89	B2e7	[楕円形]	N－9°－E	1.10 × (0.60)	19	緩斜	平坦	－	人為	－	本跡→SK88・90
90	B2e7	隅丸長方形	N－22°－W	1.20 × 0.80	68	外傾	平坦	－	人為	－	SK89→本跡
91	B2d8	長方形	N－13°－E	1.20 × 0.62	45	外傾	平坦	－	人為	磁器	SK92→本跡
92	B2d8	[長方形]	N－23°－E	(1.88) × 0.50	69	緩斜	平坦	－	人為	－	本跡→SK91
93	B2e8	長方形	N－15°－E	1.93 × 0.48	48	外傾	平坦	－	人為	陶器・釘	
94	B2e8	長方形	N－14°－E	2.55 × 0.44	67	外傾	凹凸	－	人為	－	
95	B2f8	長方形	N－16°－E	2.61 × 0.86	49	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・土師器	SK96→本跡
96	B2f8	長方形	N－20°－E	1.80 × 0.45	57	外傾	平坦	－	人為	－	本跡→SK95
99	B2c8	[長方形]	N－36°－E	(0.95) × 0.62	11	外傾	平坦	－	人為	－	
100	B2b8	長方形	N－21°－E	0.96 × 0.64	15	外傾	平坦	－	人為	－	
101	B2b9	[長方形]	N－38°－E	1.31 × (0.42)	56	外傾	平坦	－	人為	－	
103	A2j0	長方形	N－25°－E	1.52 × 0.57	61	外傾 緩斜	平坦	－	人為	－	
104	A3j1	長方形	N－23°－E	2.30 × 0.81	18	外傾 緩斜	平坦	－	人為	－	
105	A3j1	[隅丸長方形]	N－16°－E	(0.91) × 0.52	52	外傾	平坦	－	人為	－	
106	B2d0	長方形	N－67°－W	1.61 × 1.08	26	外傾	平坦	－	人為	縄文土器	
107	B3e1	隅丸長方形	N－27°－E	1.67 × 0.46	65	外傾	凹凸	－	人為	縄文土器・土師質土器・瓦・陶器	
109	B2f0	[長方形]	N－8°－E	[1.50] × 0.50	59	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・陶器	
110	B2f0	長方形	N－13°－E	1.48 × 0.62	59	外傾	平坦	－	人為	瓦	
111	B2g9	長方形	N－24°－E	2.98 × [0.82]	63	外傾	凹凸	－	人為	陶器	
112	B2e9	長方形	N－16°－E	1.85 × 0.50	63	外傾	凹凸	－	人為	縄文土器・瓦	
113	B3f2	長方形	N－16°－E	1.05 × 0.62	31	外傾	凹凸	－	人為	縄文土器	
115	B3f2	長方形	N－23°－E	1.20 × 0.64	24	緩斜	皿状	－	人為	縄文土器・瓦	SK114→本跡
116	B3f2	隅丸長方形	N－80°－W	1.06 × 0.95	22	外傾 緩斜	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器	
117	B3g2	長方形	N－8°－E	0.92 × 0.70	18	緩斜	皿状	－	人為	縄文土器・弥生土器	
118	B3h2	隅丸長方形	N－8°－E	1.12 × 0.84	19	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器	
119	B3i1	長方形	N－12°－E	1.31 × 0.63	46	外傾	平坦	－	人為	縄文土器	
120	B3i1	長方形	N－3°－E	1.08 × 0.52	22	外傾	平坦	－	人為	－	
121	B2i0	隅丸長方形	N－11°－E	1.53 × 0.58	57	外傾	凹凸	－	人為	土師器・土師質土器・陶器・磁器	
122	C2a0	[長方形]	N－78°－W	1.41 × (0.78)	13	外傾 緩斜	平坦	1	人為	縄文土器・弥生土器・土師器・陶器	SD 4→本跡
123	B3d3	隅丸長方形	N－83°－W	1.22 × 0.85	19	外傾 緩斜	平坦	－	人為	縄文土器	
124	B3f3	長方形	N－17°－E	[1.95] × 0.75	70	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・弥生土器・釘	
125	B3f3	長方形	N－24°－E	1.65 × 0.65	72	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・陶器・鉄滓	
126	B3g3	長方形	N－72°－W	1.07 × 0.52	19	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・鉄滓	
127	B3j3	円形	－	0.92 × 0.90	17	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器・石鏃	
128	B3j2	長方形	N－10°－E	2.00 × 0.75	24	中位に段	平坦	－	人為	縄文土器	SI12・13→本跡
130	B3j2	[不整長方形]	N－8°－E	1.60 × [1.12]	50	外傾	平坦	－	人為	縄文土器・土師器・須恵器	SK129→本跡
131	B3j2	長方形	N－13°－E	2.14 × 0.93	25	緩斜	平坦	－	人為	縄文土器・土師器・陶器・鉄滓	SK132→本跡
132	B3i2	[長方形]	N－17°－E	1.87 × (0.44)	23	緩斜	平坦	－	人為	－	本跡→SK131
137	B3g3	楕円形	N－71°－W	1.15 × 0.73	16	緩斜	平坦	－	人為	－	

(2) 溝跡（第3・63図）

第２号溝跡土層解説
1　黒　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第４号溝跡土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量



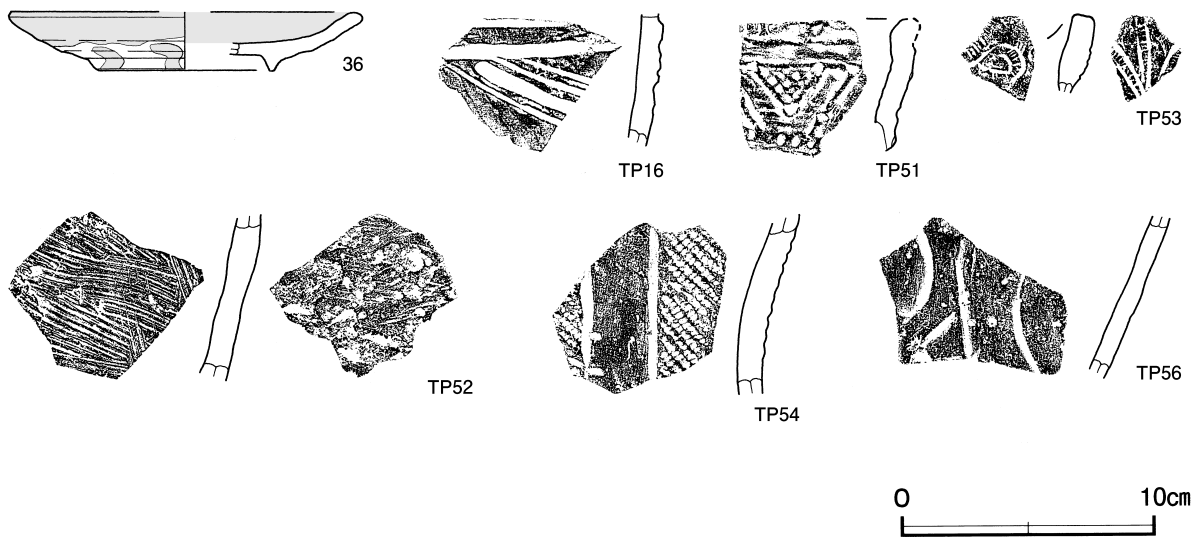
第63図　第２・４号溝跡実測図

表11　その他の溝跡一覧表

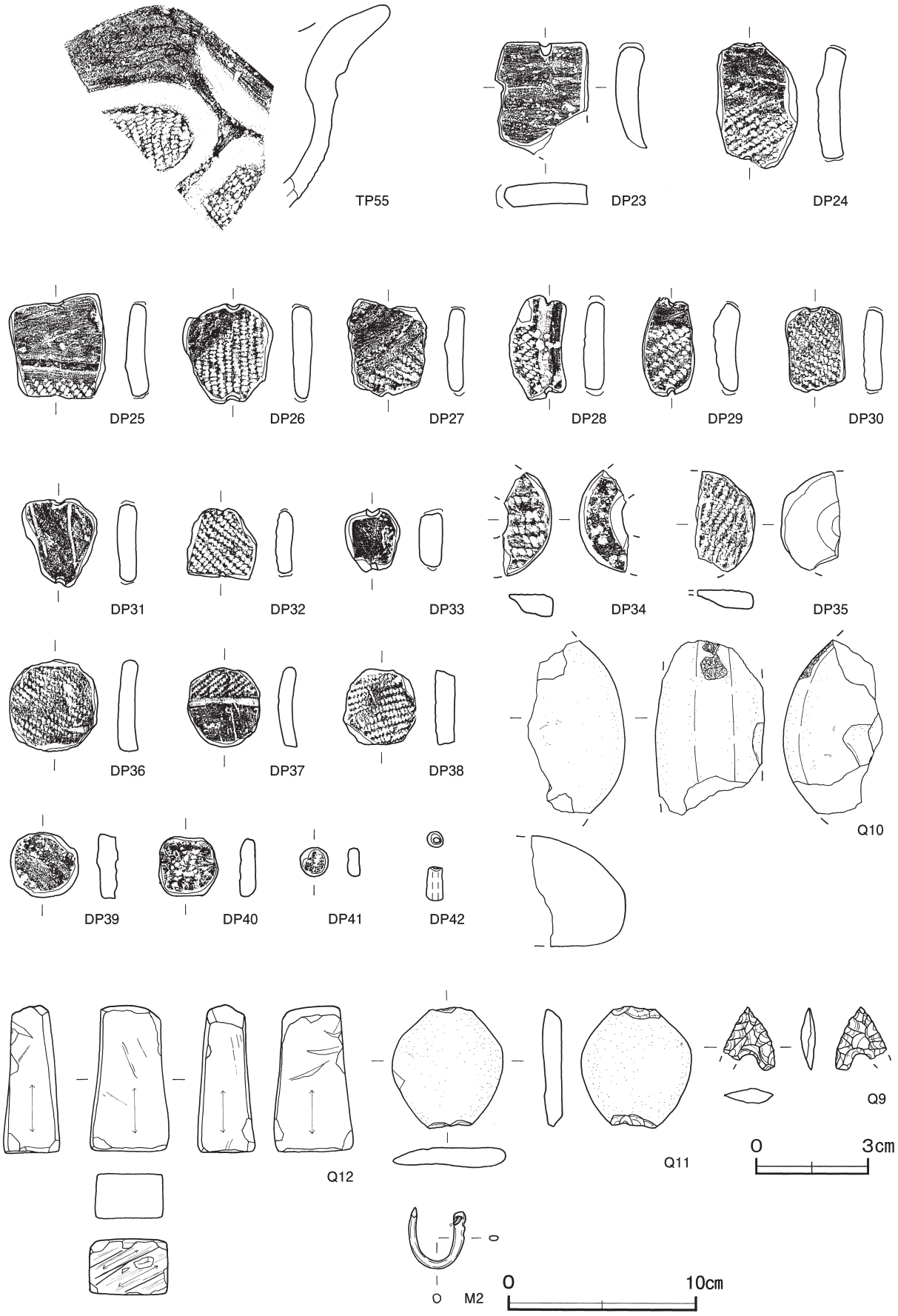
番号	位　置	方　向	断面形	規　模				壁面	底　面	覆土	主な出土遺物	備　考
				長さ（m）	上幅（m）	下幅（m）	深さ（cm）					重複関係（古→新）
2	B３c8～B４e2	N－63°－W	逆台形	(17.50)	0.29～0.48	0.10～0.23	10	緩斜	浅いU字	自然	縄文土器	SI 7→本跡→SK35
4	B３f1～C２a0	N－11°－E	逆台形	(19.14)	0.60～1.64	0.18～0.51	17	緩斜	平坦	人為	縄文土器・土師質土器	SI11→本跡→SK122

(3) 遺構外出土遺物（第64・65図）

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について，実測図と観察表を掲載する。



第64図　遺構外出土遺物実測図（１）



第65図　遺構外出土遺物実測図（2）

遺構外出土遺物観察表（第 64・65 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
36	陶　器	皿	[13.6]	2.3	[7.2]	緻密　長石釉	にぶい黄	良好	端反形　削り出し高台	確認面	５％

番号	種　別	器種	胎　　土	色　　調	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	横位及び斜位の沈線文	SK73	PL13
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	低い細隆起文で襷掛け状に区画し刺突文を充填　区画文交点に竹管状工具で押捺文を付加　内面条痕文	SI11	PL13
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	外・内面ともに条痕文	SK63	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	波頂部の外・内面をともに沈線で文様を描出し，刻み目を充填	確認面	
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	２条一組の沈線による懸垂文間を磨り消し　LR の単節縄文	確認面	PL13
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	沈線による楕円形区画文　RL の単節縄文	確認面	
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	沈線によって文様を描出	確認面	PL13

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎　　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP23	土器片錘	(6.0)	5.0	1.6	－	(45.0)	長石・石英	口縁部片を利用　両端・側縁にキザミ　周縁部研磨　一部欠損　無文	SI ２	PL13
DP24	土器片錘	6.7	4.4	1.6	－	40.3	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	確認面	
DP25	土器片錘	5.6	5.3	1.3	－	40.1	長石・石英・雲母	両端にキザミ　周縁部研磨　RL の単節縄文	確認面	
DP26	土器片錘	5.4	4.8	1.0	－	28.2	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	確認面	PL13
DP27	土器片錘	5.2	4.3	1.1	－	25.8	長石・石英・雲母	両端にキザミ　周縁部研磨　RL の単節縄文	確認面	PL13
DP28	土器片錘	5.6	3.1	1.1	－	18.3	長石・石英・雲母	口縁部片を転用　両端にキザミ　周縁部研磨　RL の単節縄文	確認面	PL13
DP29	土器片錘	5.3	2.8	1.4	－	18.8	長石・石英・雲母赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　RL の単節縄文	確認面	PL13
DP30	土器片錘	4.6	3.3	1.1	－	20.1	長石・石英	両端にキザミ　周縁部研磨　RL の単節縄文	SD １	PL13
DP31	土器片錘	4.7	4.1	1.1	－	20.0	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　沈線文	確認面	PL13
DP32	土器片錘	3.8	3.8	0.9	－	14.7	長石・石英	両端にキザミ　周縁部研磨　LR の単節縄文	確認面	
DP33	土器片錘	3.3	3.0	1.3	－	13.2	長石・石英・赤色粒子	両端にキザミ　周縁部研磨　無文	確認面	
DP34	土器片円盤	(5.4)	(2.7)	1.2	－	(15.3)	長石・石英	周縁部研磨　一部欠損　有孔　RL の単節縄文	確認面	
DP35	土器片円盤	(5.3)	(3.2)	1.1	－	(16.1)	長石	周縁部研磨　一部欠損　内面から穿孔を施す　RL の単節縄文	表土	
DP36	土器片円盤	4.9	4.9	1.2	－	26.9	長石・石英	周縁部研磨　RL の単節縄文	確認面	PL14
DP37	土器片円盤	4.2	3.9	1.0	－	15.6	長石・石英・赤色粒子	周縁部研磨　沈線文　LR の単節縄文	確認面	PL14
DP38	土器片円盤	4.1	3.9	1.1	－	20.2	長石・石英・赤色粒子	周縁部研磨　RL の単節縄文	確認面	PL14
DP39	土器片円盤	3.5	3.7	1.1	－	12.8	長石・石英	周縁部研磨	確認面	PL14
DP40	土器片円盤	3.2	3.3	0.9	－	10.5	長石・石英	周縁部研磨　RL の単節縄文	SI11	
DP41	土器片円盤	1.5	1.6	0.7	－	1.9	長石・石英	周縁部研磨	確認面	PL14
DP42	管状土錘	1.8	0.9	－	0.35	1.2	長石	一方向から穿孔	SK33	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q ９	石鏃	1.7	(1.3)	0.5	(0.6)	チャート	両面押圧剥離　凹基無茎鏃	SK127	PL16
Q 10	磨石	(9.2)	(5.4)	5.8	(340)	デイサイト	両面・側面に使用痕　敲石併用	確認面	PL16
Q 11	石錘	6.5	6.0	1.1	59.0	閃緑岩	扁平な楕円礫を素材　長径方向に抉り調整を施す	SD １	PL16
Q 12	砥石	7.8	4.3	3.2	147	珪藻質泥岩	５面を使用	確認面	PL16

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
M２	天秤針ヵ	3.2	3.0	0.5	6.7	銅	基部に２段の溝と円孔　円孔に針金残存　断面楕円形	確認面	

第４節　ま　　と　　め

児松遺跡は，平成18年度に行われた第１次調査において，縄文時代の竪穴住居跡１軒，陥し穴１基，土坑１基が確認されており，台地の広がりや遺構の分布状況から，集落は北西方向に延びるものと想定されている[1)]。今回の調査では，新たに縄文時代の竪穴住居跡４軒，土坑19基，弥生時代の竪穴住居跡７軒，古墳時代の竪穴住居跡２軒などが確認でき，縄文時代中期後葉から後期初頭，弥生時代後期，古墳時代前期の集落跡であることが明らかになった。ここでは，住居跡が確認されている時代を中心に，調査の成果を記述する。

１　縄文時代

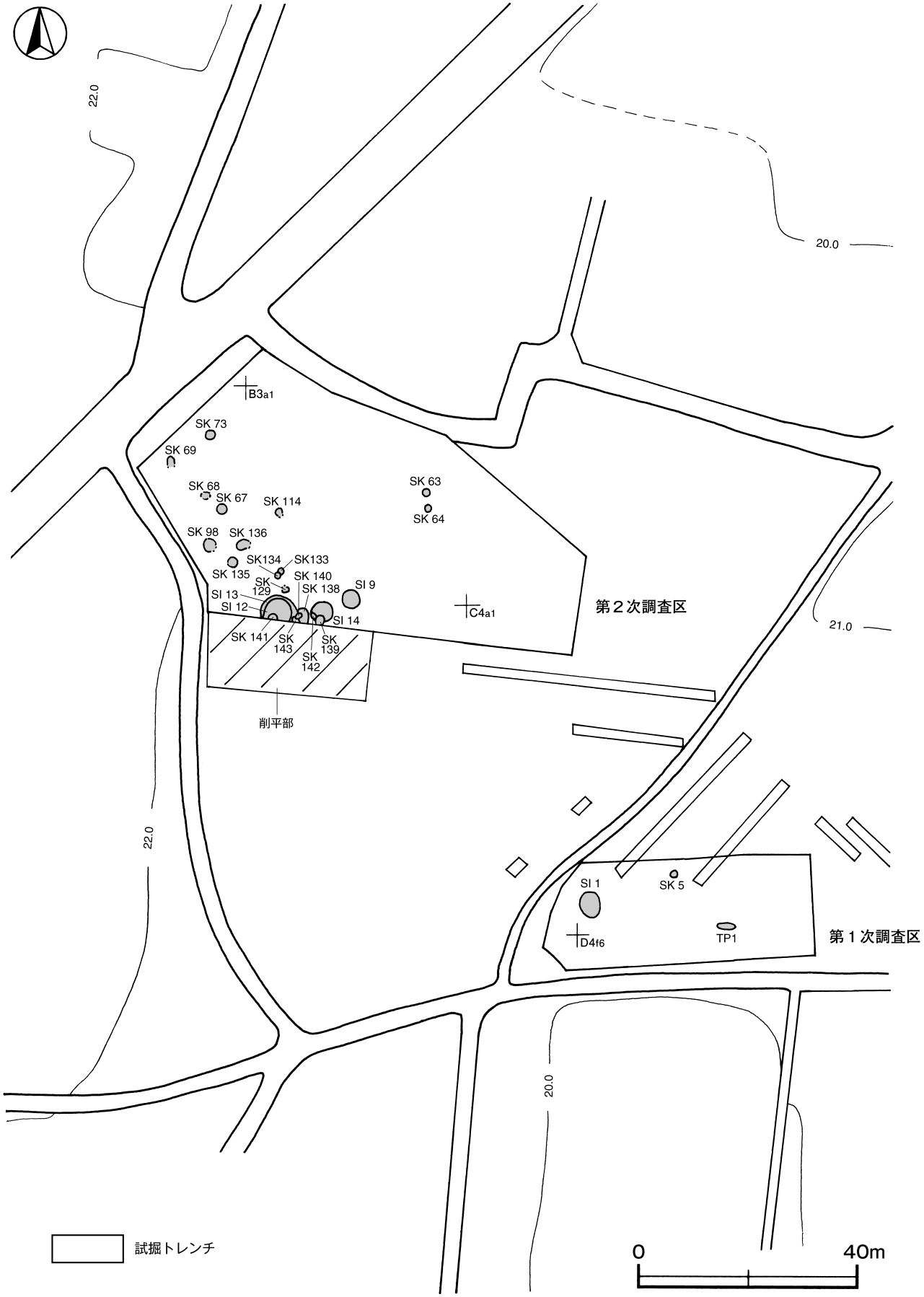
竪穴住居跡は，中期後葉から後期初頭の住居跡４軒を確認した。このうち，出土量が比較的多く，遺存状態が良好な第９号住居跡の土器（第６図）について検討し，時期について考えてみる。

１の深鉢は，土器埋設ピットから出土しており，時期決定の指標となる土器である。南壁際の床面を掘り込み，底部を欠く個体が正位で埋設されており，埋甕として利用されたことが想定される。微隆帯と単節縄文で加飾された把手は円孔を有し，口唇部直下には微隆帯が巡っている。逆Ｕ字文の帯状無文部はせり上がり，口縁部に抜けている。胴部は微隆帯によって文様が描出され，区画内にはLRの単節縄文が充填されている。また，覆土上層から散在して出土している３の深鉢は，微隆帯で区画された文様の下端部が接して，長楕円文になっている。これらの土器は，後期初頭の称名寺Ｉ式に併行する加曽利Ｅ式系の土器群[2)]と考えられ，今回の調査で確認できた当該期の土器の中で，主体を成す土器群である。

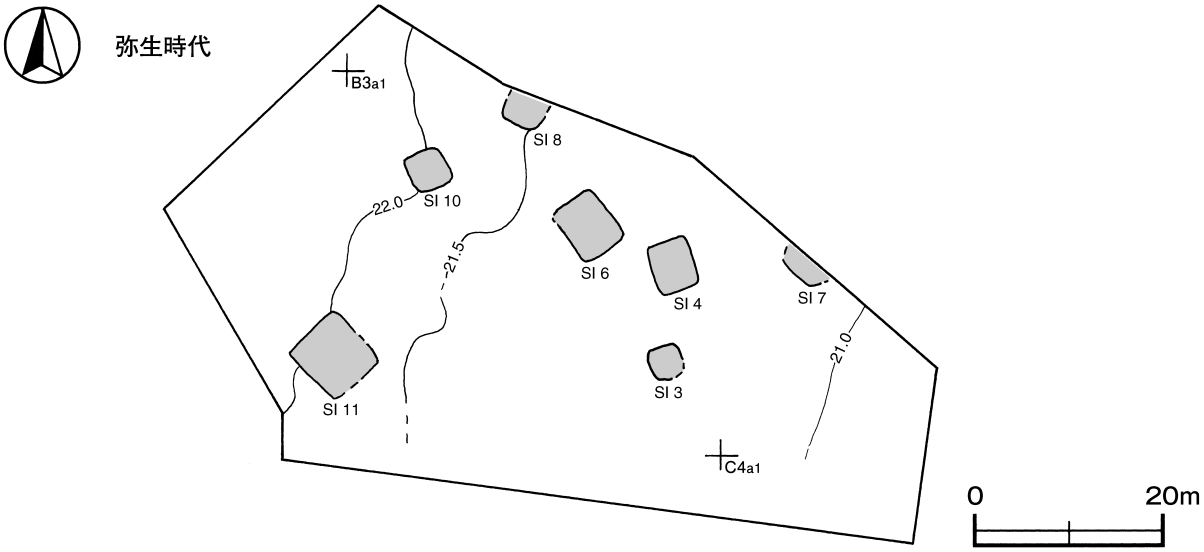
第12号住居跡の炉（第７・８図）は，土器片囲炉である。炉の構築に使用された４の深鉢は，炉床を囲み全周しているが，接合関係では北東部と南西部の相対する位置でそれぞれ確認された破片が接合している。胎土や文様構成から同一個体の土器片が使用されたと考えられるが，接合関係から１個体の土器をそのまま埋設したとは考えにくい。さらに，４の深鉢とは別個体と考えられるTP １～TP ３も炉囲いの土器片として使用されている。当住居跡の炉は一見すると土器埋設炉と認識されるが，上記の点から土器片囲炉として認識されるべきものである。

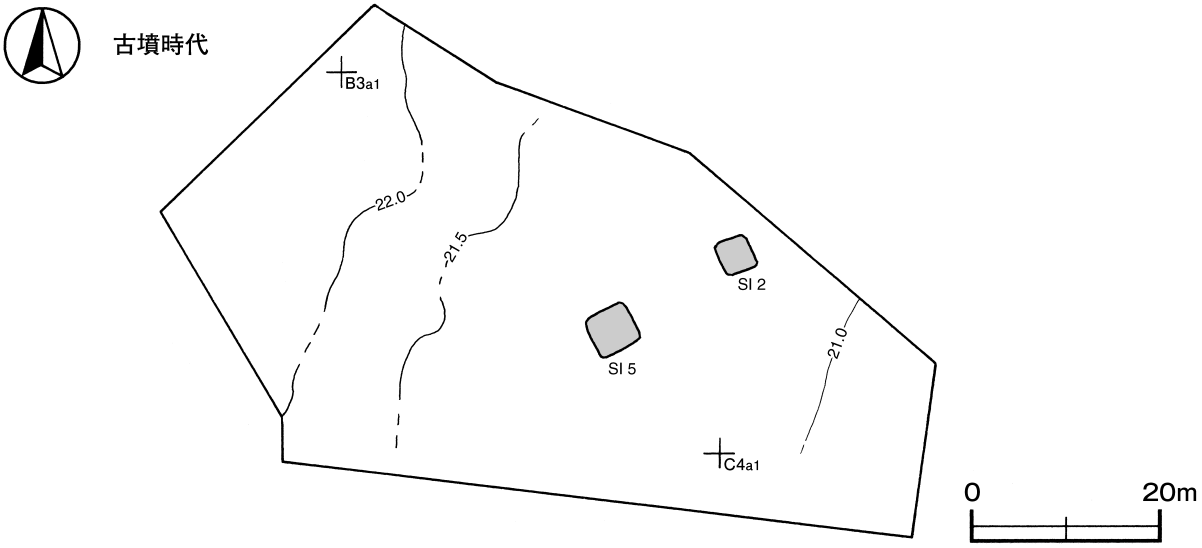
土坑の時期は中期後葉から後期初頭であり，後期初頭（称名寺Ｉ式期）が主体である。第139号土坑の覆土中層からは，投棄された貝が出土している。貝種は鹹水種のハマグリ・シオフキ・サルボウ類であり，当時の霞ヶ浦は太平洋とつながる内海であったことを裏付けている。また表土からの出土も含め，魚網具として土器片錘が多数出土しているが，石錘はわずか１点しか出土していない。これらの遺物からも，内湾性の漁業活動が想定[3)]でき，遺跡の立地する台地周辺まで内海が進入していたことがうかがえる。

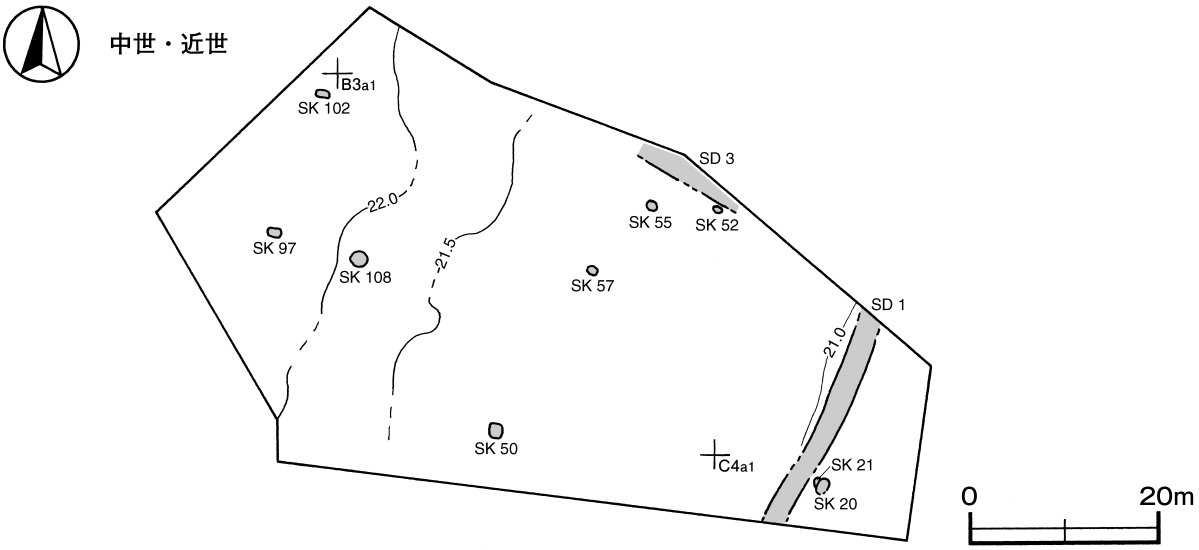
第１次調査で確認された住居跡や土坑の時期は中期後葉と考えられ，今回の調査で確認できた住居跡とは，わずかに時期差が認められる。第１次調査の報告では，台地の平坦面が北西方向に広がっていることから，集落の広がりも同様に展開する可能性を述べている（第66図）。第１次調査区から北西方向約50ｍに位置する今回の調査区では，中期後葉から後期初頭にかけての縄文時代の住居跡と土坑群が確認できたが，両調査区に挟まれた平坦な台地部からは，試掘調査では遺構は確認されておらず[4)]，集落の中心部については再考の余地がある。今回の調査区で確認できた住居跡と土坑群の配置から，居住域と貯蔵域の区別が想定され，集落の外周部にあたることが推測される。地形的な制約を考慮すれば，集落は両調査区の南西側まで広がりを持ち，中心部は同方向に存在したと考えることが自然であろう。



第 66 図　縄文時代の遺構分布図







第 67 図　弥生時代，古墳時代，中世・近世の遺構分布図

2　弥生時代

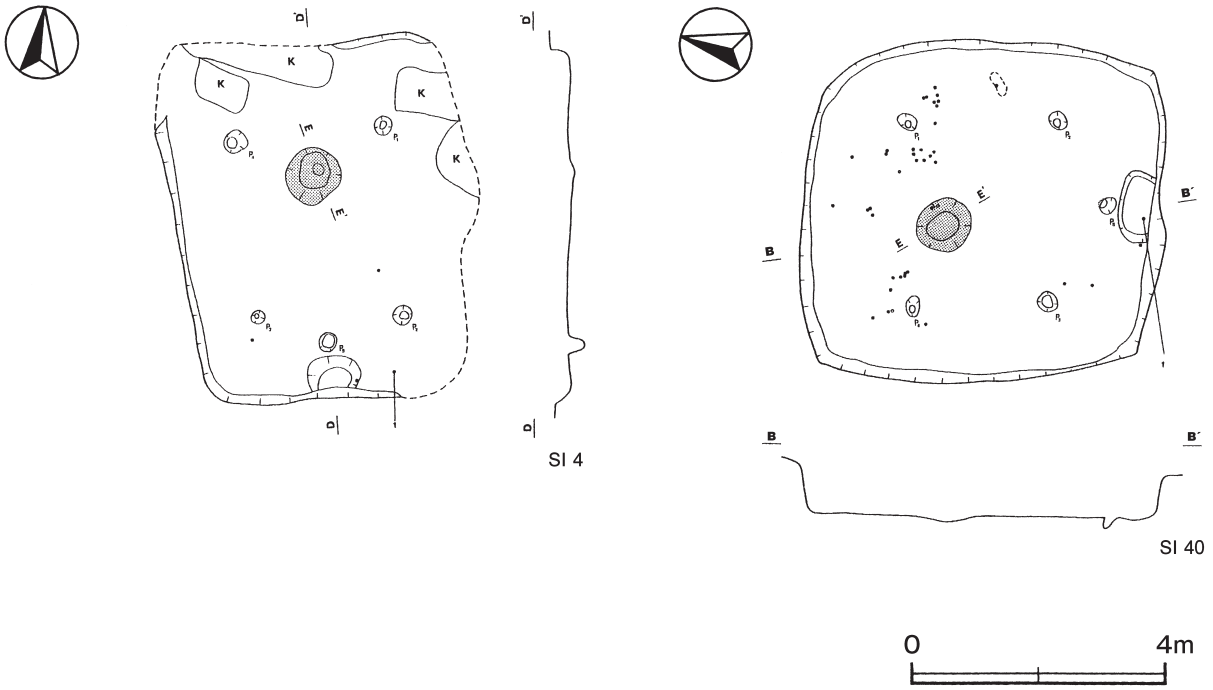
後期前葉を主体とする竪穴住居跡７軒を確認した。出土土器は，頸部に縦方向の区画を有する土器（19・TP36・TP38・TP43 ～ TP45）が主体であり，２～５本の櫛歯状工具によって施文されている。これらの土器から時期は後期前葉[5]と考えられるが，19 の壺のように５本の櫛歯状工具を使用するなど多条化の傾向にあり，２段の複合口縁を有する新しい様相を示す土器も存在している。

住居跡は，３～ 16 mの間隔で南北に並んでいる（第 67 図）。住居の規模や主軸方向など規格性はあまりみられないが，隅丸長方形又は隅丸方形の住居跡からは，概ね炉を中心として（長）方形に配置された主柱穴と壁際から出入り口施設に伴うピットが確認されている。第６号住居跡の南東壁際からは，深さ 12cmほどの半円形状の凹みが確認されており（第 36 図），当遺跡の所在する小野川流域に同じく位置する長峰遺跡の調査例（第 68 図）から，貯蔵穴の可能性が考えられる[6]。限られた範囲の調査であるが，住居間の重複もみられず，出土土器にもあまり時期差がないことから，１世代程度の短期の集落であったとみられる。

3　古墳時代

前期の竪穴住居跡２軒を確認した。出土土器は，土師器（椀・器台・鉢・壺・甕）であり，小形坩は器種構成に含まれていない。甕類は器形を復元できる個体が少なく，平底甕のみが確認されている。第２号住居跡から出土した器台（第 45 図－ 28）は，受け部が比較的小さく，脚はハの字状に広がっており，受け部の径に対して器高が低く，全体として扁平な印象である。これらの土器様相から，第２号住居跡の時期は，前期前半と考えられる[7]。出土土器からは時期を明確にできなかった第５号住居跡も，第２号住居跡と比較して住居構造の点では若干の違いが見られるものの，主軸方向がほぼ同一の N － 22° ～ 25° － W であり，同時期に存在した可能性が高い（第 67 図）。

また，第５号住居跡の覆土中層から上層にかけて，投棄された貝（ヤマトシジミ）が出土している。縄文時代後期初頭の第 139 号土坑からは，前述したように鹹水種のハマグリ・シオフキ・サルボウ類が出土して



第 68 図　長峰遺跡第４・40 号住居跡実測図（註６文献より）

いるが，ヤマトシジミは汽水域に生息する貝種であり，霞ヶ浦の淡水化が進行していく様相がうかがえる。確認された貝の総量は多くはなく断片的な情報ではあるが，ヤマトシジミは大形のものが多く確認されている。捕獲圧が低く，比較的広い魚場を有していたことが想定される。

弥生時代及び古墳時代の住居跡で共通する要素として，硬化面が中央部を除く壁際から確認されていることがあげられる。これは当遺跡の住居跡における特徴的な要素であり，住居内における空間利用の違いによって起因するものと考えられるが，この事象に関連づけられる痕跡は他に認められず，今後の調査例の増加を待って検討したい。

4　中世・近世

墓坑の可能性がある土坑９基と溝跡２条を確認した。墓坑の可能性がある土坑は，覆土が埋め戻されており，またその形状から墓坑を想定しているが，出土遺物が少なく，時期を明確にすることは難しい。同様に溝跡についても時期判断は難しいが，第１・３号溝跡は走行方向がほぼ直交し，形状も類似する点が多いことから，同時期に存在したものと考えられる（第67図)。墓坑の可能性がある土坑群と溝跡が同時に存在したか否かは，出土土器から判断することは難しいが，第１・３号溝跡はほぼ直交して確認されていることから，本来は土坑（墓坑）群を区画する溝であったことが想定できる。

以上のように，当遺跡は縄文時代中期後葉から後期初頭にかけて集落が形成されたのち，しばらく断絶があり弥生時代の後期前葉になると再び集落が形成されている。比較的短い断絶期間をはさんで古墳時代前期には三度集落が形成されているが，当遺跡の範囲はさらに北東側に広がっており，断絶期としている時期の住居跡が，そこに存在している可能性は否定できない。また，中世・近世においては，墓坑の可能性がある土坑や区画溝の存在から，墓域としても利用されていたことが想定されることを付け加えておきたい。

註

1）本橋弘巳「中峰遺跡　児松遺跡　一般国道468号線首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第286集　2008年３月

2）谷藤保彦・関根愼二編集『第20回縄文セミナー　中期終末から後期初頭の再検討』縄文セミナーの会　2007年２月

3）渡辺誠『縄文時代の漁業』雄山閣　1973年２月

4）平成18･19年に，茨城県教育委員会によって行われた試掘結果による。報告によれば，第２次調査区の南側は土取りのため，大きく削平されていたことが記載されている。

5）小玉秀成「高浜入り周辺の弥生時代遺跡群」『茨城県考古学協会誌』第９号　茨城県考古学協会　1997年５月
小玉秀成「常総地域における弥生土器編年の大枠」『霞ヶ浦沿岸の弥生文化　土器からみた弥生社会』霞ヶ浦郷土資料館　1998年８月

6）中村幸雄・後藤義明「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書19　長峰遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第58集　1990年３月

7）浅井哲也「茨城県における古墳時代前期の土器」『領域の研究－阿久津久先生還暦記念論集－』2003年４月

参考文献

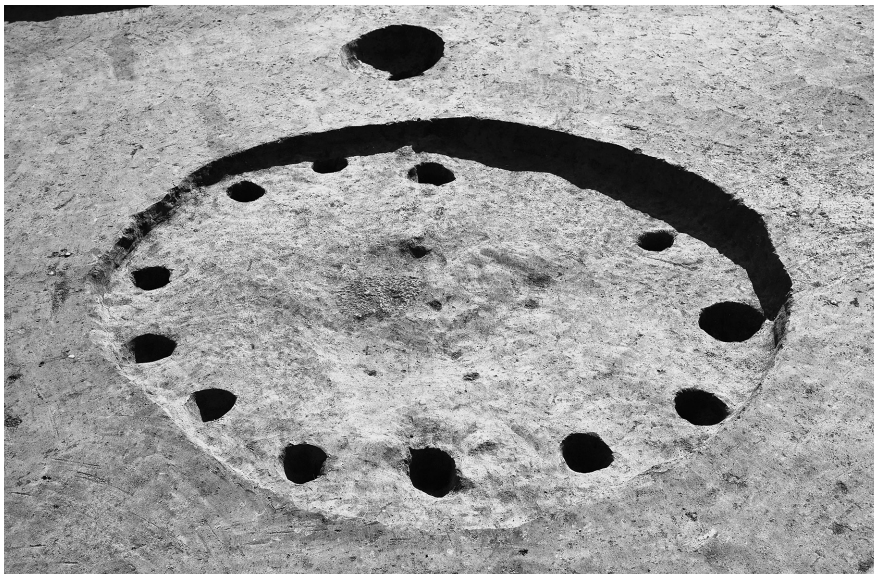
江戸崎町史編さん委員会『江戸崎町史』江戸崎町　1997年３月
鈴木素行・中村哲也・小松崎恵子・色川順子「茨城県における縄文時代中期の屋内炉」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会　2005年10月
米澤容一「貼床と硬化面」－構造物としての貼床と使用痕跡としての硬化面－『土壁』第11号　考古学を楽しむ会　2007年５月

写　真　図　版

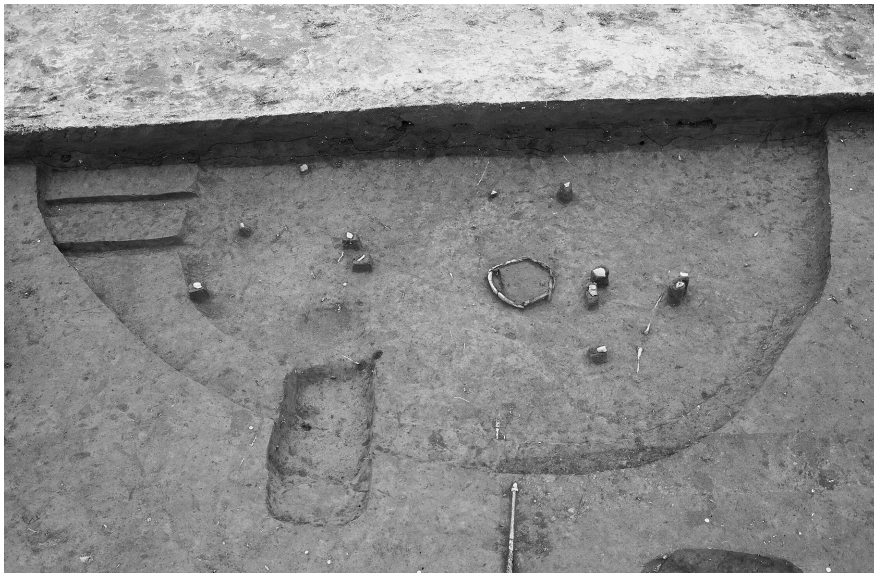
調査区遠景（南側上空から）

調査区全景

第９号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



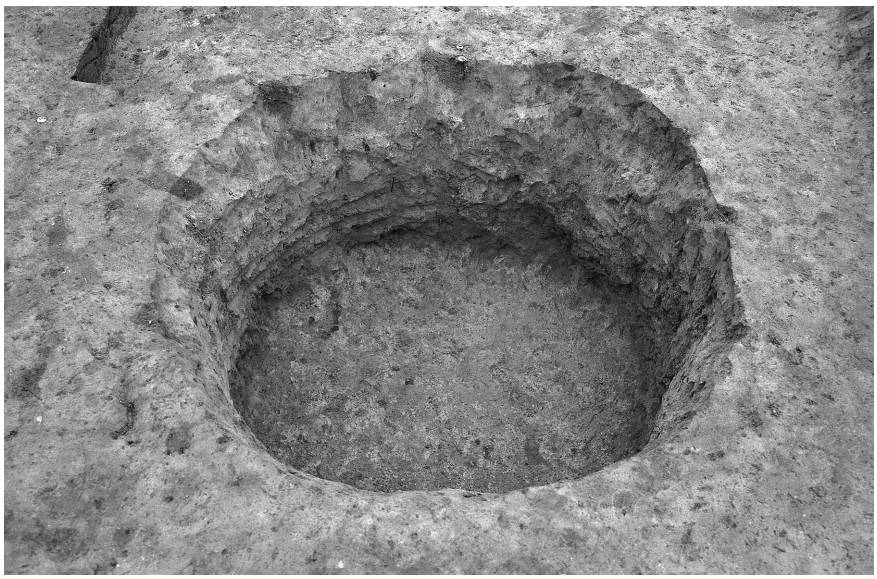
第９号 住 居 跡
完 掘 状 況



第12号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

第12・13号住居跡
完　掘　状　況

第14号住居跡
完　掘　状　況



第63号土坑
完　掘　状　況

第 64 号　土　坑
完　掘　状　況

第 67 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 73 号　土　坑
遺 物 出 土 状 況

第 73 号 土 坑
完 掘 状 況

第 98 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

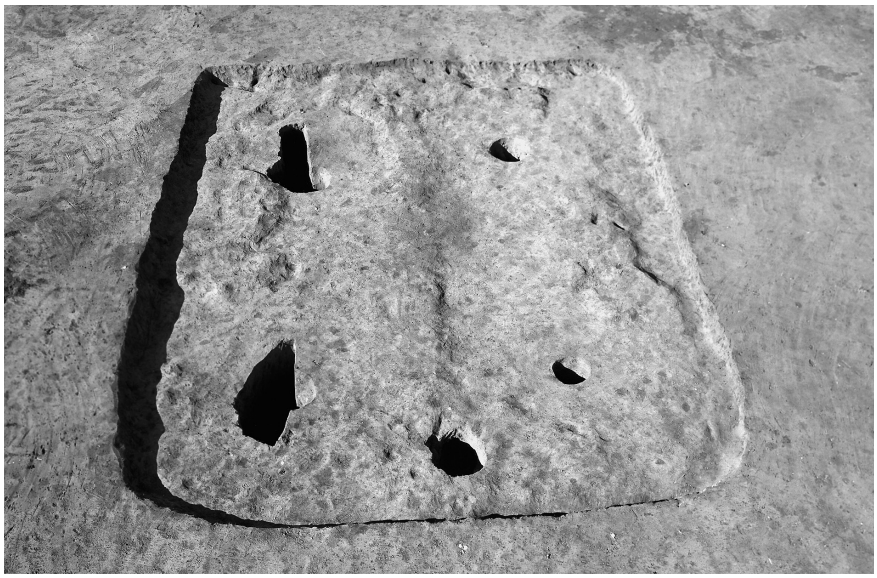
第 98 号 土 坑
完 掘 状 況

第 135 号 土 坑
完 掘 状 況

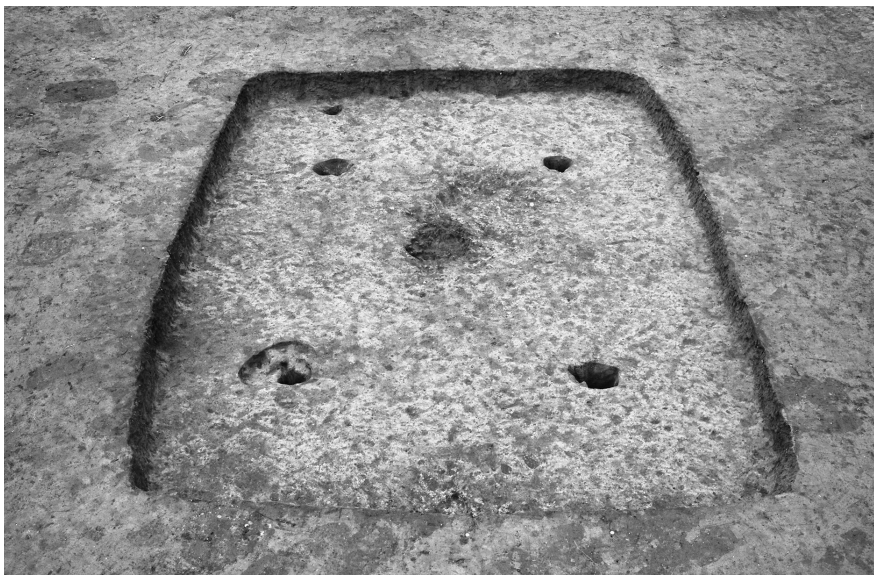
第138・140号土坑
完 掘 状 況

第 139 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況

第３号住居跡
完掘状況



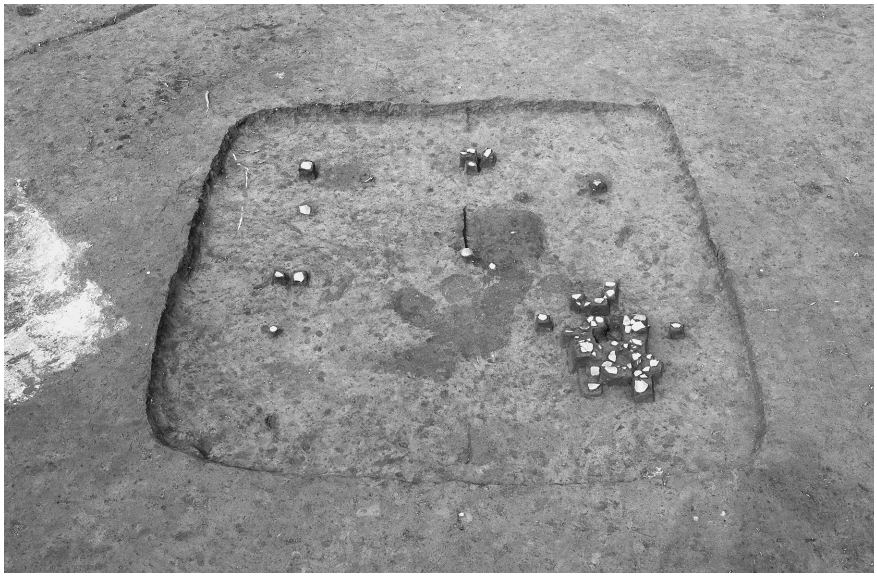
第４号住居跡
完掘状況



第６号住居跡
完掘状況

第８号住居跡
遺物出土状況

第８号住居跡
完掘状況

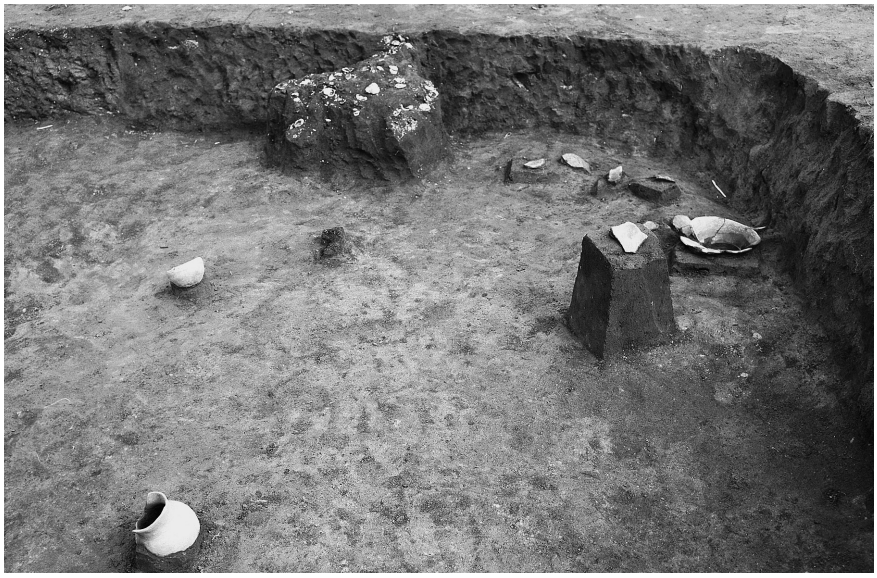


第10号住居跡
遺物出土状況

第10号住居跡
完掘状況

第11号住居跡
完掘状況

第2号住居跡
遺物出土状況



第５号住居跡
遺物出土状況

第５号住居跡
完掘状況

第52号土坑
遺物出土状況

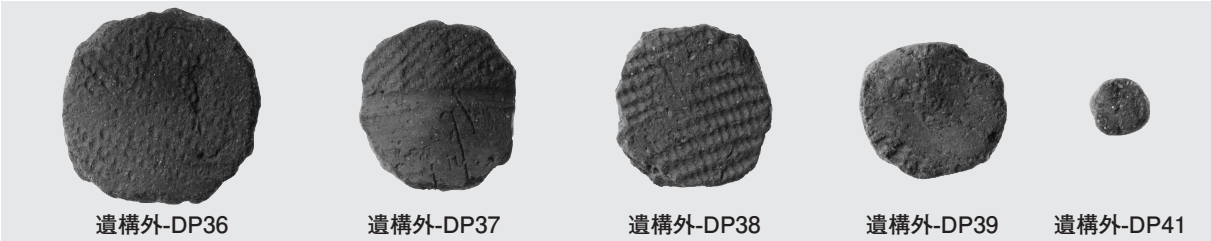
第 55 号 土 坑
完 掘 状 況

第 108 号 土 坑
完 掘 状 況

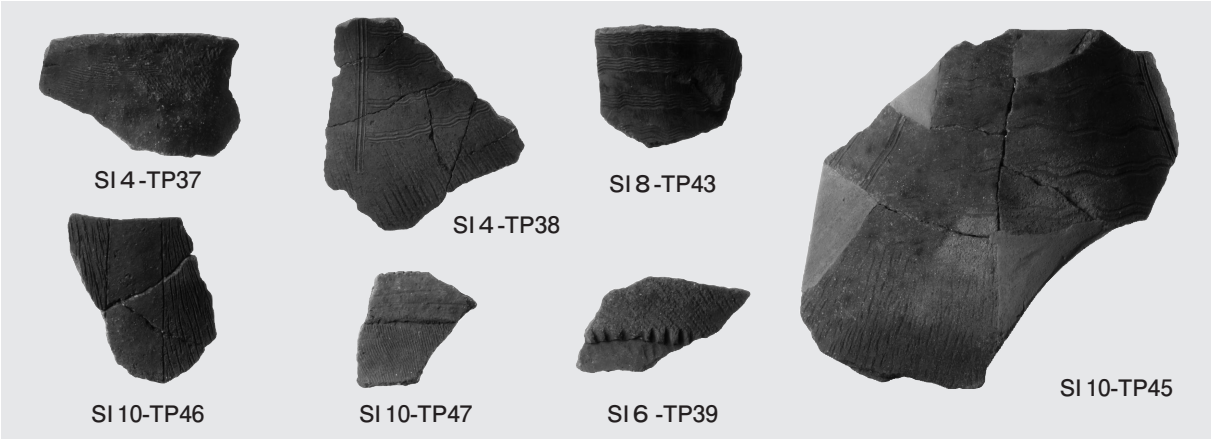
第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況

第９号住居跡，第73・98・136・143号土坑出土土器

第９号住居跡，第67・68・98・133・136・138・139号土坑，遺構外出土土器，土製品（土器片錘）

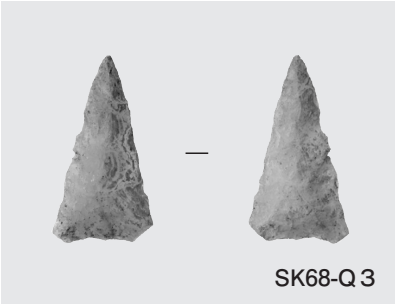


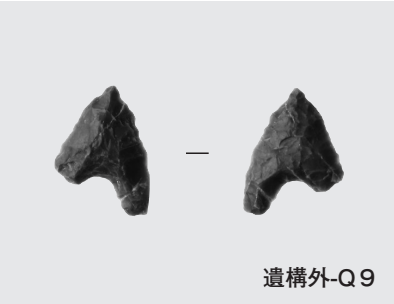
土製品（土器片円盤・紡錘車），第３・６・８・10号住居跡出土土器

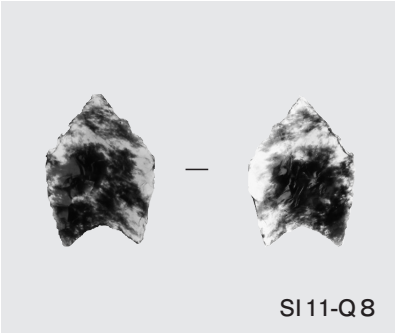


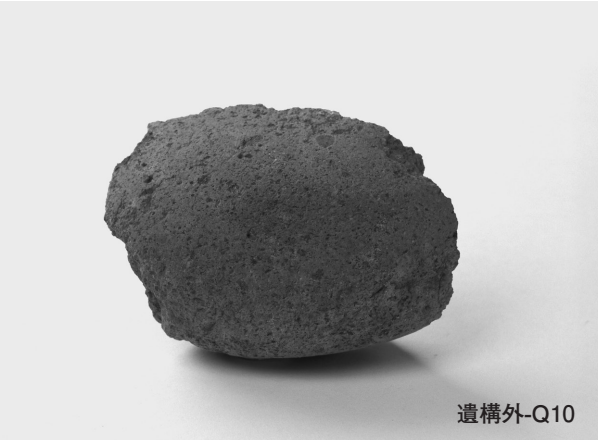
第２・４・５・６・８・10号住居跡出土土器，土製品（土玉・管状土錘）

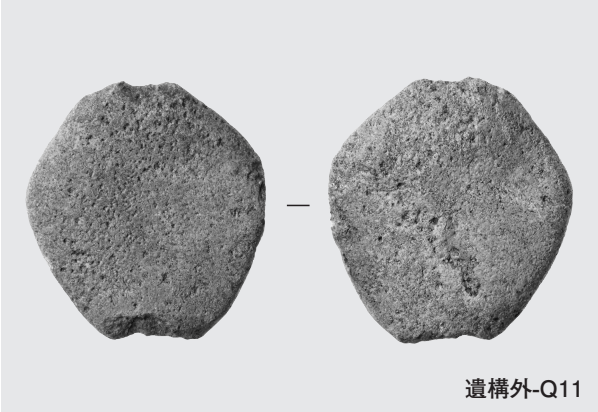
PL16











石器（石鏃・敲石・凹石・磨石・石錘・砥石），銭貨，ガラス製品（小玉）

抄　　録

ふりがな	こまついせき
書　　名	児　松　遺　跡　2
副　書　名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第351集
著　者　名	小川貴行　松林秀和
編集機関	財団法人茨城県教育財団
所　在　地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　ＴＥＬ 029－225－6587
発　行　日	2012（平成24）年3月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
児松遺跡（こまついせき）	茨城県稲敷市江戸崎字原乙460番地ほか（いばらきけんいなしきしえどさきあざはらおつ）	08229－441037	35度56分54秒	140度18分44秒	20～23 m	20090201～20090331 20090701～20090731	1,551 ㎡ 1,080 ㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
児松遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡　4軒 土坑　19基	縄文土器，土製品（土器片錘・土器片円盤），石器（石鏃・磨石・敲石），貝（ハマグリ・シオフキ）	
		弥生	竪穴住居跡　7軒	弥生土器，土製品（紡錘車），石器（石鏃・敲石・凹石），ガラス製品（小玉）	
		古墳	竪穴住居跡　2軒	土師器，土製品（土玉），貝（ヤマトシジミ）	
	墓域跡	中世・近世	墓坑の可能性がある土坑　9基 溝跡　2条	土師質土器，陶器，磁器，銭貨（元祐通寶）	
	その他	時期不明	土坑　108基 溝跡　2条	陶器，磁器，石器（石錘・砥石），金属製品（天秤針ヵ）	

要　　約	当遺跡は，縄文時代中期後葉から後期初頭，弥生時代後期，古墳時代前期の集落跡であることが明らかになった。また，中世・近世の墓坑の可能性がある土坑，溝跡が確認されており，中世・近世においては墓域として土地利用されていたことが想定される。

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows 7
		Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS5
	Scanning	6×７film　Nikon SUPER COOLSCAN9000
		図面類　EPSON ES-10000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写　　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第351集

児　松　遺　跡　２

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成24（2012）年　3月14日　印刷
平成24（2012）年　3月16日　発行

発行　財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　（有）川田プリント
〒310－0041　水戸市上水戸４丁目６－53
TEL　029－253－5551